「八幡史学館」資料 第13シリーズ 平成30年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
	昭和３０年度 八幡公民館主催事業「八幡史学館」ポスター				
	平成３０年度 八幡公民館 主催事業一覧表				
	平成３０年度 八幡公民館 サークル一覧表				
	八幡公民館主催事業「八幡史学館」第１３シリーズ				
1	◎	第１回講座＝八幡公民館70年の黎明	平成30年6月5日	山岸弘明	ＰＰ説明
		八幡公民館は６月27日創立70周年を迎えます			
		八幡公民館年表、境内配置図、平面図、公民館新聞、昭和34年利用日誌、新公民館完成、リニューアル工事、公民館だより			
		ダイジェスト1948―2,010八幡町と八幡公民館、黎明70年ものがたり			
		1)始めに「八幡宿」ありき、２)八幡の旧家・市川本店～第13代戦後第1代八幡町長＝市川石三、3)八幡公民館なくして八幡の戦後は語れない			
		～戦後第2代町長＝菅野儀作、４)始関派選挙違反で辞職～戦後第3代町長・鈴木貞一、5)初めての投票選挙で町長に復帰～戦後第4代・鈴木敬介			
		6)海岸埋立てと市原市制期の町長～第1代市原町長・宮吉長門、7)市原市の発展期を開く～第1代市長・鈴木貞一、8)明日への飛翔			
		菅野・白鳥、絶妙コンビが生んだ傑作公民館。幻の「公民館新聞」～旧市原町文書から発見。古写真や天上絵などを保存～公民館の			
		スライドショー 八幡公民館 創立７０年の黎明			
2	◎	第２回講座＝地名からみた古代の市原	平成30年7月3日	宮本敬一	ＰＰ説明
		市原の古代郷名について			
		古代市原・海上2郡の郷に関する諸説			
3	◎	第３回講座＝八幡と飯香岡八幡宮	平成30年8月7日	平澤牧人	ＰＰ説明
		鎮座伝承よりみた飯香岡八幡宮			

		はじめに、①飯香岡八幡宮の縁起書、飯香岡八幡宮由緒本記、御伝記、市東荘八幡宮御縁起、八幡町八幡宮			
		御伝記、宝暦12年後留記、明治3年神社由緒取調差出帳、②鎮座伝承、国号起源説話、日本武尊伝承、			
		漂着神伝承、神体山伝承、③市原八幡宮、市原別宮から市原八幡宮の成立む、市原八幡宮の発展、応安、応永			
		の社殿造営、④足利義満のみこし奉納と足利義政の社殿造営、至徳元年のみこし寄進、長禄3年の社殿造営、			
4	◎	第４回講座＝海苔養殖の1年(八幡浦・五所浦)	平成30年9月4日	佐倉東雄	
		海苔の諸道具(市原市立埋蔵文化財センター所蔵)、			
		八幡・五所海苔浦概略図(舟道略す)、君塚の浦、村田町の浦、1～6番線、イ～ホ、金杉川、北川(五所)、			
		新田川(南新宿)、南御舟溜(南町)、浜本町澪(浜本町＋本町使わせてもらっていた)、観音町、雁田川			
	◎	第4回＝菊間入封150年「菊間藩から千葉県へ」	平成30年9月4日	山岸弘明	ＰＰ説明
		明治150年、菊間水野藩入封150年　「一夜にして出現、夢幻に消えた菊間城(藩庁舎、陣屋)」			
		明治維新と菊間藩関係年表、水野家系図、菊間関係地図			
		①将軍外戚の名門＝沼津菊間水野家、②近世石垣の沼津城から土造りの陣屋へ、③未完成のまま廃城			
		～謎多い菊間城縄張り			
	八幡公民館主催事業ほか「史学館関連講座」				
5		古事記「国譲り神話」を読む(3回シリーズ)	平成30年5月	平澤牧人	
6		男の講座「市原市を訪れた歴史上のヒーロー・ヒロイン	平成30年12月9日	小関勇次	ＰＰ説明
7		江戸と千葉研究会「千葉市域臨海地帯の社会と空間」	平成30年3月16日	今井公子ほか	
		第1部　ミニ巡見「浜野・生浜地区を歩く			

平成30年度　八幡公民館主催事業　5月18日（金）より先着受付

第13シリーズ

八幡史学館

50名募集

八幡公民館創立70周年に伴い、記念講座内容になっています！

回	月日	内容	講師
1	6月　5日	八幡公民館創立70周年 「八幡公民館の黎明」 （昭和後期16ミリ映画上映）	山岸弘明氏
2	7月　3日	地名からみた 古代の市原	宮本敬一氏
3	8月　7日	八幡と飯香岡八幡宮 （飯香岡八幡宮の 創建伝承について）	平澤牧人氏
4	9月　4日 （講師2名による講座）	八幡の海苔養殖の1年 菊間藩入封150年 「菊間藩から千葉県へ」	佐倉東雄氏 山岸弘明氏

今年度は、4回講座です。全ての回に参加できる方を対象とします。

曜日・時間　すべて火曜日・午前9時30分から11時30分

場所　視聴覚室

参加費　無料

持ち物　筆記用具

問い合わせ
八幡公民館
（41）1984

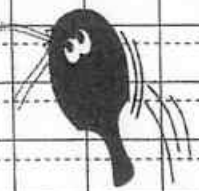
八幡町公民館

平成30年度 八幡公民館 主催事業一覧表

☆募集のお知らせは、広報いちはら15日号に掲載
☆申し込みは、18日朝8:30より窓口または☎(41－1984)にて開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります。
平成30年3月12日 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員 (場所)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9月18日	25	お元気体操・秋	3	地域包括支援センターふるさと 介護予防の知識を得たり、体操をして身体と気持ちの若返りを図る。	9:30 ～ 11:30 60歳以上・30名							15 22 29 月 月 月					
	26	卓球教室人材育成	1	寺尾泰文 小学生卓球教室で指導する人材を育成する。	9:30 ～ 11:30 中学生・卓球クラブ							9 火					
	27	小学生卓球教室	2	近隣の中学生 簡単な卓球のルールを知ってゲーム行い、体を動かしながら楽しく交流する。	9:30 ～ 11:30 小学生20名							13 14 土 日					
	28	秋に歌おう	1	両角八重子 秋にふさわしい懐かしい歌をみんなで楽しく歌い、気分のリフレッシュを図る。	9:30 ～ 11:30 一般成人40名							24 水					
10月18日	29	はじめてのズンバ	4	佐々木春江 ちょっと激しい運動を求めている方がラテンの音楽に乗って体を動かし、心身共に健康を図る。	14:00～16:30 一般成人・25名								3 10 17 24 土 土 土 土				
	30	クリスマスローズ	1	柳池 繁 今、育てやすいと人気のあるクリスマスローズ。その育て方を知って実際に苗植えを作ってみる。	9:30 ～ 11:30 一般成人・10名								5 月				
	31	房総地理歴史散歩	3	鎌田正男 自然がもたらした地形や風土の特色、そこに暮らしてきた人々の歴史を学ぶ。	13:30 ～ 15:30 一般成人・30名 抽選								9 16 金 金	バス研 7 金			
	32	筆ペン教室	2	南部記代子 年賀状作成に向けて筆ペン文字の練習をし、アイデアを生かした自分だけの年賀状を作る。	13:30 ～ 15:30 一般成人・15名								27 火	11 火			
	33	古布で飾り雛	3	川井清智子 古布を使って飾り雛作りを楽しみながらエコ意識を高める。	9:30 ～ 11:30 一般成人・20名								28 水	5 12 水 水			
11月18日	34	アロマテラピー	1	前塚裕美 アロマの効能を学び、自分の好みの香りでハンドクリームとボディオイルを作る。	9:30 ～ 11:30 一般成人・10名									6 木			
	36	男の講座	3	小関勇二 他 男性のための講座で、歴史、植生講座とそば打ちの体験をする。	9:30 ～ 11:30(12/16は9:00～13:00) 男性・16名									歴史 そば 植生 9 15 20 日 日 木			
	35	正月料理	1	木村みどり 手軽にできるおせち料理の作り方を学び、レパートリーを増やす。	9:30 ～ 13:00 一般成人・20名									14 金			
	37	書き初め教室	2	鍋島恵美子 筆の書き初め教の習練を練習し、文字や字配りの上達を目指す。	9:30 ～ 11:30 小学3年～6年・25名									22 23 土 日			
	38	フラワーアレンジメント(正月)	1	松濱忍 お正月のための簡単なフラワーアレンジメントを作る。	13:30～15:30 小学生から一般成人・20名									27 木			
12月18日	39	シニアスマホ教室	1	KDDI スマートフォンの基礎的な機能や操作方法を知る。	13:30 ～ 15:30 60歳以上・20名										10 木		
	40	園芸プロの技	1	市原市農業センター プロが持っている園芸の技術を学び、日常に活かす。	9:30 ～ 12:00 成人・20名 (農業センター)										15 火		
	41	手作りウインナー	1	西野浜一 手作りのウインナーの作り方を、プロに教わる。	9:30 ～ 13:00 成人・20名										23 水		
1月18日	42	初級シニア卓球	2	寺尾泰文 卓球のゲームを楽しみながら、健康増進と参加者同士の交流を持つ。	13:30 ～ 15:30 60歳以上・20名											4 18 月 月	
	43	アイシングクッキー	1	中島弘子 バレンタインデーに向けてクッキーをデコレーションする。	9:30 ～ 11:30 小学生から成人・20名											9 土	
	44	9つの性格タイプ ～エニアグラム～	3	神田宏子 人の性格のタイプを知って、人とのより良いコミュニケーションや信頼関係を築いていく。	13:30～15:30 子育ての人から成人・20名											10 17 24 日 日 日	
	45	太巻き寿司	1	上田悦子 太巻き寿司の作り方を知り、郷土料理への関心を高める。	13:00 ～ 15:30 成人・16名											21 木	
	46	押し花アート	1	戸島松子 押し花を使ってはがきや飾り物を作り、生活に彩りを加える。	9:30～11:30 成人・10名											28 木	
	47	かがやく女性	3	POLA 他 社会生活と輝く女性を目指し、化粧・美味しいお茶の入れ方・色彩教室で学習し、生活を彩る。	9:30～11:30(2/28は10:00～11:30) 女性・16名											色彩 化粧 23 26 土 火	お茶 7 木
募集なし	48	福寿大学	5	健康で生きがいのある生活を目指し、学習を通じて仲間づくりを図る。	13:30 ～ 15:30 シニア会員・100名		クラウンドゴルフ 30 水		健康講座 7 土		講演会 28 金				お楽しみ会 21 月		バス研 上旬

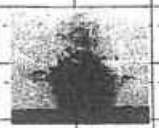


平成30年度　八幡公民館　主催事業一覧表

☆募集のお知らせは、広報いちはら15日号に掲載
☆申し込みは、18日朝8．30より窓口または☎(41－1984)にて受付開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります
平成30年3月12日　現在

受付日	No	講座名	回数	講師名　内容	時間　対象・定員（場所）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3月18日	1	初級ヨーガ教室	4	森山和美 ヨーガの基礎を学び、心と体の活性と健康増進を図る。	18.00 ～ 19.30 一般成人・25名	2 9 16 23 月 月 月 月											
	2	写経入門	4	河津正雄 般若心経の説明を聞いて、それを写経することで得られる心の落ち着きを体感する。	9.30 ～ 11.30 一般成人・20名	4 11 18 25 水 水 水 水											
	3	エコブローチ	1	高見千賀 身の回りにある新聞紙を使って、手軽にできるブローチを作る。	9.30 ～ 11.30 小学生から成人まで20名	15 日											
	4	お元気体操・春	3	地域包括支援センターふるさと 介護予防の知識を身たり体操をしたりして、身体と気持ちの若返りを図る。	9.30 ～ 11.30 60歳以上・30名	20 27 金 金	11 金										
直接	5	お話し広場	20	お話ボランテイア 読み聞かせを通じて本に親しみ、知識と豊かな感性を身に着ける。	10.00 ～ 10.40 幼児と保護者、小学生・20名	7 21 土 土	19 土	2 16 土 土	7 21 土 土		1 15 土 土	文化祭 6 20 土 土	3 17 土 土	加藤しみず 1 15 土 土	19 土	2 16 土 土	2 16 土 土
4月18日	6	古事記を読む	3	平澤牧人 古事記を読み、日本の歴史や神話に触れる。	13.30 ～ 15.30 成人・40名		1 15 29 火 火 火										
	7	クラフトバッグ	3	川井満智子 クラフトテープを編み込んで、かごバッグを作る。	9.30～11.30 成人・20名		2 9 16 水 水 水										
	8	夏野菜を育てる	1	柳池　繁 夏野菜の手軽な育て方を学ぶ。	9.30 ～ 11.30 成人・15名		7 月										
	9	フラワーアレンジメント(母の日)	1	松濱　忍 簡単なアレンジメントフラワーを母の日用のプレゼントとして作る。	13.30 ～ 15.30 小学生から成人まで20名		12 土										
	10	陶芸教室	4	根本正男 土に親しみながら陶芸の基礎技術を身に付けて、作品を作る。	13.30 ～ 16.00 成人・15名		25 金	8 金	13 金	10 金							
	11	子育てプラス	7	ネウボラセンター　他 様々な活動を通して子育てをする親同士のコミュニケーションを図り、支え合う仲間づくりを目指す。	10.00 ～ 11.30 入園前の子と保護者・12組		生活リズム 28 月	読み聞かせ 14 水	リトミック 2 月	足裏マッサージ 3 金	幼児食 5 水	3B体操 1 月	ネウボラ 8 木				
5月18日	12	八幡史学館	4	山岸弘明　他 地域の歴史を掘り起こし、その背景を学ぶことで地域への理解と愛着を深める。	9.30 ～ 11.30 成人・50名			5 火	3 火	7 火	4 火						
	13	楽しい英語	3	山崎アンバー オリンピック・パラリンピックを目前に、いろいろな人との交流を目指して英語学習を楽しむ。	18.00 ～19.30 成人・20名			6 20 27 水 水 水									
	14	豊かな生活	3	市役所　危機管理課・高齢化支援課 地震が起こる前に、犯罪が起こる前に、介護が始まる前に、準備をきちんと行って不安のない生活を目指す。	9.30～ 11.00 成人・20名			12 19 26 火 火 火									
	15	春に歌おう	1	南角八重子 春にふさわしい懐かしい歌をみんなで楽しく歌い、気分のリフレッシュを図る。	9.30 ～ 11.30 成人・40名			13 水									
	16	簡単クッキング	1	南堀幕子 手軽に作れる麺の料理を学んで、レパートリーを増やす。	9.30 ～ 13.00 成人・20名			22 金									
	17	いきいき八幡塾	3	加藤宏一　他 有機農法や世界遺産の知識を身につけ、バス研修で見聞を広めて、生活に彩りを加える。	9.30 ～ 11.30 成人・30名　抽選			有機栽培 30 土	文学講演 八幡 9 月	20 金							
6月18日	18	夏休みこども塾	4	柳池　繁　他 夏休みにしかできない夜の昆虫観察や科学教室、親子パン作り、バス研修を体験する。	9.30 ～ 11.30 小学3年生以上と保護者・30名				21 29 28.31 土 日 火								
	19	パソコンエクセル中級	2	猪田忠雄 エクセルを使ったことがある人がさらに使いこなすための中級講座で、スキルアップをする。	9.30 ～ 11.30 成人・20名				25 26 水 木								
7月18日	20	一日図書館員	1	湊　浩子 図書館司書の仕事を体験し、図書室やそこで働く人への理解を深める。	9.30 ～ 11.30 小学4～6年・6名					2 木							
	21	インターネット	2	猪田忠雄 知りたい情報を手軽に手に入れる方法として、インターネットの使い方をマスターする。	9.30 ～ 11.30 成人・20名（八幡小）					八幡小 21 22 火 水							
	22	一閑張りバッグ	4	小澤よし子 古文書や和紙を使って、歴史情緒豊かなバッグを作る。	9.30 ～ 11.30 成人・20名					28 火	11 25 火 火	2 火					
8月18日	23	ヒップホップ	6	HAMMER ヒップホップの基礎を学び、地域と共に文化祭での発表を目指す。	17.30 ～ 19.00 小学生・20名						29 30 日 日	文化祭 5 7 金 日					
	24	中級ヨーガ教室	3	森山和美 ヨーガの体験のある人がさらに中級の技術を学び、心と体のふさわしい健康増進を図る。	18.00 ～ 19.30 成人・25名						3 10 24 月 月 月						



平成30年度　公民館サークル一覧

八幡公民館（0436－41－1984）

2018/8/5

No.	サークル名	活動内容	活動週	曜日	時間	部屋	代表者	指導者(講師)
1	ひばり読書会	読書	第4	木	10時～12時	会議室 2	赤沢 千代子	
2	ブックサロン家読		第1	水	9時～12時	会議室 2	伊藤 忠治	
3	千葉友の会	生活勉強	第3	木	10時～15時	会議室 1	菅野 八千代	
4	市原断酒新生会	健康	第1.3	日	9時～13時	視聴覚室	永澤 秀雄	日下 勝
5	中国語会話入門	中国語	第1・2・4	金	13時～15時	会議室 2	竹内 弘明	曹 英
6	中国語生活会話		第2・3・4	木	15時～17時	会議室 2	山中 嘉	桂 雅栄
7	英会話	英語	第1・2・3	水	19時～21時	会議室 2	谷 元吉	ポール ジンクス
8	映画で英語を学ぶ会		第2・4	土	13時～16時	視聴覚室	垣花 克彦	斉藤 達夫
9	日本文化と英会話		第1.3	土	9時～12時	研修室	小林 英司	戸島 昌夫
10	ワールドニューズ英語		第1.3	土	13時～16時	会議室 2	二見 理一	二見 理一
11	美術	絵画	第3 第4	水	18時～20時 16時～19時	研修室	神崎 千恵	安永 晃三
12	彩紅会	油絵	第1・3	水	13時～17時	研修室	曽志崎 和	岡村 順一
13	和紙ちぎり絵	ちぎり絵	第1・3	金	10時～12時	視聴覚室	中平 美枝子	寺田 揚子
14	はがき絵クラブ	はがき絵	第1・3	水	13時～16時	会議室 1	志田 務	宮川 啓子
15	サルビア		第1	木	9時～12時	会議室 1	佐々木 智恵子	高橋 桂子
16	いちはら絵手紙風の会	絵手紙	第3	木	10時～13時	研修室	池田 博明	大月 昭和
17	根っ子の会	陶芸	第2 第4	金	9時～13時 9時～17時	会議室 1	根本 美佐江	根本 正男
18	どろんこ		第1 第3	火	9時～17時 9時～13時	会議室 1	松田 成子	根本 正男
19	石門印会	篆刻	第2	土	13時～16時	会議室 1	菅崎 康孝	湯浅 昭弘
20	創作掛軸	表装	第1	木	13時～17時	会議室 1	土田 美佐子	寺戸 八重子
21	墨瑶	書道	第2・4	木	10時～12時	会議室 1	多田 美智子	安藤 秀峰
22	書道(一)		第2・4	水	10時～12時	会議室 1	松本 安子	蛭田 禮子
23	野菊	ペン習字	第2・4	金	13時～15時	研修室	清野 サト子	南部 記代子
24	ハッピーエコー	合唱	第2・4	金	13時～16時	視聴覚室	高田 明美	倉升 美佐子
25	文化集団 このゆびとまれ		第1・2・3	木	19時～21時	視聴覚室	阿南 信廣	
26	さわやか四季の歌		第3	水	9時～12時	視聴覚室	樋渡 敏男	両角 八重子
27	市原市民ばんど	器楽	第1・2・3	金	19時～21時	講堂	青柳 隆之	田中 雅彦
28	市原フィルハーモニー管弦楽団		第1・2 第4	日 土	13時～17時 17時～21時	講堂	田村 雅彦	小出 英樹
29	六絃会市原	クラシックギター	第1・3・4	水	13時～16時	視聴覚室	山本 寛藤	大塚 一功
30	大正琴フォルテシモ	大正琴	第2・4	土	9時～12時	視聴覚室	三ツ田 ひとみ	前田 房恵
31	民謡 銀杏会	民謡	第1・3	日	9時～12時	研修室	松田 福子	藤野 謡村
32	翠謡会(観世流)	謡曲	第1 第3	土 日	9時～12時 9時～17時	和室 1	鈴木 靖	
33	萌木会	民踊	第1・2・3	土	13時～16時	和室 1	鈴木 博美	鈴木 つね子
34	秀麗会		第1・2・3	金	13時～15時	和室 1	瀬尾 年枝	鈴木 三枝
35	有美会		第1 第2・3	土	9時～12時	講堂 和室 1	大岩 敏子	有泉 直子
36	しらゆり会(専敬流)	生け花	第1・3	金	18時～21時	研修室	鶴岡 久子	寺崎 寿真
37	源氏物語を読む会	古典	第3	金	9時～12時	研修室	馬場 明美	大串 清
38	市原学習会	洋裁	第4	土	9時～15時	会議室 1	増山 幸子	加藤 文子
39	すみれ		第2 第4	水	9時～16時 9時～13時	和室 1	佐々木 みね子	斉藤 ヤス江
40	布夢布夢		第1・3	金	13時～16時	研修室	清治 洋子	小澤 よし子

No.	サークル名	活動内容	活動週	曜日	時間	部屋	代表者	指導者(講師)
41	ツォップ	パン作り	第2・3	水	9時～13時	調理室	伊藤 三喜子	二階堂 ゆうみ
			第2	金				
42	碁友会	囲 碁	第1・2・3	金	13時～17時	和室 2	渡辺 秋二	
43	ロマンス	カラオケ	第2・3・4	木	9時～12時	視聴覚室	吉田 一郎	戸塚 喜代
44	根の会	手 話	第1・3・4	水	18時～21時	視聴覚室	山崎 修二	
45	USB84	パソコン	第1	金	13時～16時	視聴覚室	鴇田 忠雄	
			第2・4		9時～12時			
46	市原笑いヨガクラブ	ラフターヨガ	第1・2	日	9時～12時	和室 1	岩本 隆	塩本 京子
			第3	水				
47	ダンシングオブサンディー	社交ダンス	第1・3・4	日	10時～12時	講 堂	岸 節子	関 清
48	市原ソシアルダンスサークル		第1・2・3	火	19時～21時	講 堂	布施 友男	鮎澤 洋
49	ダンスウイズユー		第1・2・3	火	13時～15時	講 堂	伊藤 功	伊藤 功
50	カサブランカ		第1・2・3	水	19時～21時	講 堂	田中 栄治	内田 武志
51	ケ・セラ・セラ	ウォーキング・軽体操	第1・2・3	金	13時～15時	講 堂	南 節子	市後 信子
52	サンシャイン		第1・2・3	水	13時～16時	講 堂	淀川 節子	市後 信子
53	フレンドリィー	ウォーキング	第1・2・3	月	13時～15時	講 堂	牧野 みどり	市後 信子
54	市原ファミリースクエアーズ	スクエアダンス	第1・2・3	木	17時～21時	講 堂	半藤 功	森口 久江
55	京葉マリーンスクエアーズ		第1・2・3	土	17時～21時	講 堂	佐々木 英明	安野 弘
56	オーシャンウェーブスクエアーズ		第2・4	土	10時～13時	研修室	岡本 保子	秋葉 稔
57	ピリアロハ	ハワイアンフラ	第2・3・4	木	10時～12時	講 堂	鈴木 きよ子	児島 美子
58	宇宙	気功・呼吸法・足もみ	第2・3・4	土	10時～12時	講 堂	山本 美智子	中西 正子
59	エンジョイ ダンス	フィットネス・ダンス	第1・2・3	金	10時～12時	講 堂	鈴木 恵美	佐々木 春江
60	健康体操	操体法	第1・2・3	火	10時～12時	講 堂	津根 佳枝	津根 佳枝
61	花みずき	健康体操	第1・2	木	13時～15時	講 堂	平床 光香	扇谷 ミユキ
62	どりいむ	ストレッチ・有酸素運動	第1・2・3	水	9時～12時	講 堂	荒川 玲子	根本 壽美子
63	楊名時健康太極拳・八幡	太極拳	第2	木	13時～15時	和室 1	板垣 てる	安齊 小夜子
			第3・4		13時～15時	講 堂		
64	オレンジクラブ	卓球(ラージ)	第1・2・3	水	13時～16時	体育室A	鈴木 栄一	横山 直樹
65	かよう会	卓球(ラージ・硬式)	第2・3・4	火	9時～12時	体育室A	浅野 政義	
66	白球会	卓球(ラージ)	第1・2・3	日	9時～12時	体育室A	小針 久吉	
67	活きいき卓球	卓球(ラージ)	第1・2・3	金	9時～12時	体育室A	宍倉 五郎	橋本 和夫
68	あじさい	卓球(硬式)	第2・3・4	土	9時～12時	体育室A	青木 弘子	寺尾 泰文
69	なのはな	卓球(硬式)	第2・3・4	水	9時～12時	体育室A	宮部 アヤ子	
70	スマイル卓球会	卓球(ラージ)	第1・2・3	土	13時～16時	体育室A	木村 マサ子	内田 征二
71	楽生	卓球(硬式)	第2・3・4	火	13時～16時	体育室A	丸山 洋子	寺尾 泰文
72	いしづか	卓球・バドミントン	第1・2・3	木	13時～16時	体育室A	佐藤 昌子	
73	キンコンカン	バドミントン	第1	火	10時～13時	体育室A	石川 智子	
			第2・4			体育室B		
74	ファミリークラブ		第1・3	火	9時～12時	体育室B	立石 哲男	
			第4		13時～16時			
75	チームRIKEN		第1・2・3	水	18時～21時	体育室A	武市 豊久	
76	わかみやクラブ	バレーボール	第2・3・4	木	10時～13時	体育室B	藤芳 敏江	
77	ブラックス	バスケットボール	第1・2・3	土	19時～21時	体育室B	圓山 政樹	
78	クロスオーバーズ		第1	月	15時～17時	体育室B	佐藤 直亮	田中 繁広
					17時～21時	体育室全		
79	市原ユニカールクラブ	ユニカール	第2・3	土	13時～17時	体育室B	森田 栄治郎	
			第4			体育室A		
80	市原バウンドテニスクラブ	室内テニス	第2・3・4	金	13時～16時	体育室A	寺尾 泰文	
81	八幡なぎなた錬誠会	なぎなた	第1・4	土	14時～17時	体育室B	加茂 静	加茂 静
82	行動するガン患者会「アクティブ」	斉唱・ラフターヨガ他	第1	月	13時～16時	視聴覚室	穂坂 憲茂	徳永 馨
				土				

6

八幡公民館指導員様

平成３０年３月８日

「八幡史学館」第13シリーズ企画について

八幡史学館

平成３０年度スケジュール

①６月５日（火曜日）
八幡公民館創立７０周年「八幡公民館の黎明」　山岸弘明
（昭和後期の16ミリ映画＝空からこんにちは～市原市～）

②７月３日（火曜日）
地名からみた古代の市原　宮本敬一

③８月７日（火曜日）
八幡と飯香岡八幡宮　平沢牧人
（飯香岡八幡宮の創建伝承について）

④９月４日（火曜日）
八幡の海苔養殖の１年　佐倉東雄
菊間藩入封150年「菊間藩から千葉県へ」山岸弘明

特別企画（◎印は運営委員会主催）

①１０月　八幡公民館文化祭併催　「八幡公民館創立70周年企画展」
②１２月　八幡宿駅ギャラリー　「八幡公民館創立70周年企画展」◎
③３１年３月　「７０周年記録冊子」

以上

7

平成３０年１月　　日

八幡公民館運営委員会々長様
八幡公民館々長様

「八幡公民館創立７０周年」記念企画について（案）

八幡史学館名所 100 選チーム

１）主催　八幡公民館運営委員会　　必要なら依頼文作成？
　主管　八幡史学館名所１００選チーム
　協力　市原の古文書研究会

２）内容
　八幡公民館創立７０周年企画
　①八幡公民館７０年の黎明（企画展示）
　　１０月　　日～１０月　　日　１階ロビーと壁面で公民館「文化祭」と同時開催
　　１０月　　日～１２月２０日　一部を展示継続
　②八幡宿駅ギャラリー
　　八幡公民館創立７０周年展（企画展示）
　　１２月２１日～１月１０日　　①を中心に再編成

３）企画展の主な内容
　①「祝八幡公民館創立７０周年」タイトルとメッセージコピー
　②初代八幡公民館復元図面と模型（外観とこけら落とし会場風景）
　③菅野儀作と白鳥孝治～八幡公民館を開いた人
　④旧八幡公民館の写真と表彰状
　⑤浅見喜舟先生「八幡町建設の詩」「座右の銘」板戸
　⑥創立期「神木供養句会」額、公民館表彰「祝賀句会」額（飯香岡八幡宮所蔵）
　⑦常設展示山口達画伯作品、八幡町大観の再表示、八幡公民館歴史年表
　⑧展示会配布用パンフレット、ポスター
　⑨検討課題＝「八幡公民館の黎明スライドショー」「公民館所蔵１６ミリ上映」

４）その他の関連企画
　⑴主催事業「八幡史学館」シリーズの第１回講座
　　６月４日（火曜日）　八幡公民館の黎明　山岸弘明
　⑵「八幡公民館ものがたり」の発行（八幡史学館チーム、１５０ページ、少数部）
　　第１部＝７０年の黎明（旧公民館時代）　第２部＝市直営時代
　　（運営委員会時代を除く）

5）八幡公民館運営委員会へのお願い事項

①主催

②2）①②会場提供、3）展示品の提供

②準備打合せ、作業場所の提供（4月～31年1月、必要に応じたあき貸室の利用）

③展示および配布パンフレットのコピー機、印刷機の使用

④公民館職員（主に松濱、吉岡指導員）の指導および応援

⑤その他、展示会準備にかかわる事項

なお、展示品作成および準備にかかわる経費についてのご負担は考えていません

6）その他

①本チームの周年企画展主管実績

平成２０年　公民館創立６０周年記念企画展（文化祭、駅ギャラ）

平成２５年　市原市々制５０周年、公民館創立６５周年企画展（文化祭、記念講演、駅ギャラ）

平成２８年　八幡史学館１０周年企画展（文化祭、駅ギャラ）

②展示デザイン（案）などの詳細は順次お届けいたします

必要なら運営委員会への提示案の説明をいたします

以上

9

市教理文第 238 号
平成 30 年 6 月 5 日

資料掲載許可書

山岸　弘明　様

市原市教育委員会
教育長　前田　周一

平成３０年６月１日付で申請のあった資料の掲載について下記により許可します。

記

1　目的
八幡公民館史の執筆、及び 2018 年 6 月 5 日からの八幡史学館（八幡公民館主催事業）での講義、及び 10 月 6・7 日八幡公民館文化祭での展示、及び 2018 年 12 月下旬～2019 年 1 月中旬の八幡宿駅ギャラリーでの展示で使用するため。

2　掲載資料
別紙のとおり

3　掲載許可期間
平成　３０年　６月　５日以降

4　条件
目的以外の使用を禁止する。

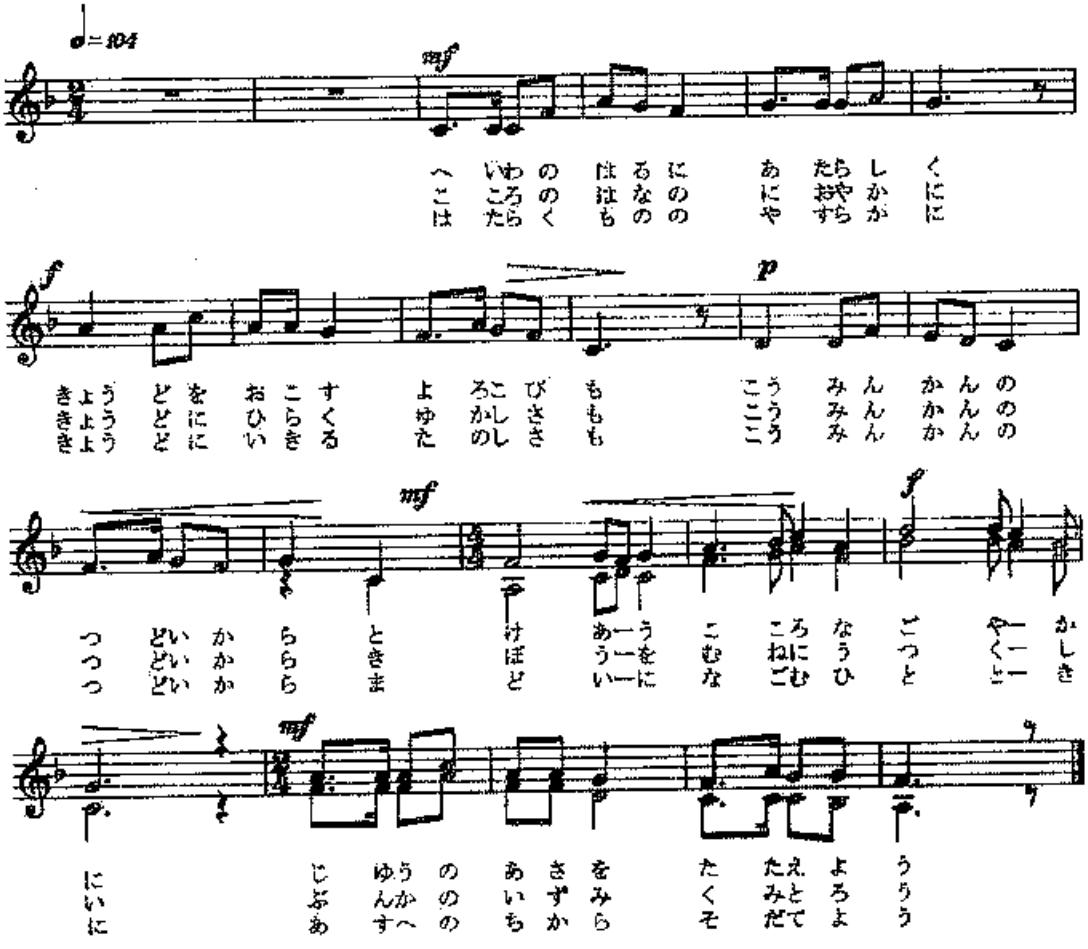
（別紙）

資料名	資料作成年月日	差出人・作成者	受取人	形態
日誌	昭和三四年	八幡公民館	—	竪帳
（公民館新聞コピー　1～5号）	（昭和25年5月25日～昭和26年1月	八幡公民館	—	新聞

なお、これらの資料は市原市教育委員会で所蔵しており、現在は埋蔵文化財調査センターに保管している。

公民館の歌（自由の朝）

作詞　山口晋一
作曲　下総皖一



公民館の歌（自由の朝）

作詞　山口晋一
作曲　下総皖一

一、平和の春に　あたらしく
郷土を興す　よろこびも
公民館の　つどいから
とけ合う心　なごやかに
自由の朝を　たたえよう

二、心の花の　におやかに
郷土にひらく　ゆかしさも
公民館の　つどいから
希望を胸に　美しい
文化の泉　くみとろう

三、働くものの　安らかに
郷土に生きる　たのしさも
公民館の　つどいから
まどいになごむ　ひとときに
明日への力　そだてよう

「公民館の歌」について　〔『よくわかる公民館のしごと』（2008年 全国公民館連合会）より抜粋〕

昭和22年に公民館設置促進中央連盟が毎日新聞社とタイアップし、文部省（当時）後援により公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞を全国公募しました。その結果、全国から1017件の応募がありました。厳正な審査の結果、見事特賞に選ばれたのは、千葉県館山市在住の山口晋一さんの作品でした。その作品に、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）教授の下総皖一氏が作曲をしました。

受賞に際して山口さんは、「明るい文化がうちたてられてゆくためにはどうしても公民館のような機関が必要だと思います。これが公民館の設立のための一つの推進力として役立てばなおさらの喜び」と語っています。

八幡公民館主催事業「八幡史学館」第１３シリーズ①

八幡公民館70年の黎明

～八幡公民館は６月 ２６日創立７０周年を迎えます～

平成３０年６月５日　　山岸弘明

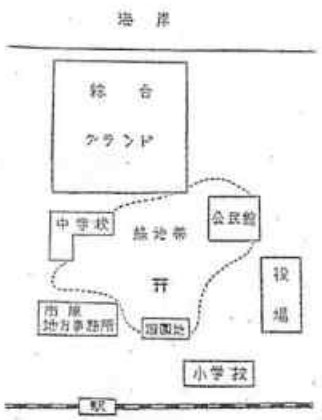
「八幡史学館」第１３シリーズ、次回以降のスケジュール

②７月　３日（火曜日）＝日程が入れ変わりました
　八幡と飯香岡八幡宮「祭礼の変遷」　平沢牧人
③８月　７日（火曜日）＝日程が入れ変わりました
　市原の歴史「地名からみた市原の歴史」　宮本敬一
④９月　４日（火曜日）
　⑴八幡の海苔養殖の１年　佐倉東雄
　⑵菊間藩入封１５０年「菊間藩の成立から千葉県誕生へ」　山岸弘明

創立７０周年特別企画

①１０月６～７日（八幡公民館文化祭と同時開催）八幡公民館７０周年企画展
　主催＝八幡公民館運営委員会、主管＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会
②１２月２１日～１月１０日　八幡公民館７０周年企画展
　主催＝八幡公民館運営委員会、主管＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会
③「八幡公民館 70 年史」の編集発行
　発行＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会、協力＝八幡公民館運営委員会

八幡史学館チーム＝お手伝いいただける仲間を募集しています



創立時
八幡町（現市原町）の中心街

菅野備作像

表彰状

千葉縣市原郡八幡町
公民館

右は施設整い運営よろしきを得て郷土文化の向上民主國家建設に貢献するところ多大である
よつて公民館の範として表彰する

昭和二十四年十一月三日

文部大臣　高瀬莊太郎

文部省發表　表彰理由

全町民の奉仕と特志家の寄附によつて二三六坪の新しい公民館を生んだ、公民館の經營も町の発展方策、生活刷新要項を基礎にして總合的に運營されている。
特に海苔漁場經營の新しい研究は飛躍的な増産を示す、公民館は町民の熱倒的支持を受けている。毎月四回の婦人土曜講座、定期文化講座、夏季大学などもよい成績を示している。總合グランドも建設され、町内レクリエーションの原動力となつている。乳幼児検診、健康兒の表彰など多彩な事業が行われている。

皇后と天皇陛下の行幸

秩父宮殿下がお成り

初代八幡公民館

公民館の歌

一、平和の春に新しく
　郷土を興すよろこびも
　公民館のづどいから
　とけあう心なごやかに
　自由の朝をたゝえよう
二、こゝろの花の匂やかに
　郷土にひらくゆかしさも
　公民館のつどいから
　希望を胸に美しい
　文化の泉くみとろう
三、動くものゝ安らかに
　郷土に生きるたのしさも
　公民館のつどいから
　まどいになごむひとゝきに
　明日への力をたてよう

公民館を讃ふ

濱田白舟

青海の波靜かに富嶽を望ら
飯岡常磐の森に
愛町の赤誠集まりて華と咲き
民主自治の熱情焔と燃え
八幡町公民館　今ぞなる

正しき政治の起点
明朗なる生活の設計
豊かなる藝能の共樂
公民文化の殿堂　今ぞなる

朝　公民館は政事に開きて
個全なる生活が築かれ
夕　公民館は清榮の歩を展きて
情操の香氣溢る

神苑風光四時豊かにして清淨
公民おしなべて正義にして純情
既にして勇躍に冠たる八幡町
あゝ　今ぞなる此会文化の殿堂
榮あれ八幡町公民館

「八幡公民館７０年史」を纏めています。「八幡公民館」や町の古写真と資料を探しています。

平成３０年６月２６日、市原市立八幡公民館は創立７０周年の節目の時を迎える。７０年の昔、昭和２３年は戦後の激動期のまっただなかにあった。前年の２２年「日本国憲法」が制定され、「自由と平和の国」へスタート、小学校６年、中学校３年を義務教育とする「教育基本法」と「学校教育法」が公布された。戦後２回目の総選挙で日本社会党が第１党となり、片山　哲を首班に、わが国初の社会主義者を首相とする内閣が誕生したがわずか８か月の短命政権に終る。党内左右両派の対立を調整できずに退陣し、代わって民主、社会、国協３党が連立した芦田　均内閣が登場したが、「昭和電工疑獄」に関連して総辞職し、１０月には民主自由党の吉田　茂が総理大臣（第２次内閣）に返り咲くなど激しく変遷していた。

この年「東京裁判」で東条英機ら７人が絞首刑となり戦時に一区切りがつく。社会はようやく立ち直りの気配を見せつつあった。戦後日本のシンボルともいえる天才歌手・美空ひばりがデビュー、岡　晴夫の「啼くな小鳩よ」、菊池章子の「星の流れに」、竹山逸郎の「異国の丘」,がヒットし、黒澤　明監督の「酔いどれ天使」、溝口健二監督の「夜の女たち」が銀幕の話題をさらった。

＊

八幡公民館は７０年前のこんな時代の中で誕生した。昭和２２年４月に行われた戦後初の「知事、市町村長選挙」で町長に就任した菅野儀作の最初の仕事は新制「八幡中学校」の建設であった。戦後の「教育改革」で八幡中学校が開校したが、急な新設で町にはあてるべき建物がなかった。いったん旧町役場や地方事務所、寺の本堂に間借り、八幡宮の境内を校地（現在八幡公民館ほか）に選んで新校舎の建設工事に着手する。町には資金も資材もない。つてを頼って旧習志野連隊の兵舎を貰い受け、工事は町の職工組合と町民のボランテアとなる。習志野で解体された資材をトラックで八幡宮の工事現場に運んだ。町、議会、職工組合、父兄、教師、生徒と町内会一丸となったボランテア作業が始まり、昭和２３年３月第１期生卒業式の日に完成した。

＊

幸い中学校工事の残材も残っている。「次は公民館だ」。工事は校舎竣工後、息つく暇もない４月１日に開始された。今度も職工組合と町の人たちが力をあわせた。勤労奉仕は延べ４７００人、工期およそ４か月、木造洋館２階建て延べ２３７坪、１階に舞台大講堂を備え、２０００人収容の新築公民館が竣工したのは７０年前のこの日、昭和２３年６月２６日、「こけら落とし」は実りの秋を待った９月３０日に行われ、大入り満員の盛況であった。

公民館に浅見喜舟が書いた２本の板戸が保管されている。

平和を愛する町の人よ、真理と自由を尊び

自治建設を理想と仰ぎ、協力の町大八幡の建設

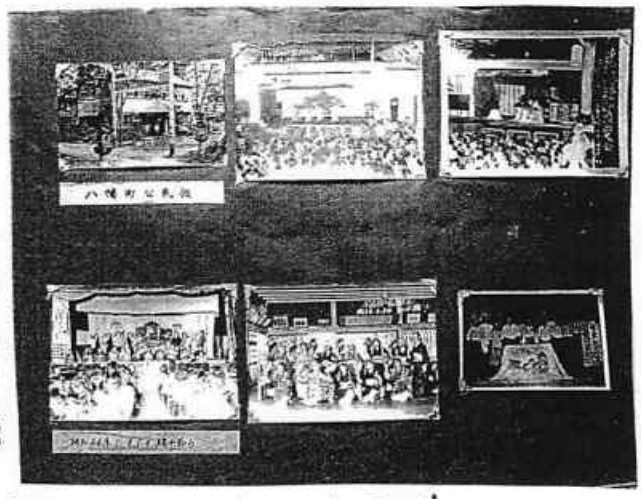
ここには「町作り、人作り」にかけた町長と町の人たちの「八幡公民館創建の誓い」が込められている。

＊

創立当初、八幡公民館の活動は目覚ましいものだった。公民館が掲げた「教養の向上」「自治の振興」「産業の増強」「生活の改善」「体育レクリェーション」の５本の旗のもと、青年連盟、婦人会、ボーイスカウト、文化団体が相次いで誕生し、町役場、小学校、中学校、消防団などが機能的に結集した。それは初代館長となった菅野儀作町長の「カリスマ性」が生んだ「八幡町の奇跡」でもあった。八幡公民館がはじめた合同端午の節句、母の日、公民館結婚式などの「生活刷新運動」は千葉県下に広がり、全国へと発信されていった。昭和２４年１１月３日の文化の日、八幡公民館は晴れて第１回全国「優良公民館」として「文部大臣賞」を受賞、館長菅野儀作が皇居において天皇陛下に拝謁し、翌２５年秩父宮妃殿下が八幡公民館に御成りになられた。八幡公民館７０年の「黎明期」の歩みは戦後の混乱期から復興する、わが国の「昭和史」そのものでもあった。

八幡公民館関係歴史年表

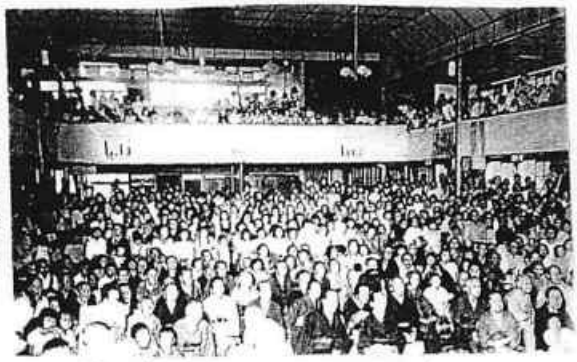
昭和２２年１１月２６日	（飯香岡八幡宮境内で八幡町立八幡中学校地鎮祭を挙行）
〃　２３年3月	（八幡中学校新校舎落成）
〃　4月1日	八幡町立八幡公民館起工式を挙行、工事は町の総力戦となる
〃　6月２６日	八幡中学校との合同落成式を挙行、大天井絵を掲げる
〃　6月２７日	八幡敬老会を開催、公民館業務を開始
〃　9月３０日	落成こけら落とし、中村吉右衛門一座を招く
〃　２３年、２４年	活動方針決定、青年連盟、婦人会、ボーイスカウトなど誕生 生活改善運動、産業研究などに成果、合同行事、映画会盛況す
〃　２４年１１月3日	文部大臣表彰、菅野館長天皇陛下拝謁
〃　１１月２７日	（八幡町総合グランド完成）
〃　7月１６日	秩父宮妃殿下、八幡公民館視察のため御成り
〃　３０年3月３１日	町村合併で市原町立八幡公民館となる
〃　３２年１０月２４日	（漁業組合、八幡海岸埋め立て協定書に調印、工事始まる）
〃　３４年	（旭硝子、三井造船などが操業を開始）
〃　３８年	市原市制、市立八幡公民館となる
〃　４７年	八幡宿駅前整備計画のため、八幡中学校跡地に新築、移転
〃　５１年	八幡武道館を開館
〃　６１年4月２３日	体育館などを増設、併設支所と合同落成式を挙行
平成７年	八幡宿駅に市民ギャラリーを開設
〃　9年4月1日	サークル連絡協議会を結成
〃　２０年	市制 50 周年、創立 60 周年記念行事を開催
〃　２３年4月1日	市直営から指定管理者制度に移行、運営を八幡公民館運営委員会が受託
〃　３０年6月２６日	創立 70 周年を迎える



現存する昭和25～30年の公民館アルバム

千葉県政評の表彰状

昭和25年の巡回図書



盛況だった八幡の人たち

成人式

5

旧千葉地（現工場グランド）

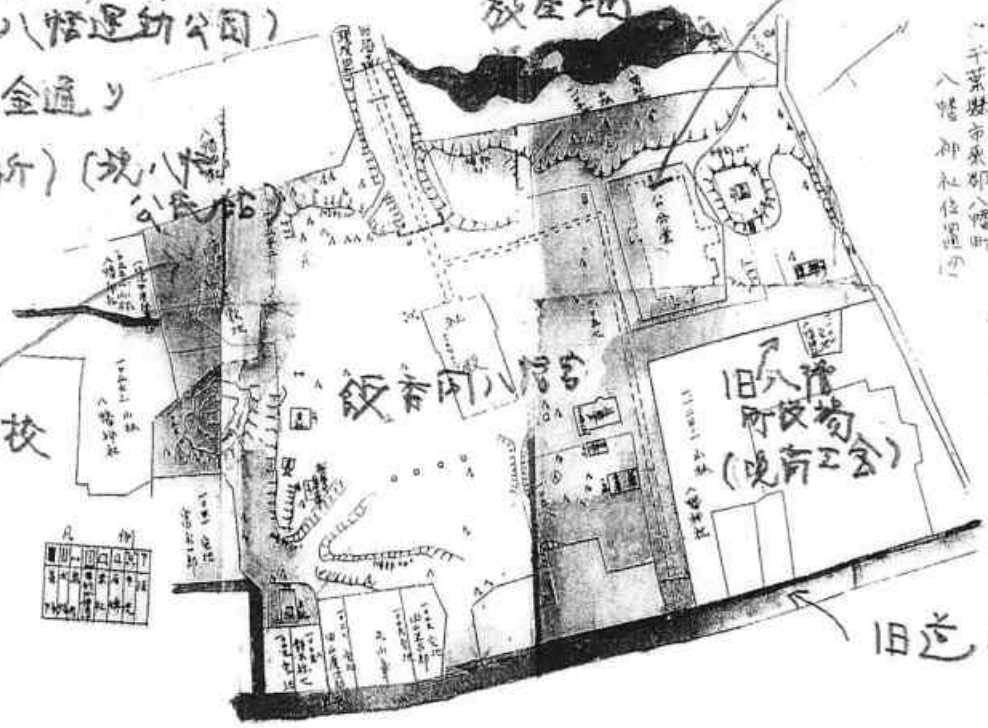
旧八幡公民館（現在飯香岡通り）

旧総合グランド（現八幡運動公園）

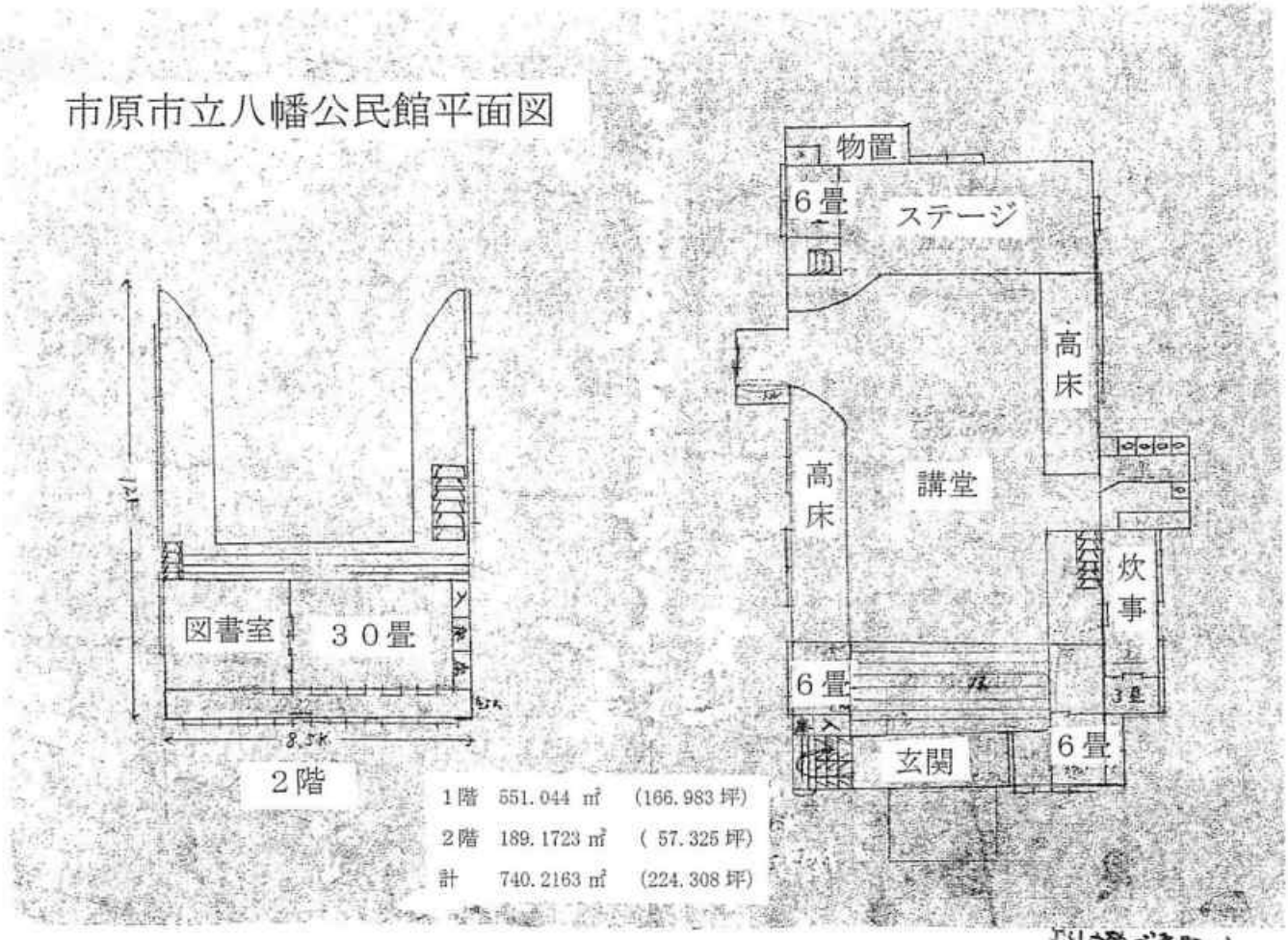
（白金通り

（現支所）（現八幡公民館）

放生池



昭和23年飯香岡八幡宮配置図



旧八幡公民館 平面図 青焼き（復元トレース）

判読できない文字・数字を省略

1948～2018　ダイジェスト

八幡町と八幡公民館、黎明の７０年ものがたり

1）始めに「八幡宿」ありき

①古来、八幡は上総、下総国境地に立地、市原の玄関口、水陸交通の要衝として発展した。八幡の地名は「飯香岡八幡宮」に由来した。江戸時代は幕府直轄領、旗本知行地で、五大力船が江戸と結んだ交易の港町、房総往還宿場町として栄えた。

②明治維新後、菊間県、木更津県をへて千葉県に編入、明治 21 年八幡宿、五所金杉村、山木村の３宿村が合併して八幡町が誕生、文字通り市原郡の中心地として郡役所や郵便局、警察署が置かれた。最初の町役場は八幡宿駅西口ロータリーの現在セントラル写真館あたり、戦後飯香岡八幡宮の浜本町参道、現在八幡商工会の地に移った。初代町長は荻原昇吉で、以下今井源蔵、市川石三、高橋松太郎と続いた。

③戦前期の八幡は「海の町」だった。八幡さまの目の前に大海原が広がり、富士のすそ野が雄大な姿をみせた。気候温暖で性格も温厚、人々は恵まれた海の幸に依存し、多くは「半農半漁」、海苔養殖とマリーンレジャーで生計を立てた。

④昭和 20 年終戦。直後の日本は「第２次世界大戦」の敗戦、連合軍の進駐、軍国主義から民主主義への転換、食料をはじめとした極端な物資不足、焦土と化した国土と人心混乱の中にあった。人々はこうした戦後社会混乱世相の中から立ち上がろうと必死にもがいていた。

⑤八幡公民館が誕生した昭和 23 年はまさに戦後の激動期のまっただ中にあった。当時の八幡町は戦後最初の地方選挙で就任したばかりの菅野儀作町長を中心に新しい時代に向けた町作りを目指していた。菅野が最初に手掛けた事業が町民の自力建築による八幡中学校と八幡公民館の創立であった。「八幡公民館の黎明」をその 70 年をはぐくんだ「八幡町」の戦後史を通して解き明かしていくことにしたい。

2）八幡屈指の旧家・市川本店～第 13 代（戦後第 1 代）八幡町長＝市川得三

①昭和 20 年８月、終戦時の八幡町長は市川得三であった。

②市川家は飯香岡八幡宮創建にさかのぼる神官３家のひとつで、江戸時代後期から醤油醸造業と酒類元卸を兼ねた。明治維新期の甚太郎が八幡宿戸長を勤め、３代目の石三は漁業組合長をへて明治後期から大正、昭和はじめ、第３、８、10 代の３期にわたる八幡町長と千葉県議会議員の一方、経済人としても活躍した。

②市川得三＝明治 40 年生まれ、平成６年没、86 歳。東京正則中学校卒業、家業のかたわら戦中、終戦期に八幡町長、昭和 22 年の第１回「統一地方選挙」で県議会議員に鞍替え出馬、現職町長の知名度を生かしてダントツのトップ当選を果たすが、26 年選挙は自由党候補乱立のあおりで菅野儀作に敗れて引退した。後年は家業のかたわら千葉県商工信用組合会長など県の経済界重鎮として活躍した。

＊千葉県議会議員選挙（市原郡定員３名＝昭和 22 年４月 30 日）

当選　２５２０８票市川得三（自由党）、８２４６票中沢恒夫無所属（自由党）、５６４９票藤代吉郎（自由党）

3）八幡公民館なくして八幡の戦後は語れない～第 14 代（戦後第 2 代）八幡町長＝菅野儀作

①菅野儀作＝明治 40 年生まれ、昭和 56 年没、73 歳。八幡町の商家３男に誕生、千葉中学校を３年中退して米穀商に従事した。青年団、消防団活動で実行力と統率力を発揮、新しい時代に向け

て「町政刷新」を掲げた若い青年グループ「郷明会」に推されて昭和22年八幡町長選に立候補、無投票当選した。

②町長となった菅野が最初に直面した課題は「新制中学校の建設」であった。６３制の中学校は開設したが校舎がない。資材、敷地、資金不足が重く圧し掛かった。旧習志野騎兵連隊の厩舎払い下げが纏まり、飯香岡八幡宮の境内に校地も決まる。白鳥孝治を建設委員長に委嘱、自ら工事の先頭に立つことを宣言した。敷地造成、厩舎の解体、運搬、そして再建へ。もちろん当時の町に請負に出す余裕はなく、すべての作業を自分たちでやることにする。職工組合、役所、議員、町民一体となった建設工事が始まった。敷地の大木伐り倒しや厩舎解体作業は町の人たちの勤労奉仕、生徒も授業はそっちのけで伐採した木の後始末や釘抜きなどの雑用に駆り出された。新学期はぜひ新しい校舎で。工事は寒さを押して続けられ、昭和23年３月に完成。勤労奉仕参加者は9450人、１戸平均７人を数えた。

③八幡公民館の建設工事は中学校舎竣工後まだ日も浅い昭和23年４月１日に始まった。
設計から施工、総指揮は今回も白鳥孝治がとった。明治28年材木商４男に誕生、近衛工兵大隊除隊後、家業を継いで土木建築請負、材木商組合長に推された。公民館建設はゲートルを巻いた作業着に巻尺と物差しを片手で、使命感に近い情熱を燃やした。出来上がった舞台を作り直したり、その夢は次々と広がっていった。見かねた議会は２度も委員長交代を求めたが菅野はそのつど押え、自ら金集めに走り回った。

④公民館は６月 26 日に完成した。この日八幡中学校との合同落成式が行われ、川口為之助千葉県知事、千葉に進駐していたアメリカ軍政部幹部ら関係者が参列して盛大に行われた。「全町民歓喜のうちに開館式をあげた八幡公民館はその偉容においても、内容においても県下随一のものであった」（社会教育10年の歩み）

⑤初代公民館長は菅野儀作町長が兼務した。公民館は八幡町のシンボルとなった。翌昭和24年新年度の活動方針は「教養の向上」「自治の振興」「産業の増強」「生活の改善」「体育リクレーションの普及」の５本の柱であった。総務、教養、社会、産業、生活改善、集会、保健、体育の８部が構成され、町には青年連盟、婦人会、ボーイスカウトなどが次々と結成された。公民館の特筆すべき活動の一つに「新生活（生活刷新）運動」があった。浪費削減を目標に、合同成人式、合同ひな祭り、合同七五三、公民館結婚式へと発展し、貯蓄高、納税、供出米、選挙投票率へと展開していった。

⑥人気を集めたのは映画と歌謡ショーだった。ＧＨＱが占領政策で貸し出したナトコのＣＩＥ16ミリ教育映画から劇場映画へ。「喜びと悲しみも幾年月」や嵐寛樹郎の「鞍馬天狗」にぎっしり満員の観客を迎えた。人気歌手や浪曲師、ＮＨＫの人気番組「3つの歌」の公開録音も行われた。

⑦菅野は自ら先頭にたって八幡中学校、八幡公民館、総合グランドを矢継ぎ早やに建設、そのカリスマ性で人心を掌握した。公民館を中心に菅野町制は展開していった。

⑧八幡町のシンボルとして誕生した八幡公民館の活動は県下公民館の起爆剤となり、その名は全国に知られた　。昭和24年11月３日菊薫る文化の日、全国初の優良公民館として「文部大臣賞」を受賞、菅野館長は皇居において天皇陛下に拝謁の栄に浴した。

⑨八幡町長を１期務めた菅野は昭和26年の「一斉地方選挙」で千葉県議会に転進した。市原郡の定員は３名、当時自由党は市川得三、中沢恒夫、藤代吉郎の現職３人を独占、これに菅野が加わる激戦となったが、結果は菅野が票を取りすぎて現職３人は揃って落選、新旧交代を印象づけた。

＊千葉県議会議員選挙（市原郡定員３名＝昭和26年４月30日）
当選　８９９０票菅野儀作（自由党新）、７０９２票相川久雄（無所属新）、６７８１票多賀四郎（無所属新）、落選　4805票市川得三、4786票藤代吉郎、4783票中沢恒夫（ともに自由党前）

②菅野は県議５期をへてのち参議院議員を３期つとめた。この間、県政史の若手リーダーとして京葉工業地帯の造成、新東京国際空港建設などに力を発揮した。県と市の合同葬は市原市民会館で行われた。飯香岡八幡宮に大須賀　力先生制作の菅野儀作銅像が立っている。

昭和44年5月1日　（第3種郵便物認可）　広

私たちの公民館

（続わり）

八幡公民館

私たちの八幡公民館は地区なかなかよく盛り上がられ、市西線八幡駅から海岸に向つて徒歩五分のところにあります。

西線八幡駅から海岸に向つてのびるのも忘れてしまいます、市内なら委文化財の指者、岡八幡宮と隣つづきとなっています。

▽市青年学級共同センター

一般社団法人市民は二十五人で年均年齢二十歳くらい。毎月月曜日の午後八時からおもに集まっています。

▽青年学級

八幡小学校の伊地知元明先生、今年は本年に市民青年学級を設置されています。

▽婦人学級

八幡小学校の伊地知元明先生、今年は本年に市民婦人学級を設置されています。

▽市民

八幡小学校の伊地知元明先生、今年は本年に市民市民

6）海岸埋立てと市原市制期の町長～第１代市原町長＝宮吉長門

①昭和 30 年 5 月、市原町発足にともなう町長選挙が告示されたが立候補は１人で宮吉長門が無投票当選した。４年後の２期選は鈴木日定が挑戦、一騎打ちになったが宮吉が再選された。また町議選は 10 月、小選挙区で争われ八幡地区から定員の１７名が選出された。

＊市原町長選挙（昭和 34 年 4 月 30 日）

当選　4415 票宮吉長門　次点 2047 票鈴木日定

②宮吉家は飯香岡八幡宮旧社人 12 家のひとつで、明治元年の一時期「上総安房知県事」芝原文平が本陣を構えた。父長五郎は料亭旅館の東屋を経営する一方、第９代八幡町長、八幡五所漁業協同組合長などを務めた。

③宮吉長門は明治 39 年長五郎長男に誕生。千葉県ノート印刷社長、郡青年団長、漁業組合理事長などを務めた。自由党始関伊平派で、菅野儀作、鈴木貞一と「三羽がらす」と呼ばれた。宮吉町長時代、八幡海岸埋立てと工場誘致、市原市制という大事業に取り組む。第１回市長選に鈴木も立候補を表明、両氏が戦うことになれば始関派の分裂は必至、菅野の一本化調停は難航したが最終的に宮吉が出馬を断念した。４年後の市長選に復活をかけて鈴木に挑んだが敗れた。

④昭和 25 年に起こった「朝鮮戦争」の関連特需は日本経済を一気に回復させた。昭和 31 年、経済企画庁は国民１人あたりの実質総生産（ＧＮＰ）が戦前を上回ったとして「もはや戦後ではない」と発表して流行語になった。冷蔵庫、洗濯機、白黒テレビが「3 種の神器」ともてはやされたが、まだまだ庶民には「夢物語」だった。人々は「街頭テレビ」のプロレス中継に夢中になった。そしてこの時期、日本中どこにでもあった、田舎の小さな港町・八幡がだれもが想像だにできなかった大変革の時を迎えようとしていた。

⑤これより先の昭和 28 年、戦時中日立航空機があった千葉市の埋立て地に川崎製鉄が進出し、翌 29 年蘇我の埋立て地に東京電力千葉火力発電所の誘致がまとまると、隣接する八幡、五井地区での工業地帯開発計画がクローズアップされるようになった。

⑥昭和 31 年、千葉県は「臨海工業地帯」建設を骨子とする「産業振興 3 か年計画」を策定、その事業規模は浦安から千葉、市原、袖ケ浦、木更津、君津におよぶ内湾部 4 千万坪を埋立てるという膨大なもので、八幡地区はその最初の交渉地となった。

⑦同年 11 月、県は八幡五所漁業協同組合に対し、八幡浦の埋め立てを提示した。年寄りたちは「先祖からの海をなくしてはいけない」と猛反発したが、若者たちの考えは違っていた。海苔や貝に頼る将来への不安と雇用拡大による新しい町作りかけたのである。

⑧昭和 32 年 10 月八幡五所漁業組合と県の間で補償協定が調印され、それを待ちかねたように事業が着手された。当初の補償費は組合員 1 人あたりおよそ 200 万円、その後近隣の他漁協とのバランスをとる関係で多少の積み上げがあった。組合員の中には千葉市の歓楽街やパクチ、株で大損した「にわか成金」もあったが、多くは堅実な道を歩んで将来に備えた。

⑨埋立て工事はすぐに始まった。大型浚渫船で掬い上げた海底の土砂が送泥管で運ばれ、八幡から五井、姉崎に続く埋立て造成事業は一気に完成した。八幡五井地区の用地造成面積は 714ｈａ、ここに日本を代表する大企業 11 社が進出することになった。

⑩昭和 34 年 10 月、隣接する「八幡浦干拓地」20 万坪で旭硝子千葉工場が操業を開始、市原地区の三井造船、古河電気工業、昭和電工が富士電機製造、大日本インキ化学工業などが続いた。

①一方で「市原市制」をめざす、本格的な「町村合併論争」が沸き起こった。

②急激な開発と工場誘致は地元町村での人口、財政、都市計画などさまざまな問題を引き起こしていた。行政近代化のための受入れ体制造りが不可欠となっていたのである。

③市制議論は主に

・県が推奨した臨海部の市原、五井、姉崎町と市津および三和の北部５町村の合併

・南総、加茂を含む１郡１市への大同合併

・千葉市との100万都市構想
・段階合併を意図する五井、姉崎の南葉町案
の４案であったが難航、５年間におよぶ議論の結果、大同合併をめざしながらひとまず北部５か町村で発足することに決定する。

7）市原市の発展期をひらく～第１代、２代、３代市原市長＝鈴木貞一

①昭和38年５月、市原、五井、姉崎、市津、三和の５町村合併で、人口７万3000人、県下19番目の市として発足、こえて昭和42年南総町と加茂村が合併し、人口は12万5000人と増え、県下最大の面積を有する市となった。しかし、工場化と人口増が急ピッチですすむ一方、受け入れ態勢がないなど、多くの課題をかかえてのスタートとなった。

②注目された市長選は元八幡町長の鈴木貞一と五井町長小宮　久の一騎打ちとなり、２期目は前回出馬を辞退した前市原町長の宮吉長門が挑戦したが鈴木が勝った。鈴木は市長３期を務めた昭和50年任期満了退任、以後市長は井原恒治、小出善三郎、佐久間隆義、小出譲治と引き継がれた。

＊市原市長選挙（昭和38年６月18日）
当選　２４４２３票鈴木貞一　次点１５１９３票小宮　久

＊市原市長選挙（昭和42年６月４日）
当選　２６８４２票鈴木貞一、次点１８５４９票宮吉長門

④市の中心となる市庁舎は五井駅近くの旧五井町役場となり、市原町役場は市原支所となった。鈴木在任中の市原市は昭和32年から始まった京葉工業地帯の拡大発展期にあった。八幡地区では造船や電機、ガラス工場などが本格操業、五井、姉崎は石油コンビナートの大型プラントが建設された。また五井と姉崎火力発電所が送電を開始し、物流ルートとして産業道路と臨海鉄道が敷設された。昭和40年代の高度成長期、石油系製品の需要が拡大した。工場は増設につぐ増設、製造ラインがフル稼働した。市原は京葉工業地帯の中核として日本有数の工業都市へと成長して行った。

⑤鈴木市長時代、現在の国分寺台に市役所新庁舎が完成、五井駅東口整備事業、辰巳台、有秋台、若宮などの大型団地が完工、市民会館、臨海運動公園、道路や国鉄複線化などが実現した。

8）あすへの飛翔～創立７０周年から１００周年をめざして

①昭和３０年代から４０年代にかけて日本経済は急激な発展を遂げた。一方、八幡町にあっても市原、菊間村との合併にともなう市原町移行、漁業権放棄、八幡海岸の埋立て、工場誘致とその後の開発ブーム、市原市制などなど。短期間で起こった急激な変化は、人々の生活を以前とくらべることができないほど豊かにした。文化的な新築住宅に新車、先輩たちが公民館で学んだ若者世代は東京の大学へと進学した。終戦後の混乱期に誕生し、ひたすら郷土の復興と生活改善を掲げた八幡公民館にとって、早々その役割を達成させてもいた。

②昭和４７年、八幡公民館は八幡宿駅周辺の区画整理事業のため創立の地を改め、八幡中学校跡地に移転、鉄筋コンクリート２階作り、敷地面積972㎡、総建坪は９９９㎡であった。平成61年市原支所を併設して模様替えオープン、新たに体育室、会議室と視聴覚室を加え、図書室を増強した。この間、平成８年創立50周年、18年創立60周年の年輪を重ねた。

④平成23年、市原市は指定管理者制度を導入、八幡公民館は「八幡公民館運営委員会」にその運営を移行した。その趣旨は「公民館は生涯学習社会において、時代の変化や市民ニーズを的確にとらえた主催事業、地域づくりのサポートなど、社会的要請に応えられるような社会教育活動を積極的に展開すること」にあった。創立７０周年のいま、「町起し、人起こし」にかけた先人たちの足跡がこの趣旨そのものであったことに気づいた。市の社会教育と八幡公民館創立100周年への「飛翔」に向けていま、取り囲む私たち世代が果たすべき役割もまた大きい。

菅野・白鳥、絶妙コンビが生んだ傑作公民館

八幡公民館を作った熱血の人～建設委員長→千葉県公民館連合会長を務めた白鳥孝治～

①八幡中学校と八幡公民館の建設委員長を務めた白鳥孝治はひとしお情熱を傾けた「熱血の人」だった。敷地内の大木を切り倒して自ら製材したり、商売ものの銘木を寄付したりもした。設計図は白鳥がひいた。収容人員は１戸１人、1350 人が一堂に会することを念頭にした。木造２階建て洋館、１階は舞台と講堂で３本の緞帳と３枚のスクリーンを備えた舞台が話題になった。白鳥は公民館ができた翌 25 年、県の公民館連合会設立に貢献、初代から４期、県連会長として八幡公民館の建設と活動のノウハウを県の後輩公民館に教えた。千葉県社会教育委員副委員長、八幡町議、八幡中ＰＴＡ会長、八幡宮氏子総代などを歴任して地元の振興に務めた。昭和 44 年１月没、行年 73 才の生涯であった。

社会教育十年のあゆみ（昭和 34 年＝文部省社会教育課）、千葉県公民館史（昭和 60 年＝千葉県公民館連絡協議会）、菅野儀作先生を偲ぶ（昭和 58 年＝遺徳顕彰会）、千葉新聞

①「（八幡中学校ができた）その時、町の中央に突如として「われわれの手で青松白砂の地に明るく住みよい町をつくりましょう」という立札がかかげられた。この立札を背にして立ち上がったのはＳ氏であった。氏は時を移さず誇りと自信にみち満ちた町民に向かって、平和にして文化の香り高い町作りをとき、そのために必要な公民館の建設を訴えたのである。この機をつかんだＳ氏の考えは見事に効を奏し、町民の視野は学校教育から社会教育へと開かれ、一斉に「町造り」へと足並みを揃えたのであった。このようにして八幡公民館の新築工事は中学校舎竣工後、息つくいとまなく昭和 23 年４月１日に開始されたのであった。着工とともに寄付を申し出る篤志家が続出、これに応えて町議会も予算 50 万円を追加するなど工事は円滑に進行した」（社会教育１０年の歩み）

②「習志野騎兵連隊の厩舎を利用し、中学校を建てたばかりの八幡町には使い残りの材料がいっぱい残っていた。「よし、これで作ろう」町議会で衆議一決、敷地は八幡宮の所有地・石尊神社の隣と決まった。白鳥委員長は県社会教育委員会の副委員長をしており、社会教育には人一倍熱心だった。（中略）公民館は６月 26 日竣工した。４月１日起工以来、わずか３か月たらずの工程である。勤労奉仕は延べ 4700 人、職工組合の奉仕的作業、それに材木、電気設備、緞帳なとも町民が寄付し、文字どおり、町の総力をあげての竣工であった。（中略）合同ひな祭り、合同端午の節句、母を讃える会、成人式、さなえぶり、華道展などの催しのほか婦人講座、文化講演会、夏期大学、などが次々に開かれ、県下でもっとも活発な公民館活動とたたえられた。（中略）とくに結婚式簡素化運動は有名であった。当時、八幡町の結婚式は昼夜ぶっとおしの祝宴が続き２日がかりが常態化、これに対して公民館は「結婚式は日のあるうちに始め、日のあるうちに終る」という指導方針を打ち出し、式は新郎、新婦とも平服、祝膳は１汁３采、赤飯１盛りと簡素化、面倒はすべて婦人会がみた。」（千葉県公民館史、菅野儀作先生を偲ぶ）

③「どうして完遂した。模範町八幡町の現地にみる。税金、供米、公民館建築など。恵まれた資源、菅野青年町長の熱意、公民館は県下最大。かつては郡中の最難治村戸長いわれ、町民の封建制救いがたしと指導者を泣かせた八幡町。その町が終戦後、とみに行政実績が上がり県下のモデル町とまでいわれるに至った原因はどこにあるのか。（中略）同町を今日あらしめたものは一に指導者の熱意と血と汗の敢闘ならびに協同精神、２に公民館の町□□（汚れ＝起し、作り？）の推進力であり、さらに右の盛り上がりる精神を基盤にして公民館を中心に生活刷新の一大運動を展開していることが判明した。」（千葉新聞＝昭和 24 年３月 28 日、長文ルポ記のリード部分）

幻の「公民館新聞」～旧市原町文書から発見～

市原市教育委員会保管文書＝断片的に八幡公民館の貴重史料が保管されていた。
（埋蔵文化財センターで写真撮影）

①「八幡町公民館新聞」（有料販売方式＝編集発行人・菅野儀作館長）
第１号（昭和 25 年５月＝１２ページ）＝町の概要、公民館のできるまで、公民館条例、生活刷新要綱、公民館予算、年間行事予定、公民館をとりまくもの
第２号（〃　　６月＝以下８ページ）＝八幡町の郷土史、町役場より、公民館だより
第３号（〃　　７月）＝秩父宮妃殿下お成り、20 年後の八幡展望、生活刷新運動、のり養殖、講座、図書室巡回文庫、ナトコ映画会
第４号（〃　　９月）＝自治建設と公民館（菅野）、学校だより、生活改善
第５号（最終号＝昭和 26 年１月）＝年頭のことば（菅野）、昭和 22 年よりの事業進捗度
感想＝菅野の目指した「人作り、町作り」をメッセージしている。

②「市原市立八幡公民館平面図」青焼き＝当時の担当者が方眼紙に１㎝１間で描いた「手書き平面図」。状態が悪く可能なかぎりトレース復元した。
感想＝利用者の思い出から図面化をすすめていたので「天にも昇る」思いがした

③昭和 34 年「公民館利用日誌」＝１年分だけが現存。データ化して利用状況を解析中

④昭和４年「八幡町図書館　図書原簿」＝およそ 1000 冊。八幡町図書館とは？

⑤昭和 30 年合同七五三、31 年卓球台贈呈式写真

⑥昭和 40 年代はじめの公民館ちらしなど

古写真帳や天井絵などを保管～公民館の歴史的資料～

八幡公民館に保管されている歴史的資料

①昭和 24 年、全国第１回優良公民館「文部大臣表彰状」、県教育委員会表彰状

②昭和 23 年ころ、浅見喜舟書「八幡建設の歌」、「座右の銘」板書

③昭和 23 年、山口　達画伯筆、大天井絵「四季草花図」
〃　23 年ころ、同、板絵額装「浜辺にて」「鳳凰」「しゃも」

④「公民館行事写真帳」＝昭和 25 年～30 年ころの行事アルバムおよそ 50 点
昭和 25 年＝秩父宮妃殿下お成り時八幡宮境内をご案内
〃　26 年＝端午の節句、さなぶり、浪曲大会、盆踊り、公民館主事研究会
〃　27 年＝成人式、県下青年学級、ボーイスカウトなど

⑤「八幡公民館解体集輯」＝旧公民館時代の八幡町と公民館表彰状、およそ 40 点
運営資料などは保管されていない。

昭和 46 年以降発行の「公民館新聞」（昭和 25 年～45 年は発行なしか）

①昭和 46 年～平成 15 年「八幡公民館だより」＝不定期、年０～12 回、Ｂ４判１面、謄写印刷または手書き輕印刷

②平成 16 年～平成 23 年「八幡公民館だより」→「八幡公民館　ぎんなん」→「公民館だより　やわた」→「公民館だより　ぎんなん」＝年２回程度、Ｂ４判両面、ワープロ簡易印刷

③平成 23 年～現在、運営委員会「八幡公民館だより」＝年３→４回、Ｂ４判両面、白黒→カラー本印刷

④平成９年～現在、公民館連絡協議会「八幡公民館　連協だより」＝年１回、Ｂ４判、両面本印刷

境内の神聖が保てない～苦悩する八幡宮～

飯香岡八幡宮日誌（当時内田羊之助宮司）に書かれた公民館関係記事

①昭和２２年９月１５日（月曜日）氏子総代などにて学校増築敷地を実地踏査の決定す。境内へ学校校舎を建設するがごときは、境内の風致を害し神職としては絶対反対なるもいかんとも致し方なし。数百年来の八幡宮境内の風致もメチャメチャになる訳なり。学校と神社と同居では神社の神聖を保つことは到底不可能なり。加うるに御社頭が漸次廃頽する今日、神社将来の維持はおぼつかなきことなる。世相の就らしむる所ありとはいい、八幡町民の自慢する八幡宮も到底神聖を保つことあたわざるに至るべきなり。

②１１月１２日（水曜日）境内の南方浅間神社の前通り全部、数百年来の樹木を切り払い、今回学制変更による６３制学校の校舎を建設す。神社側においていかに反対すといえども、町会議員全部の主張にして氏子全部の意向なりとして応ぜず（中略）まことに遺憾至極のことなれどもいかんともしかたなし。境内は学校生徒の運動場、遊び場所となり、数百年来境内風致の尊厳を維持し、房総一を誇りたりし八幡宮もいまや市政の一村社と区別なきまでに至りたり、そのここに至りたるは種々なる原因の重なり合い、一種微妙なる経緯による所なるも、八幡町将来のために誠に遺憾なることなり。（中略）八幡町将来のため惜しみても余りあると思う。

③昭和２３年４月１日（木曜日）午前９時、公民館地鎮祭執行、内田宮司奉仕

④４月２３日（金曜日）公民館上棟式執行

⑤６月２３日（水曜日）八幡公民館は26日落成式挙行で工事を急いでおるが26日には落成せざる模様なり。しかし式だけ催して残工事はゆるゆるやることなるべし。

⑥６月２６日（土曜日）八幡新制中学校および八幡公民館の落成式を執行、川口知事、多田代議士そのほか多数参列せり。

⑦９月３０日（木曜日）公民館落成「こけら落し」として吉右衛門、雁治郎一座の興業をなす。大入り満員の盛況であった。

⑧昭和２４年１１月２７日（日曜日）綜合グラウンド完成祓い、内田宮司執行、八幡公民館表彰祝賀式および綜合グラウンド完成祝賀式、公民館にて挙行、川口知事その他警官、各地方事務所長、市原郡各町長等参列。式終って白鳥旅館にて祝賀式。町民一同には福引執行、その他演芸会など夜半まで執行。

⑧昭和２６年５月５日（土曜日）公民館にて生活改善の端午の節句、なんだか寂しいようであった。

⑨１１月１５日（木曜日）七五三の祝日なるもお祝いは公民館に奪われたるをもって社頭は寂し、生活改善という美名の下に世の中には微妙なるもあるものだ。

漁業組合の海面埋立て補償金について

①昭和３２年６月４日（火曜日）海面埋立て補償金の問題で呼出しがあり、公民館の談合会に出席、海苔業者は200万円、あさり業者は３０万円だが、これを５０万円とするというのである。

②８月１５日（木曜日）海面埋立て仮調印、午後４時まで公民館で行われた。八幡が歴史的転換を来す第１歩。

③９月１５日（月曜日）きょうは公民館で漁業協同組合の臨時総会を開催。いよいよ埋立て補償の額を了承するに至った。総額２０億５０００万円という。個人最高額が２０４万円という。あさり業者でも４１万５０００円という。分割払いとなるというもまずもって補償金ブームが到来。

④昭和３４年６月１２日（金曜日）本日公民館において漁業組合解散に際する総会が開催され、かねての念願だった八幡宮に対する記念品献納の件が提案された。（中略）鈴木敬介組合長が提案理由として、八幡五所漁業協同組合は過去において八幡宮社務所を組合事務所として発足し、いわば発祥の地である。八幡宮に意義ある記念品を献納したしとの説明に対し異議なく可決をみたるは同氏の人格識見の卓越せる結果にして衷心より敬服、かつ感謝の意を表する次第である。

(8)

八幡町公民館昭和二十五年度行事予定表

八幡町公民館長　菅野儀作

月	別		
	月		
	本館行事	敬老部	産業
四月	分館会議	定期講座	農業講習
	青年会議	成人青年婦人講座	農業研究
	総会		自治会
五月	分館会議	定期講座	陸上田畑
	青年会議	読書会	稲作牧場語会
	子供の日	巡回文庫	ヒエヌキ宣伝
	母の日		
	憲法記念日		
六月	史談会	巡回文庫	さなぶり大会
	青年連絡会議		主婦の集ひ
七月	分館会議	定期講座	篤農家懇談会
	青年会議	郷土史跡探訪	
	他町村視察	巡回文庫	
八月	分館会議	夏季大学講座	水田二毛作研究会
	青年会議	巡回文庫	のり研究大会
	盆踊大会	図書消毒	

月	別		
	月		
	本館行事	生活改善婦人部	保健衛生部
四月	分館会議	役員会	無料検診
	青年会議	新役員歓迎会	健康娯楽研究
	総会	婦人巡回	乳児健康相談
五月	分館会議	陸上田畑	無料検診
	青年会議	婦人赤十字	衛生講話
	子供の日	奉仕班自転車巡回	チフス予防注射
	母の日		屠畜検査
	憲法記念日		
六月	史談会	結核撲滅運動	
	青年連絡会議	無料検診	無料検診
七月	分館会議	無料検診	無料検診
	青年会議		種痘
	他町村視察		
八月	分館会議	巡回文庫	巡回文庫
	青年会議		
	盆踊大会		

月	別		
	月		
	本館行事	教育部	体育厚生部
四月	分館会議	定期講座	巡回野球大会
	青年会議	成人青年婦人講座	健康娯楽研究
	総会		緑の巡回
五月	分館会議	定期講座	花まつり
	青年会議	読書会	
	子供の日	巡回文庫	子供大会
	母の日		子供読会
	憲法記念日		全町巡動会
六月	史談会	巡回文庫	さなぶり大会
	青年連絡会議		公民館祭
七月	分館会議	定期講座	七夕祭
	青年会議	郷土史跡探訪	
	他町村視察	巡回文庫	
八月	分館会議	夏季大学講座	水泳大会
	青年会議	巡回文庫	野球大会
	盆踊大会	図書消毒	子供会夏休成績品展覧会

月	別		
	月		
	本館行事	教育部	産業
九月	分館会議	名月会句会	農業講習
	青年会議	定期講座	農業研究
	青年連絡会議	巡回文庫	農業視察
		公会計講会	
十月	分館会議	史談会	作見会
	青年会議	定期講座	
	館報発行	巡回文庫	
	秋祭り		
十一月	分館会議	定期講座	農業物品評会
	青年会議	読書会	
	文化の日	巡回文庫	
十二月	分館会議	巡回文庫	
	青年会議		
一月	分館会議	巡回文庫	機織講習
	青年会議	定期講座	農業簿記講座
	新年祝賀式		
	成人の日		
	予算編成会		
	館報発行		
二月	分館会議	定期講座	のり研究会
	予算青年会議	巡回文庫	読書会
			有畜研究会
三月	分館会議	青年大会	いも床、麻苗床、研究会
	青年会議	小学校	
	各種団体との連絡協議会	学校芸会	馬鈴薯増収
		父兄会	
		先生謝恩会	
	母の日	送別大会	
		全中学校	

月	別		
	月		
	本館行事	敬老部	産業
九月	分館会議	役員会	無料検診
	青年会議		視察旅行
	青年連絡会議		
十月	分館会議		
	青年会議		
	館報発行		
	秋祭り		
十一月	分館会議	家庭科学講座（住）	無料検診
	青年会議	七五三合同祝	
	文化の日		
十二月	分館会議	婦人部作業連絡協議会	無料検診
	青年会議		結核撲滅運動
一月	分館会議	婦人講習会	無料検診
	青年会議	養蚕講習会	
	新年祝賀式		
	成人の日	女青年講会	
	予算編成会		
	館報発行		
二月	分館会議	未亡人会	無料検診
	予算青年会議		
三月	分館会議	合同節句	無料検診
	青年会議		腸チフス予防注射
	各種団体との連絡協議会		
	母の日		

月	別		
	月		
	本館行事	教育部	産業
九月	分館会議	秋分の日	
	青年会議		
	青年連絡会議		
十月	分館会議	町民巡動会	
	青年会議	世論調査	
	館報発行	他全娯楽研究会	
	秋祭り	自転車競争会	野球大会
十一月	分館会議	演劇鑑賞会	
	青年会議	七五三祝	
	文化の日		
十二月	分館会議	歳末同情慰問民生相談所	
	青年会議		
一月	分館会議		
	青年会議	かるた会	
	新年祝賀式		
	成人の日	羽根つき大会	
	予算編成会		
	館報発行		
二月	分館会議	子供会対抗	
	予算青年会議	球技大会	
三月	分館会議	ひなまつり	
	青年会議	春分の日宗教講演	
	各種団体との連絡協議会	演劇、春祭	
	母の日		

歳入歳出差引残金なし
昭和二十五年三月三十日提出

歳出	金額
一、定期講座費	一二〇、〇〇〇
二、敬老費	四五、〇〇〇
三、体育費	二八、〇〇〇
四、保健衛生費	二〇、〇〇〇
五、産業奨励費	三五、〇〇〇
六、生活改善費	五〇、〇〇〇
七、農業研究費	二二、〇〇〇
八、婦人指導費	二〇、〇〇〇
九、その他	六四、〇〇〇
計	一一〇、〇〇〇

歳入	金額
一、県補助金	三五、〇〇〇
二、町村補助金	一五、〇〇〇
三、寄附金	八、〇〇〇
四、使用料	二三、〇〇〇
五、雑収入	三五、〇〇〇
六、繰越金	一〇、〇〇〇
七、繰入金	九、〇〇〇
八、その他	一四五、〇〇〇
計	一、八〇〇、〇〇〇

歳入	金額
一、県補助金	一三、〇〇〇
二、町村補助金	一三、〇〇〇
三、寄附金	一二、〇〇〇
四、使用料	一五、〇〇〇
五、雑収入	一二、〇〇〇
六、繰越金	一一、〇〇〇
七、繰入金	△八一、〇〇〇
計	三〇〇、〇〇〇

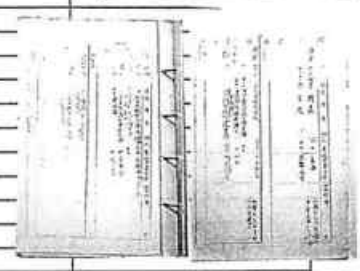
菅野館長時代の「八幡町公民館だより」

15　　24

たまたま1年分だけが残存

昭和34年度「八幡公民館利用台帳」　4月

月別集計データ解析中



月日	曜	室名	開始	終了	分類	利用者名	講堂	2階	小室	ほか	責任者	備考	飯
4月1日	水	講堂	18	19:30	AB	剣道	12				鳥海		
		講堂	19:30	21	AA	生花	20				大野久月		解
4月2日	木	講堂	10	12	B	小学校入学式	300				今井校長		
		講堂	14	17:30	B	中学校入学式場準備	20						
		小部屋	15	17	C	建設係			2		小出		
		2階	15		E	消防分団三役以上役員会		60			川上団長		
4月3日	金	講堂	10	12	B	中学校入学式	173				川名校長		
4月4日	土	講堂	10	12	BC	中学校映画会	200				川名校長		
		講堂	13	23	H	鹿島建設映画会2回上映	1500				鹿島会長		
4月5日	日	2階	11	12:30	G	菅野先生選挙の事		45			鈴木貞一		
						雪のため手芸中止					斉藤先生		
4月6日	月	2階	14	16	E	町青年学級終業式役員会		10			加藤先生		
		2階	19	23	E	青年団役員会、役員選出							
		講堂	18	19:30	AB	剣道	18				鳥海先生		
4月7日	火	講堂	13	15	C	ツベルクリン注射	60						
		2階	10	15	C	建設課		3			出口		
		2階	16	19	E	町青年団新旧役員懇談会					宮吉町長		
		小部屋	15	16	C	税務課			4		竹内課長		
		小部屋	15	16	C	教育委員会			1		森先生		
		小部屋	18		D	選挙準備ロクオン取り			6		石川課長		
4月8日	水	小部屋	10	12	G	菅野県議選挙打合せ			25		影井		
		2階	12	15	G	準備委員会		30			鈴木貞一		
		2階	14	18	E	婦人未亡人会役員懇談会		65			宮吉町長		
		講堂	17	19	AB	剣道	20				鳥海先生		
		講堂	20	21:30	AA	生花	18				大野先生		
4月9日	木	講堂	10	12	BC	小学校映画会	全校				校長		
		小部屋	8	10	E	町青年団役員会			7		岡本林造		
4月10日	金					皇太子様美智子様御結婚							
4月11日	土					なし							
4月12日	日	小部屋	15	18	E	町体育協会役員会			17		吉田先生		
		講堂	19	23	H	日本生命映画会	300				安藤恒吉	使用料1000円	
		2階	19:30	21:30	AA	手芸		9			斉藤先生		
4月13日	月	2階	14	16	C	教育委員会		20			森先生		
		講堂	18:30	19:30	AB	剣道	7				鳥海先生		
		小部屋	19:30	21:50	E	町青年団役員会			4		岡本団長		
4月14日	火	2階	10	15	E	町会		39			宮吉町長		
						八幡五所埋立て補償金第3回支払日1人平均80万円クライ　菅野様より酒4升							
		講堂	13	16	E	町交通安全協会講習会	200				織田会長		
			20	21:30	E	青年団新旧団長打合せ	1				岡本団長		
4月15日	水					町婦人会総会中止							
		小部屋	10	15	C	税務課千葉納税のこと			1		竹内課長		
		講堂	17:30	19	AB	剣道	22				鳥海先生		
		講堂	20	21:30	AA	生花	19				大野先生		
4月16日	木	2階	11	12	G	菅野様後援会役員会	35				鈴木貞一		
		小部屋	11	16	C	五井保健所食事			7		鈴木係長		
4月17日	金	小部屋	12	15	E	農業委員会役員会	6				高山		
		小部屋	18:30		E	市原郡青年団役員会	15				岡本林造		
4月18日	土	2階	11	15	D	選挙キケン防止		37			小倉助役		
		講堂	15	17	BD	教職員移動歓送迎会		80			森教育長		
4月19日	日	2階	11	20	E	市原町新旧青年団役員会		50			岡本林造、宮吉町長		
		小部屋	7:30	9:30	AA	手芸			9		国吉		
4月20日	月	全館	10	17	H	千葉工業地鎮祭歓入式宴会	200				川島操		
4月21日	火	講堂	10	16	C	市原郡戸籍係打合会	15				今村		
		小部屋	12	17	E	旧菊間地区役員選挙打合会			20		金澤		
						個人演説会中止							
4月22日	水	講堂	10	13	BC	中学校映画会	全校				川名校長		
		講堂	14	15:30	D	選挙会場準備	9				夏目係長		
		講堂	20	21	AA	生花	20				大野先生		
4月23日	木					データ欠落							
4月24日	金					データ欠落							
4月25日	土					データ欠落							
4月26日	日					データ欠落							
4月27日	月	2階	10	12	C	市原市社会教育委員会		17			関根		
		講堂	13	16	E	市原町未亡人会総会	40				森会長		
						宮吉町長後援会中止							
		講堂	19	22	G	鈴木様の個人演説会	120				川島操		
4月28日	火	講堂	12		I	池田天久保家結婚式式場							
		2階			D	選挙キケン防止打合会					小倉助役		
		講堂			G	宮吉様個人演説会	220				鈴木貞一		
4月29日	水	下階	19	22	D	町長選挙準備					夏目係長		
		下階	20	21:30	AA	生花	22				大野先生		
						剣道中止							
4月30日	木	講堂	7	18	D	町長選挙					石川係長		
						宮吉町長4415、鈴木日定2047票							
利用者別(メモ)						合計	3592	465	103	0	4160		
						補正　中200、小300	4100	470	100	0	4670		

「役者町八幡宮日報」と照合中

ラジ
映画会5回 250人
新聞式 安保各1
青年団、青年学級、町会
消防団、体協

1、サークル内容（生花手芸剣道）12件、196人
2、学校（入学式、映画会）7件、1270人
3、町役場 10件、130人、4、選挙等 528
5、内容団体 534人
6、個人後援会（選挙）475人
7、会社内容 200人

広報いちはら　（第3種郵便物認可）　昭和47年6月1日

大講義室で剣道も

新しい八幡公民館が完成

新しい八幡公民館が完成しこのほど落成式を行ないました。これは、もとの公民館が区画整理事業で取りこわされたため作られたものです。

新しい公民館は、重要文化財の飯香岡八幡宮拝殿に隣接しており、また、四十八年千葉国体の蹴球会場でもある八幡運動公園サッカー場にも道路ひとつを隔てています。

鈴木市長が将来この付近に「青少年センター」も建設したいとあいさつしたことからもうかがえるようにとても環境にめぐまれています。青年に、婦人に、老人に、多くの市民団体に利用され、文字どおり社会教育の殿堂となることでしょう。

工費は六千三十八万円ほどですが、このほか備品に三百三十四万円かけています。鉄筋二階建てで、半地階もあります。

敷地の面積は九百七十二、五平方メートル、建物の総面積は九百九十九半方メートルです。

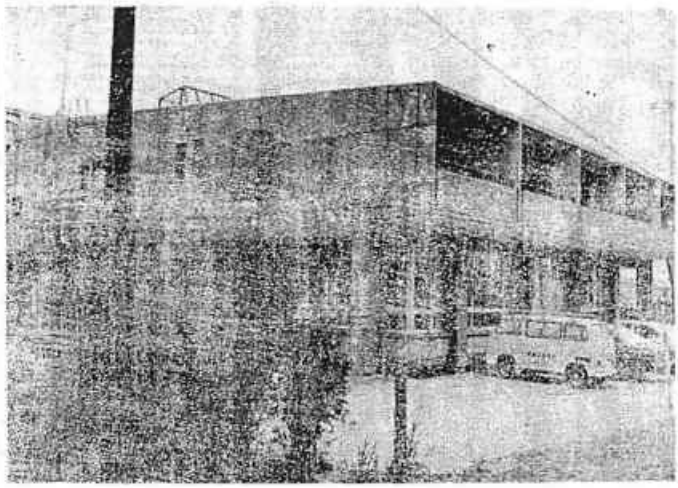
内部は階段やホールにじゅうたんが敷きつめられ、一階の図書室は読書会などに、調理室は料理の講習会などに利用してもらえます。

二階は和室、会議室、それに大、小の講義室がそれぞれひとつづつあります。とくに大講義室は、青少年に剣道で身心をきたえてもらおうとスギ板が張られています。

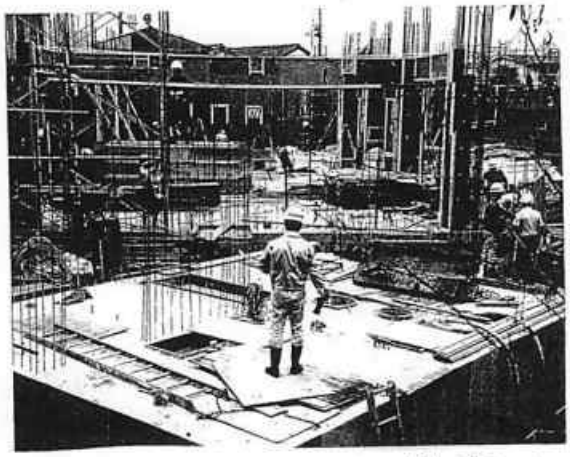
もとの八幡公民館は、昭和二十四年に建てられたもので八幡町民はもとより、市原郡の青年団、婦人会などの多くの催し物に利用されてきました。

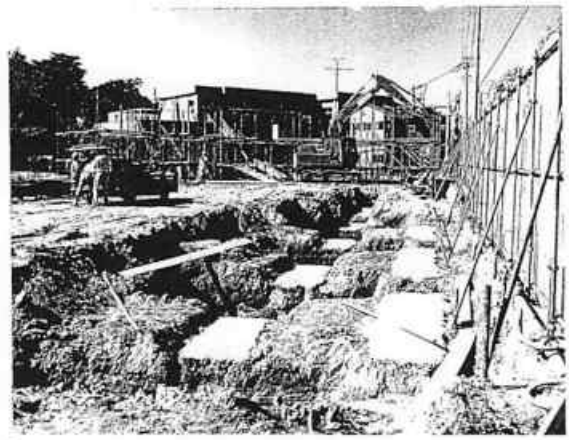
当時八幡町長をしていた菅野参議院議員は「町民は勤労奉仕をし、町議は敬譲を献上するなど、終戦後の乏しい財政の中から公民館建設は容易ではなかった」とあいさつの中で回想していました。

なお、ご利用になる方は、直接、八幡公民館（☎1984）へお申込みください。

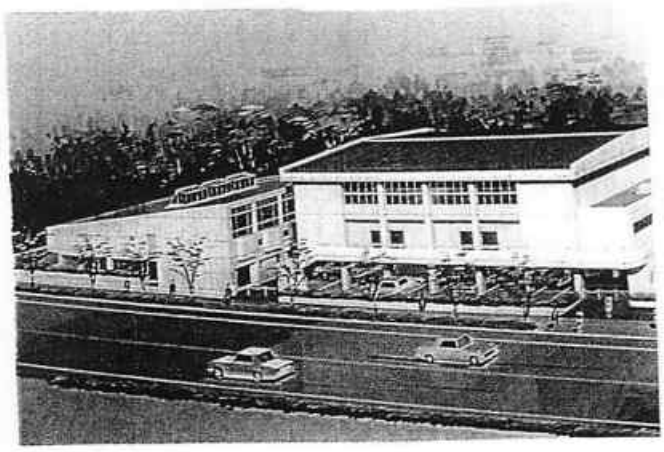


鉄筋コンクリートのモダンな公民館

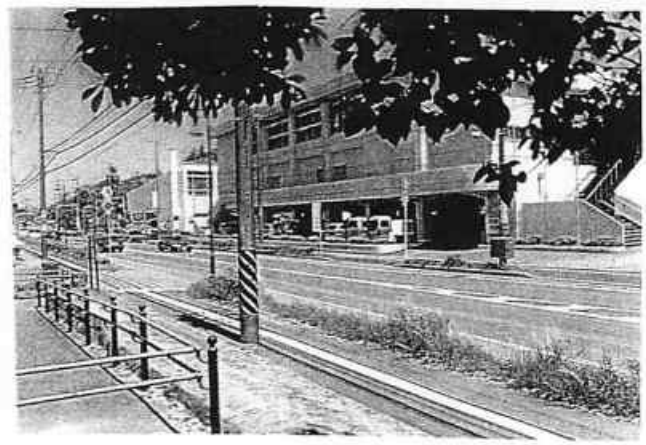




昭和61年9月 大規模改修工事

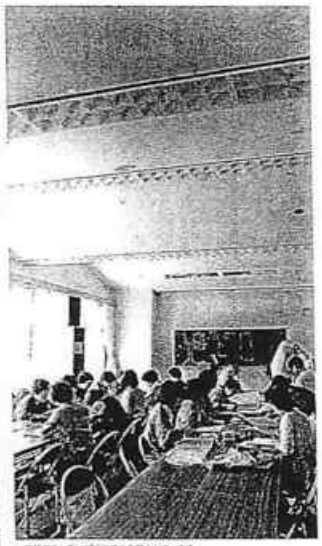


竣工図



現在の公民館

施設紹介・八幡公民館



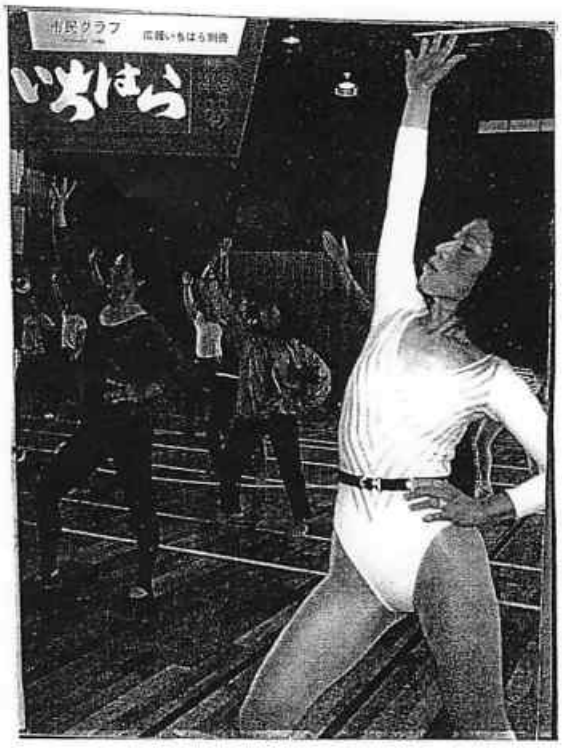
▲ゆったりと安心した空間を作り出す家具の配置。床材の他に和室も？設置

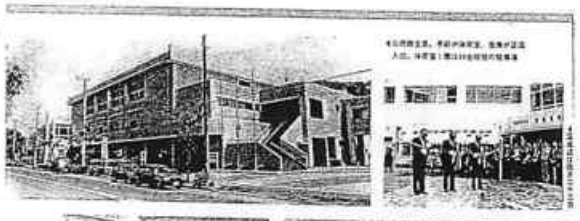
▲ステージ付きの講堂は小さな催しにうってつけ

▲視聴覚室。ワープロ教室も設置されています

▶新設された体育室。バレーコートが二面とれるほどゆったりとした広さ

▶多種多様な図書が豊富のラベルは、特に婦人向の図書が充実し、雑誌は約一百三十種





サークル活動の場が完成

その八幡公民館に市原支所を併設

八幡公民館が新しい姿になってオープンしました。約8ヶ月から大規模な増改築工事を行っていた八幡公民館ですが、約1ヶ月ちかく閉鎖。昨秋、再開された市原支所を併設して、6月から業務を開始しています。

併設されたこの市原支所は、旧市原八幡支所が八幡地区公民館との共同の形によって、地域住民の利便を考慮されたもの。特に、旧市原支所が市役所から遠くはなれていることもあり、とくに高齢者の方々にとっては、大変便利になりました。

併設後は「まちづくりの中心コミュニティー施設」として、自治会活動はもちろんのこと、ボランティア活動などの拠点として利用してゆきたいと思います。さいわい、公民館ではこれまで区民の方々のさまざまな社会教育の場を提供してきました。また、この活動をさらに拡大、充実していきます。特に、事前に調査から始まる個人講座や市民主催講座などはやさしくかみくだいた内容のものから、まくの内の会議なども呼びかけています。

サークル活動の場としての大きな核として、約100のサークルが活動中。手芸などの盛況ぶりです。

また新しい利用法用は、約6時間。1回1百円と常識的です。土曜日には約全員公民館などに利用されるお講座などがあります。

障害者スポーツサークル

八幡公民館だより

昭和61年2月10日(土)

八幡公民館活動正式発足

郷土史コーナー

障害保険に入って下さい

小・中学生の部屋貸与

体育室開放日

排句教室

「市民クラブ」に掲載された昭和61年のリニューアルオープン

「公民館だより」も発刊された

貴重資料紹介

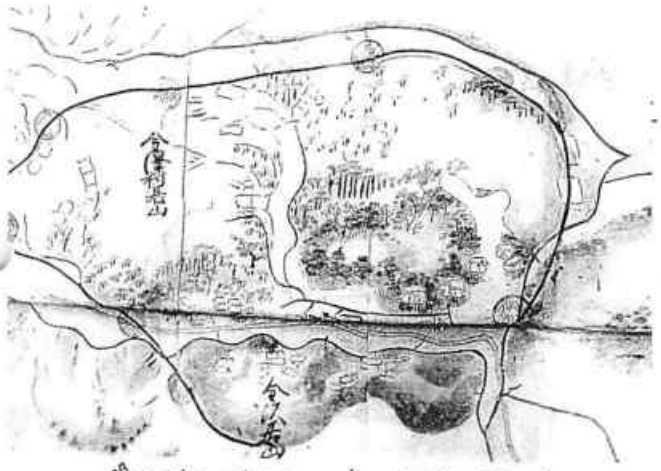
1）牛久村、佐是村等入会い地野論幕府評定所裁許状絵図（佐是・鶴岡家旧蔵文書）

①入会（入合）い地野論＝一定の村同士で権利が設定されているまぐさ場をめぐる争い

②評定所＝幕府最高裁判所。複数領主にまたがる訴訟を担当。老中、3奉行等が合議した評定所の裁許状絵図＝とくに原本は貴重。江戸時代の裁判制度と仕組みがわかる。

2）「金色夜叉」尾崎紅葉晩年の書簡と印譜

①菊間藩士家の祖母が紅葉と親しかった生家からの嫁入り持参品、印譜は未亡人から



裁許絵図の入合地部分

裁許状

寛文10年（1670）＝佐是・鶴岡家旧蔵文書1

入合い地野論裁許状

上総国市原郡牛久村、佐是村ならびに同国同郡金沢村と野論について牛久村
佐是村の百姓目安差し上げ候、金沢村近所の野へ先規より牛久村、佐是村その外
中村、川間村、辻村、名代村、金谷村、この七か村ならびに金沢村、右の野へ入合い草刈り
来たり候ところ、去る酉年より金沢村より七か村の者の（に）草をからせ申さず迷惑の由、
牛久村、佐是村の百姓申し出候こと。
一、金沢村の百姓名寄せを穿鑿（詮索）のところ、文禄三年の水帳に右の野は金沢村の内
相定め他村の者一切入れ申さず候、しかるところ右七か村の者連々盗み刈り候についてこれを
押え候由、金沢村の百姓申し候こと。
一、牛久村の百姓申し候は、金沢村の野にてはござなく、牛久村の野にまぎれなく候、その証処
は中村、
川間村、辻村、名代村、金谷村、この五か村の百姓、右の野へ入合い、野手籾一石、麦一石毎
年牛久村へこれを出し候由申し候、五か村の者共も牛久村へ野手右の員数出し来るの由申し候。
右の論所検使として西尾加右衛門、丸茂兵左衛門仰せ付けらるのところ、当地において双方の百
姓申し分
右両人糺明せしめ、僉議（せんぎ）の上、五か村の野手、牛久村へ相納め候えば、牛久村の野に
相聞け候えども、
八か村領主一人の時、野手地頭へこれを納め候、しかるといえども御領所にまかり成り候後、村々
小給人に相渡し候とき、
右の野手、牛久村の高にこれを結わえ候のよう推察候あいだ、野は金沢村の地に連判中相談の上
これを極め候、金沢村ならびに七か村の百姓入合いに草を刈るべし。有り来りの田畑はそのまま
これを差し置き、
自今以後、七か村はもちろん金沢村の者も新開、新林仕るまじく候、ただし金沢村居山の分へは
七か村の者入るべからず、後鑑のため絵図の表墨筋を引き、印判を加え双方へこれを下し置くも
のなり。

寛文十庚戌年四月十四日

内蔵（印＝勘定奉行杉内正昭）
伊右衛門（印＝〃　松浦信貞）
彦右衛門（印＝〃　妻木頼能）
出雲（印＝北町奉行島田忠政）
大隅（印＝南町奉行渡辺綱貞）
甲斐（印＝寺社奉行加賀爪直澄）
山城（印＝〃　小笠原長頼）
但馬（印＝老中土屋数直）
大和（印＝〃　久世広之）
美濃（印＝〃　稲葉正則）

後半 28

後半 スライドで紹介

八幡公民館が創立した

1948 昭和23年、

分かり
- 70年前＝戦後激動期の真っただ中にあった
  - 敗戦→連合軍の進駐、食料など極端な物資不足、焦土の国土と人心混乱の中、人々は混乱から立ち上がろうと必死にもがいていた
- 前年「日本国憲法」制定→自由と平和の国へ
- 「教育改革」で義務教育の63制がスタート
- この年の第2回総選挙で片山哲社会主義内閣誕生→6か月で退陣
- 戸田均内閣をへて吉田茂内閣が誕生するなど激しく変遷した

いつも
- 戦後日本のシンボル美空ひばりがデビュー
- 岡晴夫「暗くな小鳩よ」、菊地章子「星の流れのように」ヒット

若者が多く 19歳 ?

社会はおやく立直りの気配をみせつつあった

みお のりくり舟

昭和20年代の八幡町南町みお

明治後期の浜本町からみた八幡港

当時の八幡町

八幡様の目の前に大海原が広がり、富士のすそ野が雄大な姿をみせた
気候温暖、性格も温厚、町の人たちは海の幸に依存し、多くは「半農半漁」、
海苔養殖やアサリ貝採取で生活を立てた

さん

戦後第1代八幡町長 市川得三 さん

八幡宮創建にさかのぼる神官3家の旧家
醤油醸造、酒類大卸

昭和20年8月15日終戦時の八幡町長
昭和22年「統一地方選挙」で県議選鞍替え、
圧倒的強さで当選するが、
26年選挙に敗れて引退

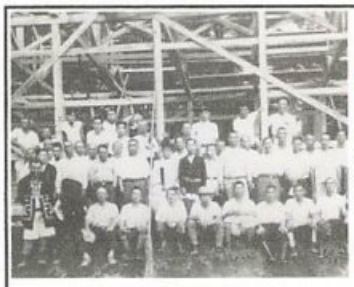
代って登場するのが

戦後第2代八幡町長 菅野儀作 さん
第1代八幡公民館長

八幡町の商家に誕生、青年団、
消防団活動での実行力と統率力
を認められて、町政刷新を掲げた
若者グループ「郷明会」に推されて
昭和22年町長選に立候補、
無投票当選

八幡中学校の建設

菅野が最初に直面した課題が新制中学校の建設だった。63制の中学校は開設したが校舎はない。資材、敷地、資金不足が重く圧し掛かった。
旧習志野騎兵連隊の庶舎も払い下げがまとまり、校地も境内に決まる。
当時の町に請負に出す余裕はなく、すべての作業は自分たちでやることにする。



職工組合、役場、議員、町民一体となった建設工事が始まった
敷地の大木切り倒しや既舎解体、運搬は町の人たちの勤労奉仕、生徒も授業はそっちのけで雑用に駆り出された

昭和22年12月25日　棟上げ式

八幡中学校の竣工

新学期はぜひ新しい校舎で、工事は寒さを押して続けられ、昭和23年3月に完成した。勤労奉仕参加者は延べ9450人、1戸平均7人であった。
八幡公民館との合同竣工式は昭和23年6月22日に行われた。

八幡中学校第1期卒業生

昭和40年代の八幡中学校
現在＝運動公園、公民館、支所

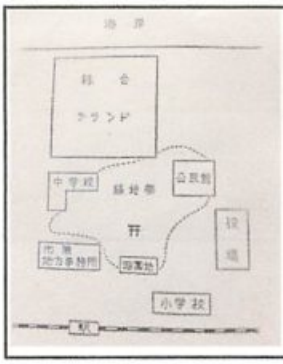
海砂を運んで総合グラウンドを建設

中学校は作った。材木も残った。「次は公民館だ」
公民館の建設工事は中学校竣工から日も浅い昭和23年4月1日に始まった。
設計から施工、総指揮は中学校に続き、今回も白鳥孝治がとった。

初代公民館を造った白鳥孝治

公民館建設に情熱を傾けた「熱血漢」
菅野との絶妙コンビが生んだ
「傑作公民館」が誕生
旧公民館建設委員長
千葉県公民館連絡協議会創立に貢献
初代会長から4期
県社会教育副委員長、八幡町議、
八幡中PTA会長、氏子総代

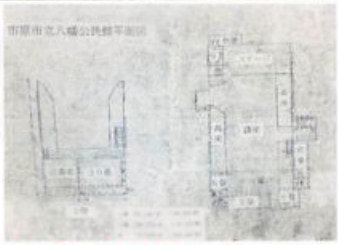
飯香岡八幡宮境内配置図　昭和23年ころ



「社会教育10年の歩み」に紹介された「八幡町の中心部略図」と当時の町役場

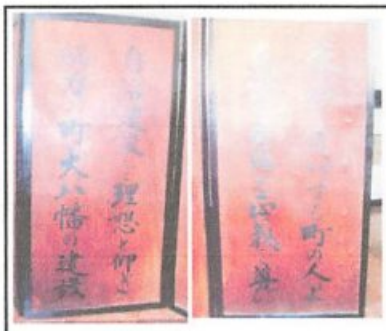
メモ青焼き原図

復元トレース図→



昭和38年市制当時の旧八幡公民館平面図

今回も職工組合と町の人たちが力をあわせた。勤労奉仕は延べ4700人、工期4か月、木造洋館2階建て、延べ237坪。1階に舞台大講堂を備え、2000人収容の新築公民館が完成したのは、昭和23年6月26日、「こけら落とし」は実りの秋を待った9月30日に行われ、大入り満員の盛況であった。



浅見喜舟板書

八幡公民館に浅見喜舟書の板戸が大切に保存されている。

平和を愛する町の人よ
真理と自由を尊び
自治建設を理想と仰ぎ
協力の町大八幡の建設

ここには「町作り、人作り」にかけた町長以下、町の人たちのえがいた「八幡公民館」設立の想いがこめられていた。

公民館長は菅野町長が兼務した

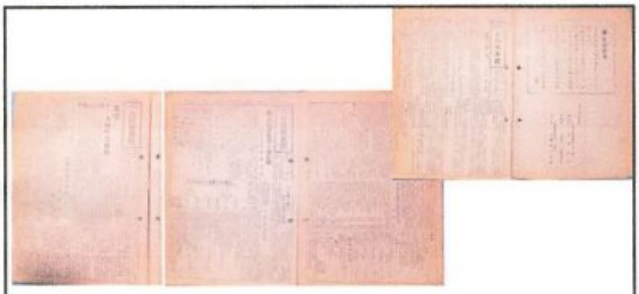
八幡公民館の活動は目覚ましかった。

昭和24年度運営方針
①教養の向上、②自治の振興
③産業の増強、④生活の改善
⑤体育レクリエーション
のもと、青年連盟、婦人会、ボーイスカウト、文化団体が相次いで誕生した。
それは菅野町長の「カリスマ性」が産んだ「奇跡」でもあった。八幡公民館がはじめた合同端午の節句、公民館結婚式などの「生活刷新運動」は県下から全国に発信していった。

昭和24年11月3日「全国優良公民館」として文部大臣賞を受賞
菅野館長が天皇陛下に拝謁した

昭和25年秩父宮妃殿下が八幡公民館に来場された

昭和24年に発行された「公民館新聞」の第1号。予算化して有償発売した



町政は公民館中心に動いている。町長でもあった菅野館長が描いた
「人作り、町作り」のメッセージが躍動している。

昭和25年～30年の公民館活動を伝える
「公民館行事写真帳」

敬老会に講堂を埋めつくした町の人たち。1階は1300人、2階桟敷は300人を収容した。前列は座り、後方長椅子の小中学生は町行事に全校で出席した。

母の日にこどもたちが輪になって踊る
講堂にござ敷で座ったお母さんたちの
笑顔、はだしのこどもたち、
なぜか片方の草履……
すべてに時代を映し出している

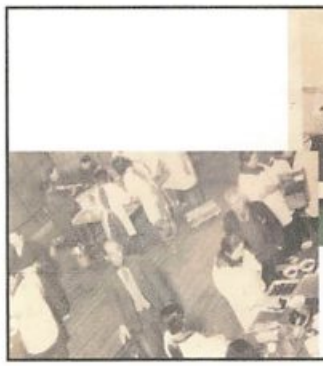
こどもの日　舞台の3重の緞帳が自慢だった

合同端午の節句と合同七五三　八幡公民館の生活刷新運動は全国に知られた

成人式　男性はふだん着、女性は落ち着いた和服が多かった

県や支部、公民館主催の研修大会も活発

「青年学級」講座に若者たちが集まった



公民館活動でのり養殖の研究
中学校教師で公民館職員を兼ねた今井先生

料理教室？に岩田助役も顔をみせる

昭和25年の公民館図書室「読書週間」の関係者。
5つの分館を結ぶ「巡回図書」もスタートした

盆踊りや町内運動会（仮装大会）、ボーイスカウトも公民館活動から生まれた

猛者が多かった剣道大会や合宿

「生活刷新運動」の中心となった公民館結婚式

娯楽の乏しかった時代。映画会や歌謡ショー、浪曲大会は毎回満員となった

昭和26年、「一斉地方選挙」に菅野儀作が県議会選に出馬
菅野が票の取り過ぎで自由党現職3名が損って落選。新旧交代を印象付けた。
県議5期をへて参議院3期。この間、県政若手リーダーとして京葉工業地帯、
新東京国際空港の建設などに力を発揮した。

2018/5/29

34

戦後第3代八幡町長　鈴木貞一

第2代八幡公民館長か

県議選に出馬した菅野後継者として
昭和26年八幡町長選に立候補。
対立候補者はなく無投票当選、
しかし28年の衆議院議員選挙で
始関伊平派選挙違反に連座、
任期途中の29年に辞職した。

1955　昭和30年

八幡町、市原村、菊間村合併

市原町誕生

戦後第4代八幡町長　鈴木敬介

昭和29年、鈴木貞一の後任選挙は
「陣屋」本家のいとこ、元町長の鈴木敬介、
八幡町議で住職の鈴木日定が立候補
始めての投票選挙となり、鈴木敬介が当選

半年後の昭和30年八幡町と菊間村と合併、
翌31年市原村が加わって市原町となる。

第1代市原町長　宮吉長門

父長五郎が料亭経営と漁業組合長
八幡町長など務めた旧家

自由党始関伊平派で、菅野儀作、鈴木貞一
と「三羽がらす」と謳われた。
町長時代、八幡海岸埋め立て、工場誘致、
市原市制などの大事業に取り組んだ。
しかし第1回市長選で鈴木も立候補、両氏
が戦うことになれば始関派の分裂は必至、
菅野の一本化工作は難航したが最終的に
宮吉が出馬を断念した。
4年後の市長選に復活をかけて鈴木に挑ん
だが敗れた

菅野儀作と
鈴木敬介、宮吉長門銘
を刻む漁業組合の
解散記念碑と
八幡宮に寄進された
神楽殿

県の千葉、市原、木更津、君津内湾
4千万坪埋立て計画

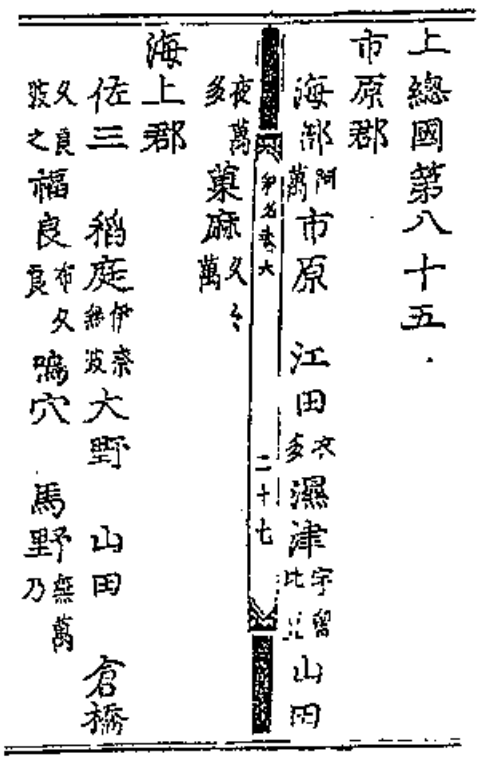
昭和31年、八幡五所漁業組合との間で
漁業権の補償金交渉がはじまる。
年寄たちは「海をなくしてはいけない」と反対、
しかし若者たちは
のりや貝に積る将来への不安と、雇用拡大
による新しい「町づくり」にかけた。
昭和32年10月、県との間に補償協定が調印
された。

埋立て工事はすぐに始まった。大型浚渫船で
救い上げた海底の砂が送泥管で運ばれ
あっという間に完成した

道路が敷かれ、工場プラントが次々と誕生していった

市原の古代郷名について

① 1987年7月11日（土）　郷名資料の紹介
② 1987年7月18日（土）　郷の位置と郡界


上總國第八十五
市原郡
海部萬 市原 江田 湿津
海上郡
佐三 稲庭 大野 山田 倉橋
福良 鳴穴 馬野

（表紙）

市原の古代郷名について

（財）市原市文化財センター　宮本敬一

1回目　1987年7月11日（土）　郷名資料の紹介
2回目　1987年7月18日（土）　郷の位置と郡界

概要

市原市は古代上総国の市原・海上の二郡からなり、古代には上総国の政治・文化の中心地として栄えていました。市原郡に上総国の行政府である国府や関連施設が置かれていたためです。しかし、肝腎の国府の所在地についてはいまだに定説がありません。ただ、すくなくともある時期以降（奈良時代の終り頃か）は山田橋から門前にかけての台地上に、市原郡の郡家と並存していたことは間違いないようです。

国府所在論に限らず、あいまいな議論がおこなわれているのは、基本的な事実関係についてなにが確定し、どこから不明なのかについての共通理解がなされていないためと見受けられます。そこで、古代市原・海上の二郡の郷を手始めに取り上げて見たいと思います。市原市は市原・海上の二郡からなるといいながら、二郡の境界がかならずしも明らかではありません。郡界を明らかにするためには、それぞれの郡を構成する郷の位置がわからないといけないからです。まず1回目で郷名資料を紹介し、2回目でその比定地と郡界についてわかっていることをお話ししたいと思います。

郷名資料

古代の「郷（さと）」は、律令国家が人民を地域的に編成して支配するために人為的に設定した行政区画であり、その名称は次のように移り変わっています。

7世紀後半	＝	（国	一 評）	一 五十戸	
〃		（天武・持統朝） ＝	国 一 評	一 [illegible]	（浄御原令）
大宝元年（701）以降	＝	国	一 郡	一 里	（大宝令）
※霊亀元年（715）以降	＝	国	一 郡	一 郷	一 里
天平12年（740）以降	＝	国	一 郡	一 郷	

古代の郷名についての基本的な資料は『和名類聚抄』です。『和名類聚抄』は平安時代中頃の承平初年（930年代前半）に源順（911～983）が編纂した一種の国語辞書ですが、問題の国郡郡や郷郡を編纂するのに使った資料は源順の時代より100年ほど前の9世紀のものとされています。そこで、平安時代前期の諸国の郷名を網羅的に知ることができるわけです。ただ、古代や中世の書物は筆写して伝世されましたからその間に誤写や脱漏が生じるのはさけられませんでした。

『和名類聚抄』以外では、正倉院文書や木簡によって『和名類聚抄』より古い郷名を知ることができます。また、文字瓦・墨書土器・紙背文書等の出土資料が次第に増えつつあります。これらは断片的なものですが、当時の生の資料（一次史料）ですから、『和名類聚抄』の欠をおぎない、誤りをただし、その推移を知ることができる点で貴重です。

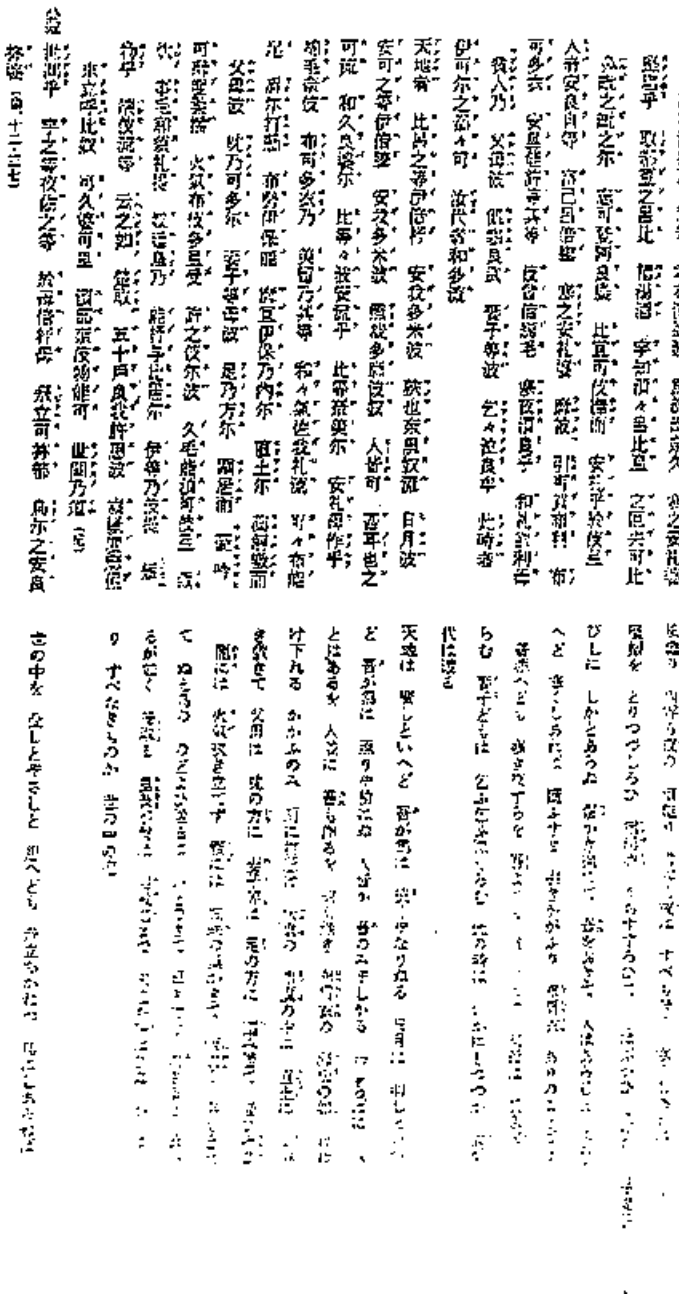
くだって、中世文書にあらわれる郡・郷・村・庄・保の名称も見逃せない資料です。それらの多くは近世の郷村をへて現在の大字名にうけつがれ、古代の郷名と現在の地名をつなぐ鍵になります。

以下、郷名資料を紹介いたします。

※ 出雲風土記の元年は三年の誤写の可能性が高く、現在では霊亀3年（養老元年717）説が有力。

①－b 万葉集 巻16－3847～3846

①－a万葉集巻5－892・893



名から市原の古代を考える（宮本敬一 資料）

②倭名類聚鈔（元和古活字那波道円本）

上總國第八十五

市原郡

海部郡 市原 江田 湯津

海上郡 佐三 稲庭 大野 山田 倉橋

福良 鳴穴 馬野

菜麻

望陀 周淮 天羽

長柄 山邊 武射

埴生

③和名類聚抄（高山寺本）

上総国第八十五

市原郡 海部 市原 江田

海上郡 佐三 稲庭 大野 山田

倉橋 福良 鳴穴 馬野

東海驛 飯高 新海 雨村 板極

市村 山辺 波津 椅鼻

栗原 門作 横尾 初倉

小河 横 島津 蒲原

長倉 柏之 庄屋 小高

大井 望陀 鳴穴 天羽 川上

藤浦 島穴 天羽 千上

浮島 河曲 海津

（参考）

平城京左京三条二坊六坪出土木簡

「海上採□□□」

④平城宮跡出土木簡

A表

□□八年八月□□□□□□□□□廿連六了　此間状　□□□風□

霊亀元年九月□□□□□□□□□

（参考）

万葉集巻14－3348　万葉集巻20－4357

⑯正倉院文書・丹つつみ・造仏所

中一斤一分　次

（部奉拾遺）

目奉部足人年卅三

上総國市原郡大倉驛家日奉部安麻呂嫡

中一斤次

文上貢師経弁興僧・造仏所

⑯正倉院文書・僧興弁経師貢上文

（続々修四十帙）

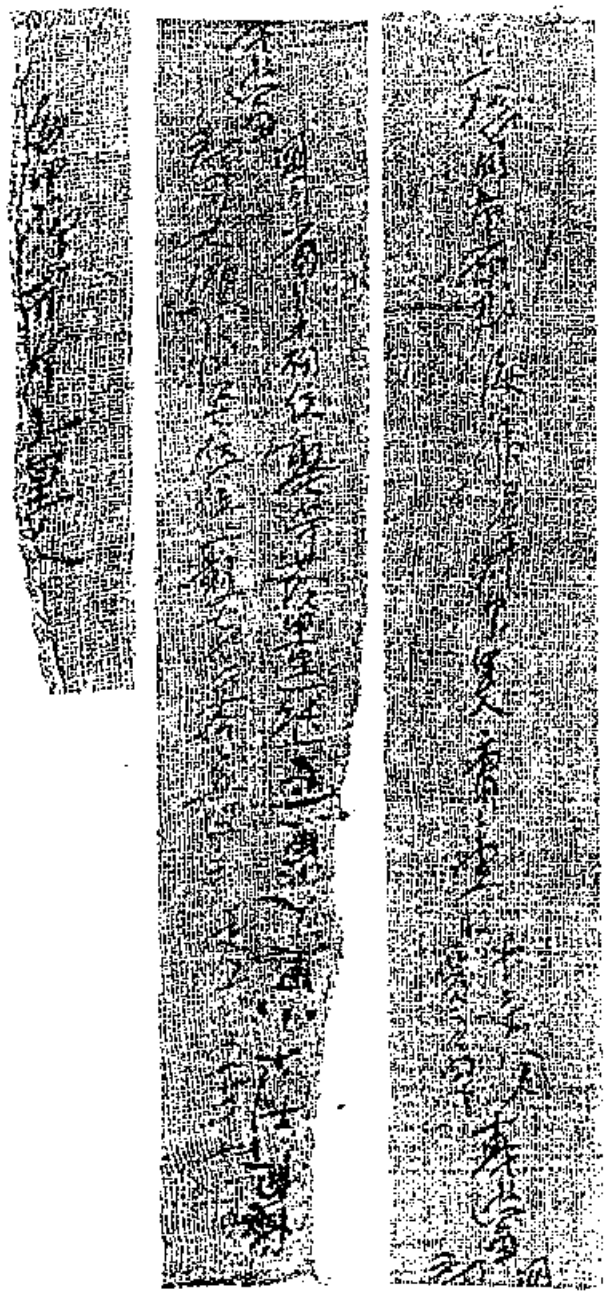
貢上　経師一人

刑部稲麿呂年卅八上総國市原郡江田郷戸主刑部荒人戸口

（貢進）勘知

寺主安恒

天平勝宝四年六月八日僧興弁



（貢）「海ゆ繼刑ゆ小里人」

上総國市原郡海ゆ那戸主刑ゆ小里人麻呂調　長二丈八尺　廣一尺四寸

（ヲ）

（ヲ）

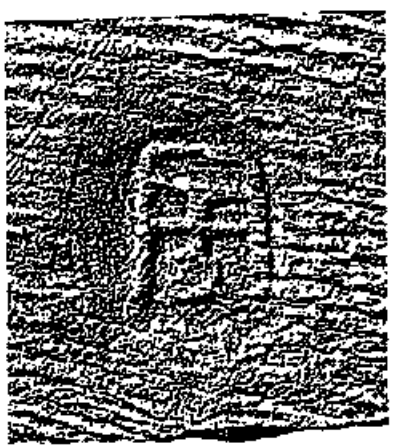
（ヲ）

⑧国分尼寺跡出土文字瓦

※ 祇園原瓦窯で焼成。「馬」（馬野郷）も伴出する。

「海」（海上郡）※「海上」と判明

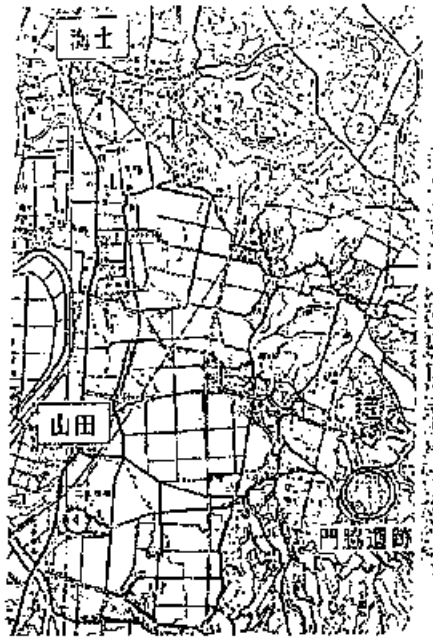
（参考）
荒久遺跡出土文字瓦



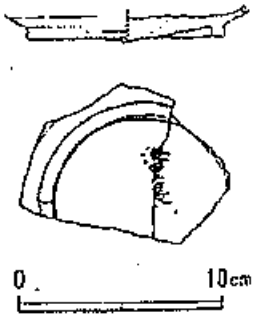
「国」（国津郡）

⑨国分尼寺跡出土文字瓦

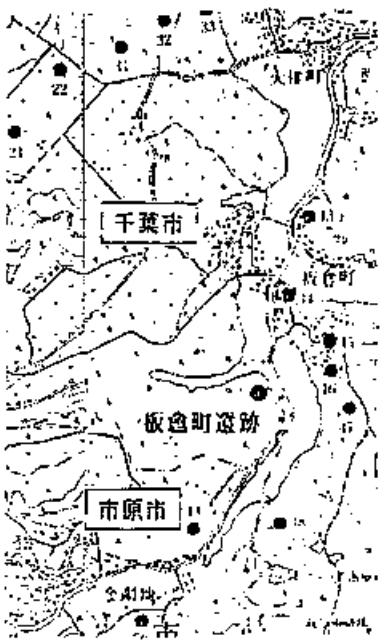
「[illegible]長谷マ部□」



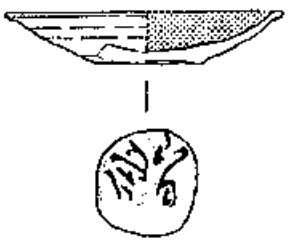
⑩穴ヶ谷・門路遺跡出土墨書土器



「海田長」



⑪千葉市・板倉町遺跡出土墨書土器



「山田□」郷カ

※ 国分僧寺跡から出土していることが判明

国分寺台遺跡群出土屋瓦類

⑭ 南田瓦窯跡出土

「福田」

⑬ 坊作遺跡出土

市ヵ「口原」

⑫ 坊作遺跡出土

「海上厨」

（参考）

国分僧寺跡出土

長ヵ「口橋荒田」

荒久遺跡出土

長ヵ「口谷畑口」

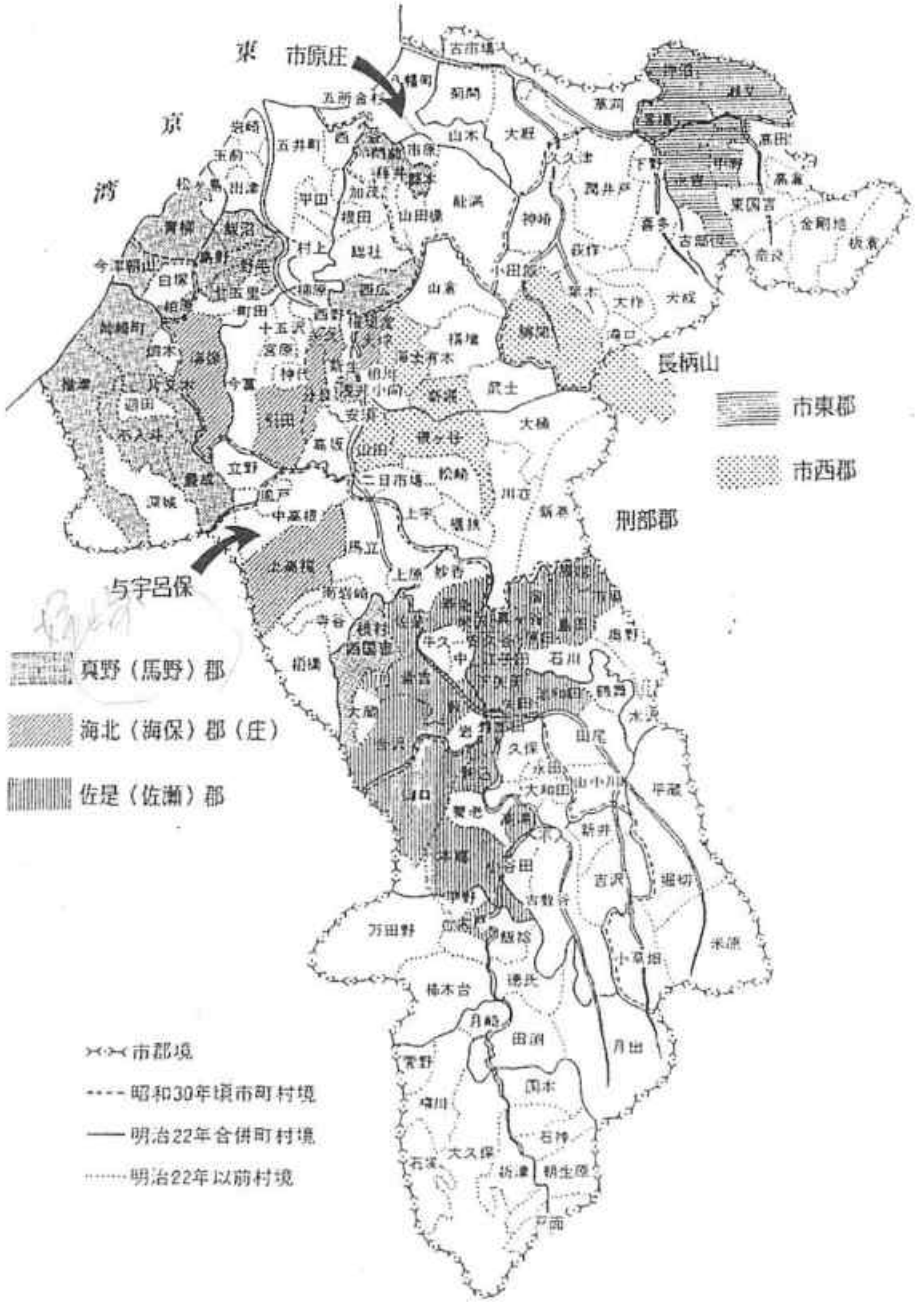
⑮ 荒久遺跡出土

寺ヵ「源津口田」

⑯ 中世文書にみえる郡・郷・村・庄・保等

- 夷野（馬野）郡
  - 椎津郷
  - 豊成郷
  - 鵜穴郷・鵜穴社
  - 青柳郷
  - 入沼郷
  - 郡本郷
  - 宮益郷 —— あさ山・のけの村・かしわ原名
  - 姉崎社
  - 因古郷
  - 小松郷
  - 不入続郷（不入計郷）
  - 片又木
  - 皆吉郷
  - さいひろ
  - 浅井村
  - 鵜野道
- 姉崎保
- 海上保
- 海北郡
  - 引田
  - 久吉郷・久吉保 —— 桐宇村
  - 糸久西村徳蔵寺
- 海保郡
  - 鵜野村
  - 浅井郷
  - 分目村
- 海保庄
  - 上高根村
  - 大坪村
- 与宇呂保
  - 浄住寺（中高根）
- 佐是郡
  - 矢田（前田）郷 —— 矢田村・平滝村・小山田村
  - 池和田郷・池和田村（谷田の内とするものあり）
  - 橘寺（皆吉）
  - 内田郷 —— 正福寺
  - 川田（河田）郷（庄） —— 常楽寺・坂中薬師堂（外部田）
    - 山口村・薮村・駒込村
  - 加茂高滝郷・高滝社 —— 下村・大戸・日竹村
  - 金沢村
  - 奉免村
- 市原庄
- 市西郡
  - 海郷
  - 勝馬郷
  - 新堀郷
  - 堺ヶ谷
  - 山田村
- 市東郡
  - 押沼
  - セマタ
  - 水吉（村）
  - ナカノ（ムラ）
  - 馬場
  - 宇田川
  - 根元
  - 半田
  - 松子

中世文書にみえる郷・村等分布図



⑱ 古代郡名遺称地分布図

古代市原・海上二郡の郷に関する諸説

（1） 地誌研究の流れ

泰平の世を迎えた江戸中期以降、それまでに蓄積してきた富と時間を生かして、富裕な町人や名主層をおもな担手とするさまざまな民間学が勃興してきました。その成果は明治以降の近代的な学問形成の基礎となりました。とりわけ社会の知識欲と教育水準を引上げ、多くの人材を用意した点が重要です。

房総における和名類聚抄記載の郷の現地比定も、こうした気運を背景にして宝暦年間以降にあらわれた地誌類の述作・編纂を通じて次第に明らかにされてきました。それらの多くは郷土の過去を知ろうとする懐古趣味に根ざし、各地を歴訪して名所旧跡・文書古物をたずね、その古事来歴を記録するものです。当初は紀行文と未分化な面も有りましたが、最初から実地見聞というフィールドワークの方法がとられ、文献の調古的研究と相まって、次第に学問の形をととのえていきました。また、藩領の枠や郡域をこえて、同好・同学の富裕層の交流がみられるのも注目される点です。

こうした江戸中・後期の地誌研究の成果と人材は、明治政府の内務省地理局の地誌編纂事業に集約吸収されていきましたが、一部の刊行をみただけで明治の中頃に組織が解散してしまいました。しかし、奇しくもほぼ同時期にあらわれた邨岡良弼と吉田東伍という二人の偉大な民間学者によって、それまでの成果を集大成した『日本地理志料』と『大日本地名辞書』が相次いで刊行されました。二者のうち、邨岡は江戸時代以来の地誌学の正統な継承者で、文献学的研究をまさに集大成しました。一方、吉田の『大日本地名辞書』は歴史地理学的方法が加味され、文献以外に現地の地理的環境を重視した比定がなされているところに特徴がみられます。以後、この二人の研究を超えるものはあらわれず、基本的にはいづれかの説によっています。

（2） おもな学者と編著

① 中村国香『房総志料』　宝暦末年（1760年代前半）か
1709～1769。夷隅郡長者町（現岬町）の名主。宝暦11（1761）年から上総・安房二国を巡歴してまとめたもの。項目がまだ羅列的で大系だってはいないが、最初の地誌として後世に与えた影響は大。

② 秦　檍丸『上総国郡郷沿革考』※ 寛政５年（1793）編述と判明
伊勢国の国学者。寛政年間（1789～1801）幕命をおびて関東各地の地理を調査した際の編述。荒野郷の位置を中世文書によって姉崎・椎津辺に比定したのは卓説。 ※ 秦檍丸の生没年は 1760～1808

③ 前丸隆良『房総志料補遺』（1862刊）
1774～1848。夷隅郡今関村（現夷隅町）の医師。同郷の先学国香にならい、自らの再調査をふまえて『房総志料』を改編増補したもの。郷の比定は断片的で、しかも②の『沿革考』による。1860年に立野良道が加えた評注が貴重。

④ 立野良道
1792～1876。市原郡引田村の名主。平田篤胤門の国学者。その編著の多くは神祇官に献納されたが、刊本された『上総誌総論』・『上総誌引用書目』や『房総志料続編』の評注などによっても、国史に対する造詣の深さと学問に対する態度の厳格さをうかがうことができる。

⑤ 鳥海酔車『南総郡郷考』（1847刊）
1800～1855。望陀郡長須賀村（現木更津市）の人。別に安房国を対象とした『房陽郡郷考』がある。その説は『沿革考』におよばず。

⑥ 安川惟礼『上総国誌』（1879刊）
1819～1898。山武郡福俵村（現東金市）の人。その「郡郷沿革志」はほとんど『沿革考』の引写し。

⑦ 邨岡安宅『後房総志料』
1835～1872。市原郡久保村の人。安井息軒門。『日本地理志料』・『上総町郷誌』に引用さる。古沢村近傍を江田郷と俗称するという説は安宅の採集か。

⑧ 内務省地理局『上総国誌稿』　明治20（1887）年前後か。
渡辺中を主任に編纂されたが、地理局が明治24・5年頃に解散したため未完に終る。官撰の地誌らしく諸説を併記し、穏当な解釈を示す。

⑨ 小沢治郎左衛門『上総町郷誌』（1889刊）※ 真理谷村の人 1847 年長柄郡産
刊行時期が遅いわりには見るべき点がすくない。安宅の説を引く点で貴重。

⑩ 邨岡良弼『日本地理志料』（1902～1903刊）
1845～1917。下総国香取郡中村（現多古町）の生。狩谷棭斎の和名類聚抄の箋注にならい、その全国郡郷名に厳正な考証を加え、現地比定したもの。比定にあたっては遺称地のみを示すにとどまらず、面的広がりを明示したところが出色。ただ全てをあてはめたために強引に過ぎたきらいもある。考証や比定に際して、国史や全国の地誌類を博捜引用する様は圧巻。晩年官を致仕した後10年にしてこの大著をなす。本文が漢文体で和本の体裁をとり、普及の点では次の⑪におよばず。

⑪ 吉田東伍『大日本地名辞書』（1900～1907刊）
1864～1918。越後国北蒲原郡安田村の生。早稲田大学教授。全国にわたって古代から現代にいたる地名の来歴を示す。1895年より始めて13年にして刊行。和名類聚抄郷名の考証などは⑩の成果に負う。唯一の歴史地名辞書として広く普及し、現在も刊行利用される。影響力は⑩にまさる。

⑤ 内務省地理局『上総国誌稿』

市原郡

海部　同郡○郡谷村の西北に在り、西南は海上郡に接し、東は海上郡に接し、北は海上郡に接し、西は海に至り、北は海上郡に接し、東は海上郡に接し、南は海に至り

（3）和名類聚抄記載郷の現地比定対照表

郡	郷	②上総国郡郷沿革考 秦 穂丸 寛政年間？ ※	⑤南総郡郷考 鳥海静雄 1847	⑥上総国誌 安川惟礼 1879	⑩上総国誌稿 内務省地理局 1887前後か	⑨上総町郡誌 小沢治郎左衛門 1889	⑪日本地理志料 邨岡良弼 1902～1903	⑪大日本地名辞書（坂東） 吉田東伍 1900
市原	海部（あまべ）	海士村	海士村	海士村	海士有木村	海士有木村	海士・有木・福増・山倉・西広・山田橋・小田辺	有木より五井までの養老川沿辺、海に至る間。
	市原（いちはら）	市原村	市原村	市原村	市原村	市原村	市原・門前・能満・山木・都本・藤井・加茂・岩ノ見・惣社・根田・塔塚・西ノ谷	市原村の北部、市原・能満・門前・都本等の辺。
	江田（えだ）	江子田村 のち幸田郷に及ぶ。	江子田村	江子田村 のち幸田郷に及ぶ。	江子田村。古沢村辺（江田郷と俗称）まで含むか。あるいは「えた」浜の辺か。	古沢村近傍諸村（江田郷と俗称）	古沢・新井・山小川・田尾・水沢・鶴舞・石川・久保・池和田・矢田・江古田・米沢・安久谷・牛久・華免・妙香・貫谷・原田・鳥田・堀越	歌名所枝浜の地。八幡町か。
	潤津（うるいつ）	潤井土村	潤井戸村	潤井戸村	潤井戸村	潤井戸村	潤井戸・久々津・神埼・荻作・下野・番場・押沼・瀬又・高田・中野・高倉・国吉・金剛地・奈良・古敷辺・犬成・高多・永吉	潤津村と市東村。
	山田（やまだ）	山田村 [山田橋村の隈植か]	山田橋村	山田橋村	山田村。山田橋村は不可。	山田村	山田・二日市場・土宇・鶴峡・川在・新巻	養老村山田。海部・潤津郷の南にして養老川の右岸に偏れり。
	菊麻（くくま）	菊麻村	菊麻村	菊麻村	菊間村	菊間村	菊間・大厩・中西・草刈・古市場・八幡・御所・金杉・西ノ谷・君塚・（村田・鶴岡・刈田子・篠井・茂呂）	菊間村。八幡町の東、村田川の両辺に渉る。千葉郡生実・椎名2村も旧域内か。
	（椎市）						武士・勝間・猪木・大作・滝口・大槻・松崎・磯ヶ谷・新堀・相川	<市原郡は山田・磯谷以北の地とする>
海上	佐三（佐世）（させ）	佐瀬村	佐瀬村	佐瀬村	佐是村	佐是村	佐是・西国吉・柏橋・寺谷・岩崎・上原・	明治村
	稲荷（いなり）	入沼村 イナムハの訛成か。	廃	入沼村。音転の誤り。	飯沼村	不詳	入沼・野毛・青柳・出津・玉前・岩崎・五井・平田・村上・根田	飯沼転訛説は不自然。佐是郷の南、内田・平蔵の辺か。
	大野（おおの）	廃	廃	廃	不詳	不詳	麻生原・折津・大久保・国本・田淵・月出・月崎・柳川・菅野・鶴氏・柿木台	大野牧と同所で、高滝村喰込はその遺号か。
	山田（やまだ）	山口村 口は田の省画か。	山口村。口は田の省画か。	山口村。口は田の省画か。	山田久保村から山口村（幸田郷）にかけて。	不詳	皆吉・大蔵・金沢・岩村・藤・外部田・勝込・山口	養老川の源頭なる田代辺か。田代はやがて山田と語意相通ず。
	倉橋（くらはし）	廃	廃	廃	倉橋村か	不詳	本郷・賀茂・宮原・平野・大戸・万田野・小佐田・飯給・小谷田・不入	福良の東南隣、戸田村か。
	福良（ふくら）	廃	廃	廃	不詳	不詳	深城・豊成・立野・風戸・高根・馬立・宇田・安須・高坂	島穴郷の東、今富・小折の辺か。地勢袋ににたり。
	鳥野（とりの）	鳥野村 野は穴の訛。	鳥野村	鳥野村。野は穴の訛。	鳥野村	鳥野村。島穴と馬野を合併合成。	島野・野毛・白塚・二十五里・柏原・畑木・今津朝山	東海村鳥野より千種村に渉り、馬野郷の北隣、養老川に至る間。
	姉崎（あねさき）	姉崎・椎津辺（中世頃野郡城）	廃	姉崎・椎津等	椎津村より柏原村にかけて（中世頃野郡城）		椎津・姉崎・畑木・不入斗・片又木・迎田	姉崎町。
	馬野（うまの）						海保・小折・町田・今富・引田・宮原・神代・十五沢・柳嶺・西野・椿現堂・新生・糸久・浅井小向・分目	
	（海上）							

※ 寛政5年（1793）編述と判明

名から市原の古代を考える（宮本敬一 資料）

知名類聚抄の郷名記載順に意味が有るか？

古代市原・海上郡の境と郷の位置

※ 元図には左右の史料はない。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鎮座伝承からみた飯香岡八幡宮

飯香岡八幡宮禰宜　平澤牧人

はじめに

千葉県指定無形民俗文化財である柳楯神事（註1）や飯香岡八幡宮については、様々な論考がなされてきて、近年では特に上総国府との関連から柳楯神事について考察されたり（註2）、平安期に石清水八幡宮寺の荘園鎮守として存在した市原別宮がどのようにして飯香岡八幡宮へと成立してきたかについて考察されるなど（註3）、飯香岡八幡宮史についての歴史学上の研究はある程度の成果に達成していると思われる。

しかし、一方で神社が伝承している鎮座伝承からの研究は、遅れていると言わざるを得ない。これらの伝承類は、記される記事をそのまま史実として受け取ることが難しいために、積極的に研究されてこなかった。

歴史学的な考察が深化している今、改めて伝承文学として見直し、その上で歴史学的な成果と照らし合わせることが有意義である。本稿では、『飯香岡八幡宮由緒本記』等の諸本に記される伝承を紐解くことにより、飯香岡八幡宮がどのような意識をもって成立（註4）したかを考察してみたい。

註1、昭和四十一年十二月二日指定

註2、「房総万葉地理考(1)」今井福治郎　『万葉集研究』第一号　万葉茜会　昭和三十年

「柳楯神事」今井福治郎　『房総文化』第三号　房総文化研究会　昭和三十五年

「国府との関係から見た飯香岡八幡宮と柳楯神事」島田潔　『上総国府推定地歴史地理学的調査報告書』市原市教育委員会　平成十一年

註3、「中世における上総国府飯香岡八幡宮について」寺田廣　『市原地方史研究』第九号　市原市教育委員会　昭和五十三年

「市原八幡宮と中世八幡の都市形成」桜井敦史　『市原市文化財センター研究紀要Ⅴ』（財）市原市文化財センター　平成十七年

註4、飯香岡八幡宮という名称は慶長九年（一六〇四）の本殿東北隅化粧隅木下端の銘墨書が初見であり、これ以降元禄十年（一六九七）の『飯香岡八幡宮由緒本記』等、「飯香岡」という名称が意識的に用いられてゆく。

第一章　飯香岡八幡宮の縁起書

飯香岡八幡宮（以下本宮）では、六種類の由緒を記した所謂縁起書と呼ばれる文献を所蔵している。これらの諸本からは、縁起書成立以前の古記の存在を窺わせる記述もあるが、それらの具体的な内容については記されていない。

例えば、『飯香岡八幡宮由緒本記（以下由緒本記）』では「飯香岡八幡宮古語伝記に曰く」とあり、『飯香岡八幡宮御伝記（以下八幡宮御伝記）』では「是迄八幡宮御留記古来伝書有之候」とある。また、『上総国市原郡市東荘八幡宮御縁起（以下八幡宮御縁起）』では、古記について「古来の伝書は足利義明公本社造営迄之事実に止る」とあり、『八幡宮御縁起』成立時の寛文八年までの記録が残っていなかったとしている。

一、飯香岡八幡宮由緒本記

本書の外題紙には『上麻惣社飯香岡八幡宮由緒本記』と記されており、元禄十年（一六九七）八月に成立している。作者は不明であるが、長大な内容とその後の正史としての利用から想像するに、一般の社家の筆による

とは理解しがたく、市川好房であると考えるのが妥当であろう（註5）。神代の国号起源説話・飯香岡地名起源説話などの伝承から始まり、白鳳四年（六七六）の鎮座起源に基づいて、一国一社八幡宮・上総国総社という社格の根拠に力を置いて編纂されているのが特徴である。

編纂に際しては、『古語伝記』という原典となる古文書の存在を示し、古文書からの引用も多い。またその他の記録類については、元亀二年（一五七一）の争乱により灰燼に帰したと述べている。本書は記録としての編纂姿勢を一貫しているが、古代の記述の信憑性に関しては検討を要する。

註5、『由緒本記』成立の三年前の元禄七年（一六九四）の鳩の放生の記録に「神主市川式部」の名前が出てくる。元禄四年（一六九一）の拝殿棟札に「神主市川式部太夫藤原房好」と記されているので、『由緒本記』の筆者を市川好房と推定した。

二、飯香岡八幡宮御伝記

外題紙がなく『宝暦十二年之記』などと呼ばれて来たが、『神道体系』所収の際の解題に基づいて（註6）、『飯香岡八幡宮御伝記』と称する。宝暦十二年（一七六二）八月十一日に成立した作者未詳の縁起書である。景行天皇御代の日本武尊伝承から始まり、白鳳四年（六七六）の鎮座起源に基づいている。『由緒本記』内容とほぼ重複するが、奈良時代から平安時代頃の信憑性が疑わしい時期の記述は記していない。

本書成立以前に伝来していた記録の破損によって、書き改められたという。記録としての編纂姿勢を保ち、編纂後の記録記述も指示しており、『後留記』に続く。

註6、『神道体系　神社編十八　安房・上総・下総・常陸国』（財）神道体系編纂会　平成二年

三、上総国市原郡市東荘八幡宮御縁起

寛文八年（一六六八）の成立で、八幡宮別当神光山霊応寺、神主市川伊賀守、祭礼柳楯執事守公山楊柳寺神主院、船玉命神面守護役中鳶氏・中村氏・浅野氏の名が文末に連なる。

白鳳二年（六七四）の鎮座説を採用し、行基伝説に基づいた八幡神の出現を語る。柳楯の起源や八幡神の漂流伝承などに重点を置いて書かれており、鎌倉期から江戸初期までの歴史については、概略を述べるに留まっている。

藤井の神主院や五所御三家（中島・中村・浅野）など、柳楯に深く関与する人々の署名から窺えるように、柳楯の起源を説くことに主眼が置かれているのが特徴である。

四、上総八幡町八幡宮御伝記

本紙に附属する包み紙に「上総八幡町八幡宮御伝記（以下八幡宮御伝記）」と記され、それを以て書名とする。天平勝宝七年（七六二）の中村典膳・浅野権藤治・中嶋要人らの記録を、大永三年（一五二三）八月十五日に中嶋三郎治が書き改めたとされる。鎮座伝承のみの記述で、白鳳二年（六七四）の鎮座説を主張し八幡神の漂流伝承を伝える。

五、宝暦十二年後留記

慶応元年（一八六五）十月二十八日に市川伊賀守信行によって成立、明和元年から慶応元年までの記事を記述し、『八幡宮御伝記』に続く文書と位置づけられている。鎮座由緒や伝承は一切扱わず、神社に関連する出来事のみ記録する。

六、明治三年神社由緒取り調べ差し出し帳

明治三年（一八七二）十二月市川信明によって、菊間藩に提出された縁起書。景行天皇御代から慶応四年までを記述し、太政官布告によって提出された報告書である。

第二章　鎮座伝承

一、国号起源説話

縁起書は祭神の来歴を語る内容の書物であるため、通常は祭神が鎮座した由来から書き出されることが多い。しかし『由緒本記』の冒頭では、上総国号の起源を語り出すという特別な書き出し方で始められている。

夫飯香岡御宮古語伝記に曰、上麻と云国号を発る根元を茲に顕す。抑皇国は　天照皇太神の御国にして、天下安国と平けく所知食時、国中に荒振神等、皇太神の御意に不叶賜、天磐戸に隠座賜ば、六合の内常闇と成、諸の神等神集に集賜、神議に議給て、天磐戸の広前にて天の神楽を奉奏、八尺鏡八坂の曲瓊、青幣白幣、大麻を磐戸の広前に鍬調備て祓清め、天津神は天磐戸を押開、天八重雲を伊豆の千別に千別て、天磐座を放出賜、此時　天照皇大神は右の大麻を叡覧座て勅宣曰、其太麻は能上麻なり、何国より生出しと叡慮座時に、天津神は東なる邦より生出しと返言申しき、従是而上麻の国と号すと云々、又其時天児屋根命・太玉命猶悦賜て、此大麻は勝し麻なりと宣ふに由て、生出し所を勝麻と号すと云々。

上総という国号が、天磐戸隠れの際に天照皇太神の出御を仰ぐための神祭に用いられた大麻（おおぬさ）の麻に由来し、それが優れている麻故に、上麻国と名付けられたという。上総の国号に関しては、大同二年（八〇七）の『古語拾遺』によると、「天富命、更に沃き壌を求ぎて、阿波の斎部を分かち、東の土に率往きて、麻・穀を播殖う。好き麻生ふる所なり。故、総国（ふさのくに）と謂ふ。穀の木生ふる所なり。故、結城郡と謂ふ。〔古語に、麻を総（ふさ）と謂ふ。今上総（かずさ）・下総（しもふさ）の二国と為す、是なり。〕」と、麻に由来するという。麻をさして「フサ」という例は、『古語拾遺』以外に見えないことから、この上総国号起源説話は、『古語拾遺』を参考にして縁起書成立の際に作成されたと見るべきであろう。

もし、この国号起源伝承を古くより伝えているとすれば、『八幡宮御伝記』等にも記録されるべき重要な伝承であるが、他の縁起書には伝承されていないことから、『由緒本記』によって作成された伝承と考えられよう。

『由緒本記』では、下文で白鳳四年（六七六）の鎮座譚を語る際に、「一国惣社飯香岡八幡太神宮」と称しているので、鎮座譚の前説話として国号起源説話を作成したのであろう。

二、日本武尊伝承

房総半島には日本武尊にまつわる伝承が広く残されており、本書の日本武尊伝承もそれらの一つと言えよう。『由緒本記』では国号起源説話に続けて以下のように伝承を記す。

其後飯香岡と号する根元は、
人皇十二代景行天皇御宇、日本武尊東夷御征伐の時、上麻の国に御降臨座て御影山に御着陣被為在、則小高き岡に為上給て、四方の景色を上覧被為有所至て、景勝無双の霊地にて、海面漂々として静浪の音鼓の声を発、松風森深として琴の音を起、遥々として武蔵・相模・駿河の富士、筑波の山陰海水に浮、魚岸に踊景色有、尊是を御覧被為在、猶御感悦不斜良時刻を移し給ふに依て、官人等酒飯を調奉進ば、尊殊の外御悦賜て宣く、此飯の香至極宜しと宣ふ、依て此勝地

を飯香岡と可レ謂と宣ふ、是より飯香岡と号す、其以前は御影山郷と号す、則産神の社有レ之、祭神は、大日孁貴尊、伊弉諾尊、伊弉冉尊三柱の太神御鎮座の霊地也。

この伝承は、神や天皇・皇族が国土を巡り歩き、それにまつわる行為・事件が土地の名称の由来となる巡行説話に分類され、風土記などに多く見られる説話である。「飯香岡」という地名は、神の発した言葉が元となり、遠くから巡行してきた神が見出した最高の土地であるという。日本武尊伝承には巡行と共に地名起源を語る説話が多く伝えられている（註7）。

さらに巡行説話の特徴として、丘に上り国讃めの詞を発することを伴う場合が多い。神や貴人が丘に上り国讃めの詞を発する儀礼は国見伝承として伝えられている。初春に山や丘などに上り国土を眺望し国讃めの詞を発して、農作の豊穣を祈る予祝行事が国見であり、『萬葉集』巻一の舒明天皇国見歌などがその代表である（註8）。天皇が香具山に上り「うまし国ぞ　蜻嶋　やまとの国は」と国讃めの詞を発せられたのは、「国原は煙たちたつ　海原はかまめたちたつ」という風景に宿る国霊を呼び起こす事に目的があった。更に国見という行事には政治的な要素も垣間見られ、同じ『萬葉集』の雄略天皇の国見歌（註9）では、天皇は国見のために「此の丘に」上り、「菜摘ます児」に、自らが名告りをされる。日本では名と実体が一つという考え方があり、実名を知られるという事は相手に帰属することを意味した。この歌は、聖なる丘で菜摘をする豪族の娘である巫女に対して天皇が求婚され、豪族はその娘を天皇に奉るという服属儀礼が歌謡化されたものである。『由緒本記』でも、日本武尊が御影山に上り、四方の景色を見回して国讃めの詞を発しているという所に、上代文学と相通じる要素を見ることができる。

他所から訪れてくる神や貴人は古代の人々にとって「マレビト」であり、恵みをもたらすと考えられていた。この日本武尊の国讃めの詞に続く地名起源とも関連する「官人等酒飯を調奉レ進」という行為は御贄貢献であり、服属を誓うという具体的な行為と考えられ、支配と服従という歴史的な出来事を物語っている。そこでは、服即をする側（御贄を貢献する側）は自らの立場を保証する経緯（ここでは飯香岡の地名由来）を伝承する。それは祭祀氏族の服属であり、本来地主神であった「産神の社」に客人神を迎えたことを物語っていよう。

産神の社について、『八幡宮御伝記』では「其以前石握御影府と号。則祭神六所太神鎮座霊地也」と、御影の府と呼ばれて六所神社が鎮座していたと記述する。実際に現在でも八幡宮本殿の裏に六所御影神社が鎮座し、元宮であったと口伝されている。

『由緒本記』に語られている日本武尊伝承には、巡行・国見・国讃め・御贄貢献など服属を窺わせる伝承が多数含まれ、上代文学の中の話型とも合致する極めて単純でシンプルなスタイルで構成されている。これらは、『由緒本記』編纂時に作り出したと考えるよりも、ある程度古い伝承に基づいていると考えられよう。

註7、『古事記』中巻景行天皇条には倭建命が東国を、亡き妻を偲び「あづまはや」と詔り「阿豆麻」と名付けた説話が語られている。『常陸国風土記』桑原岳の条では、「倭建天皇」が丘の上に留まり、地の者が「御膳」を奉ったところ、水部に新たに井戸を掘らせ湧く泉を「能く停れる水」と称し、「田余」とその地を名付けたなどとある。

房総半島の特に内房では、木更津・袖ケ浦・千種の浜などの地名も、日本武尊に由来すると伝承されている。

註8、『萬葉集』巻一　高市崗本宮御宇天皇の代　天皇香具山に登りて望国しませる時の御製歌

註9、『萬葉集』巻一　泊瀬朝倉宮御宇天皇の代　天皇の御製歌

三、漂着神伝承

海の彼方から神が漂泊・漂着するという伝えは、異界異郷である常世思想と強く関わっている。常世は『萬葉集』巻九で「老いもせず死にもせずして」と詠まれるように、不老不死の国として考えられていた。その国より神が漂着すると生命力がもたらされると信じられ、海の彼方の幻想の国に対しての憧れが古代人の心にはあった。

漂着する神を折口信夫は「マレビト」と称し祖霊であると考えた。マレビトは稀に訪れてくる神を意味し、再び常世へと去って行くのが本来の姿である。しかし、一部では「マロウド」と呼ばれ、外部から訪れた神を拝殿の片隅や、一社設けて祀るということも行われていた。

『由緒本記』では猿田彦太神を漂着した神として合祀した伝承を以下のように記している。

人皇五十八代宇多天皇御宇寛平六年甲寅年、当郷青野ヶ原に奉鎮座所の御神霊、神慮に不叶給御託宣被為在、宣告に曰、吾は是神風伊勢国百伝五十鈴の川上に坐猿田彦太神也、国家安泰、五穀豊饒、悪魔降伏の為茲に顕る、此地狭し、速に太神の広前に可有遷座と宣ふ、由て命の任乞賜に、早速飯香岡へ御遷座被為有、則八幡宮御相殿に奉鎮座猿田彦太神也、則神代の御面相を奉移、天児屋根命の御真作に座すと云々。

附、其昔当郷の人百伝度逢県の□御影詣の時、都浪岐の社の太神御神告被為有処、不測成哉其夜御鼻高の御神面故有て度逢県の海中に入と見えしか、忽浪中に隠座て不顕賜、里人等帰国の后、当郷青野ヶ原に光生座賜ふ、霊験不測の御神体也。

現在でも、八幡の新田川の岸に、猿田彦神社と呼ばれる庚申塔があるが、この猿田彦神社の鎮座伝承が漂着神として『由緒本記』に収められている。同地に設置されている遷宮記念碑の碑文によると、古くは福貴橋と呼ばれる橋の側にあったが、大正六年（一九一七）の台風により破壊されその後昭和三十六年（一九六一）の河川の改修工事に伴い現在地に遷座したという。庚申塔には元禄六年（一六九三）の年号が刻まれている。

猿田彦神と庚申の習合が関東で進んだのは室町後期とされているが、この庚申塔はそれ以前にあったと考えられる猿田彦社の名残から漁業神として信仰されている。猿田彦神は天孫降臨の際に、天八衢にて瓊瓊杵尊を出迎え先導したという故事から道先案内の神として信仰され、神輿渡御の先頭には猿田彦が加わることで知られているが、天孫降臨の後は伊勢の阿邪訶（あざか）にいて漁をしたとされる（註10）。伊勢の海と繋がりの深い神が本来の姿であったと考えられ、八幡の地に勧請されたのも「国家安泰、五穀豊饒、悪魔降伏」のためというよりは、漁業神としてであった。

漂着したのは実は八幡神であったという伝承も伝えられている。

中邨・麻野・某中嶋三人共に……阿須波社に詣でて当郡防人張丁諸人が庭中小柴祭など思ひ出して神酒するまつり笠傾けて発足し、先づ東海の道すがら遵ひ行く。程なく帝都に至り神社巡拝恙無く、それより関西に下り筑前国御笠郡筥崎の八幡宮に詣でて……我が国へ大明神を斎祀奉り長く神拝奉り、希はくは神験とたへ給へと、丹誠を抽き通夜し奉る程に、その夜不思議の神告を蒙る状は、神前の太玉籤と楊の神楯を賜り是を汝等に授くと。正しく夢想ありける。これにより我々三人共に信心肝に銘じ伏し拝みける中に、重ねて示現ましまして宜く汝等早く此の地を立去るべきよしなれば則ち柳の楯を筏となし神宝を遷しまゐらせ、冀はくば東国総洲市西県袖ヶ浦手長の磯に着せ給へと、心念祈願のこめ流しける。……阿須波社に詣で奉賽して、我が故郷に帰る道すがら、磯吹く風に蒼野が原の葦草の靡く入江に奇き光り見え

けるゆゑ、近寄り見れば筑紫にて流したる神璽なりければ各々悦び限りなく、翌十二日藤潴岡に仮殿を営み斎祭し奉る。同じ四年乙亥八月十五日より蒼野が磯の塩の干満を筥崎の干満二珠の神宝に表し、繁茂の草草刈り払ひ、下つ網根を掘り揚げて宮地を定め宮祠を造営して遷宮し奉りけるとなむ。……諸国に於いて尊崇厳重なれば此の所に於いて能き宮地を撰み尊崇かけたき由を市原郡上丁刑部直千国が教諭に就き、諸人戮力今の社地に再び額づき遷座し奉りける。この時国の君の家士日高弾正忠より過分の金穀寄進せられて宮柱太敷く建てるものなり。

『八幡宮御伝記』に記されているこの伝承には、中邨・浅野・中嶋という人物が登場し、筆者も中嶋三郎治と考えられることから、五所御三家の伝承であろう。八幡宮の鎮座伝承の中で、筥崎で神託が下り、授けられた「太玉籤」を「柳の楯」を筏にして海に流し、八幡神が漂着する姿が語られる。八幡宮の鎮座伝承の中で、柳楯の起源も加えて伝えていることが特徴である。漂着した八幡神は、「蒼野が原」を光で満たしており、『由緒本記』に述べられている猿田彦大神の漂着伝承と類似する。共に「青野ヶ原」「蒼野が原」という場所に漂着している。

『八幡宮御伝記』の漂着伝承は、八幡神勧請のルートが海上を経由することを窺わせるものであり、また五所が漁業を生業にしていた地域であるため、漁民に広く信仰される漂着神伝承が色濃く反映したのであろう。現在の五所御三家の間では、八幡神は盗んで来たと言い伝えられているが、この神体盗みも海に生きる人々に多く見られる信仰である。

往古、隣村五所村の人都に至りて、ある神祠にて神像を奪ひ立退けるが、追手の者にせまられて、せんかたなきままに五所の浦に着玉へと祈念して、像を海中に投入けり。さて、其人国に帰らぬさきに、五所の海中に毎夜光る物あり。帰国の後、其よしを聞て網をおろすに、はたして像を得たり。即、其地に祭る（此地を、今は元八幡と称す）、其後（白鳳二年と云ふ）今の地に移す。今に至るまで五所の人いたらざれば、神輿を出すことあたはず。

伴信友は文化十年（一八一三）の『神名帳考証土代』の中で、「神像を奪ひ」と伝聞したことを記録しているが、五所の人々の間で、その当時には八幡神は奪いとってきた物と広く信じられていたことを示している。また、『八幡宮御伝記』では藤潴岡や手長の磯等という古代にかこつけていた地名が、『神名帳考証土代』では伝えられることも無く、伝承はシンプルに整理されている。記録された文書を信友が確認したのではなく、口伝で言い伝えられていたことを記録したためである。口伝の記録であるが故に、「五所の人いたらざれば、神輿を出すことあたはず」という五所にとって優位を示す言い伝えが加えられている。

神仏を盗むという風習は、「エビス盗み」や「道祖神盗み」、「田の神盗み」などの民俗行事にも見ることが出来る（註11）。特に「エビス盗み」で見てみると、盗まれるエビス神は、海から上がったとか、海岸に流れ着いたという漂着神であることが多く、不漁の村が豊漁の村のエビス神を盗みそれを祀ることで豊漁にあやかろうとする習俗である。ドウシンボウと呼ばれる盗み魚の風習は、公然と盗むことで、漁師仲間の間で公許された盗みとされ、千葉県下でも広く行われていた。授けられた神の漂着伝承が、いつの間にか神体盗み伝承へと変化するのも頷けよう。

潮や風によって浜に流れ着いた物を神として祀る漂着神信仰は、寄り神とも呼ばれ、海の彼方にいる神からの贈り物、あるいは神そのものとだとも信じられ、大漁の神として祀られたのが猿田彦大神の伝承として『由緒本記』に記されたり、『八幡宮御伝記』の八幡神として記されたりしたのであろう。

『八幡宮御伝記』に登場する「国の君の家士日高弾正忠」なる人物が資金を提供して社殿を造営したとされるが、『八幡宮御縁起』にも同一人物と考えられる人物が登場する。

冷泉院天喜年中、手長の沖に当て夜毎光明あり。直に八幡宮の本社を照らす（別当寺号神光山霊応寺と号す、この儀に因るなり。一に若宮寺といふものは菊間若宮八幡宮兼滞すればなり）。里人恐怖して夜に至れば海浜に出る者なし。

爰に三人の宿老あり。代々八幡宮に給使し奉り。親族のごとくにぞ暮しぬ（今中島中村浅野三党の祖と云ふ）。或日共に評議し一夜小舟に乗じて海上に浮びけるに例の如く光焔赫奕として水陸ともに朗なり。則ち其の処に望み棹さし到りぬれば光り忽然として消ぬ。時にただ一個の神面波上近く浮べるあり。三翁大に疑惑せるうち虚空に声ありて曰く、我々皇基守護神船玉命なり（一名猿田彦命と申奉る）。汝等往年宇佐宮へ参篭せし時、広前に刻める我が面かかれりけるを私に奪へり。祠官是を知りて頻に迫へるにより、卒に海中に投入去ぬ。其の時もし霊験あらば吾僑（わらん）が本国へ流れ寄せんと誓へるにあらずや、今縁熟して此に漂着せり。猶太神の広前に掲よと雲に響嵐に答へて聞へたり。三翁奇異の思ひをなし急ぎ執上奉ぬ。翌日国主日高弾正朝光へ斯と訴へぬ。余もまた今暁の霊夢を蒙しに符号せりとて則数多の金銀米穀等寄附なし奉りぬ。此に於て三翁速に修理匠にはかり先八幡宮再興造営におよび不日に功成ぬ。既に遷宮の日湯の花捧るに臨て、太神乙女の袖にうつらせ給ひて曰く、我和光の塵に交り末世の凶事災障を消除せんと誓願せり。今又我が広前に船玉命を配祀する事の悦し、いよいよ民生の繁盛五穀豊饒を得さすべしと神託ありける。参詣の老少信心渇仰し実に有難くぞ覚えける（広前の面鼻高く在すゆゑ、村童等称して鼻高八幡と申奉る。実は猿田彦命なり）。

ここでは、「日高弾正朝光」とされているが、この日高朝光に関する詳細はわからない。しかし、郡本八幡神社にかつて懸けられていたとされる懸仏にその名前が刻まれているという（註12）。

この懸仏の銘文は応永九年（一四〇二）に日高弾正朝光が国庁の目代として存在していたことを裏付けることから、諸書に語られる漂着神伝承は応永期頃の社殿建築と結びつく伝承という事になる。

註10、『古事記』上巻　天孫降臨段

註11、「儀礼的盗みとムラ」高桑守史　『日本民族文化体系8　村と村人』小学館　昭和五十九年

註12、「上総国府所在の研究」大森金五郎　『史蹟名称天然記念物調査』八輯　昭和六年

懸仏①　銘文表「守公神御正体　所者上総国府中国庁　国御目代日高弾正朝光沙弥道光」

—裏「金資弘覚大勧進沙門　応永九年六月一日」

懸仏②　銘文　「上総国市西郡市原庄氏神正体　長禄三天（以下不明）」

この二種の懸仏は現在所在が確認できない。大森金五郎も現物を確認する事が出来ず拓本によって読み取り得ている。その際、柴田常恵に拓本を示して意見を求めて、柴田の書簡文をそのまま引用している。

四、神体山伝承

古社とされる神社には神体山伝承をもつ場合があり、三輪山と大神神社、御蔭山と賀茂御祖神社、神山と賀茂別雷神社等が神体山信仰の顕著な例であろう。形が整っている山であったり、火山・泉水を出す山などが崇めら

れ、神の降臨する神体山として信仰されてきた。

本宮には明確な神体山といえるような山は存在しないが、『八幡宮御縁起』の中に神体山を思わせる箇所がある。

僧行基衆生化度のため天下を巡行の時、此の地を経歴、偶某の寺に説法し給ふ。道俗化を慕ひ咸く来て拝礼聴聞す。時に戴冠の異人あり。来たりて石上に坐し給ふ。僧正謹て君は何地より渡らせ給ふと問奉りけるに、異人答て曰く我は此のわたりなる広幡麻呂なり。師の説法の殊勝なるに感じ正に如来の本誓に力を添へんが為なりとなん。此に於いて僧正驚かせ給ひ急に柳樹を削て楯のごとく成し給ひ、神の御後を立覆ひ給へば、異人莞爾と笑はせ給ひ須臾にかき消ごとく失せ給へり。土人恭敬し乃ち亦此に勧請し奉り、撰待に麦の餉を供す（今郡本八幡宮市原八幡宮は此時の安置なり。今市原村に麦飯面の畑あるは此の故なり）。僧正の柳楯を作り献ぜしを太神の武を掌らせ給ふを以てなり。爾来祭祀に柳楯を備るを例とす（今藤井村守公山楊柳寺神主院、之を司る。寺号其の義に因るなり。太神影向石、今現に市原村薬師堂前に在り）。

『八幡宮御縁起』の末尾の連名の中に、藤井村の柳楯執事　守公山楊柳寺神主院が含まれていることから、伝承では柳楯の由来と神主院が掌るという「柳楯執事」たる役職の根拠が説かれている。また、市原八幡宮（本宮の前身）と同時に郡本八幡神社の創祀も語ることが特徴である。神主院は郡本八幡神社の別当を務め、郡本八幡神社は本宮の遙拝所であると推定でき（註13）、郡本八幡神社には本宮に寄進されたと考えるべき銅造懸仏が伝来していたことがわかっている。

本宮の『八幡宮御縁起』では、八幡神は影向石とよばれる石の上に出現したと伝え、その石の所在を「市原村薬師堂前に在り」としている。この石のある薬師堂の縁起書『光善寺薬師如来縁起』にも類似する伝承がある。

然る所に方三尺の軽石あり、毎朝に戴冠の異人此石の上に座せり。行基此を御覧有りて、何国より御来たり候と問はせ給へば、「我は是八幡大神なり。菩薩の御説法聴聞のため、且又如来の本誓に力を添へんが故に、毎朝此石上に来る」とのたまへり。行基聞こし召し喜意の思ひにて麦の飯に柳の箸を奉る。此の箸を御持参と見えけり。それより氏子共八幡宮の祭礼には、柳のたてと名付け八幡へ捧げ奉り、彼の石を影向が石と号し、誠にあらたかなる端石と万民是を貴み給ふなり。其上、御本尊を末世の尊崇利益として秘仏奉るなり。光善の二寺を寺号として光善寺と号け、結縁利生の為に三十三年に一度御開帳是ある者なり。

八幡神に奉った物は、麦の飯に柳の楯とされる部分が『八幡宮御縁起』とは違うが、内容はほぼ同じである。これらの文献では八幡神は影向石に出現したと伝えているが、この石は磐座と見てよい。くぼみのある巨石を神聖視し、そこに神霊を降神させる磐座祭祀は、神体山信仰に多く見られる。磐座に祭祀された八幡神に神饌を供える行事を、麦の飯に柳の箸を添えて奉るという表現にしたのだろう。

三輪山は大神神社の神体山とされ、古くから入山が禁じられてきた。その山中には数多くの磐座があることで知られる。また、賀茂御祖神社の平安期の御蔭祭では、御蔭山内にある湧水のある場所に「船つなぎの磐座」と呼ばれる磐座があり、その前で御生神事が行われていたという（註14）。斎場の位置が移動したが現在の御蔭祭でも、社殿の前には磐座があり磐座祭祀が行われている。

賀茂御祖神社の御蔭祭と同様に、賀茂別雷神社でも御阿礼神事が行われる。現行の御阿礼神事では神社北西の丸山の御阿礼所に「みあれ木」を立

て神籬とし青柴で囲いその前に白砂を二つ円錐状に盛る。古くは神体山神山の山頂にある亜迹石・降臨石と呼ばれる巨大な磐座の前で行われていたという。

神体山信仰は「みあれ」の概念が色濃く反映した信仰であり、柳楯神事についても、神体山における「みあれ」という視点で考えてゆく必要があろう。

影向石と呼ばれる磐座がある光善寺は、遊海山と呼ばれ、その麓の川の分岐合流が続く箇所では、古くから八幡・五所・市原村の水利を巡って論争が絶えなかった（註15）。この場所を、本宮では遊海山麓字柳澤と称し、柳楯に使用する柳の採取地として伝承してきた（註16）。賀茂御祖神社の御生神事である御蔭祭の本来の姿が、神体山中の湧水の磐座祭祀にあるとすれば、柳楯神事の本義も水源の柳を用いて八幡神出現の磐座で祭祀を行うことにあったと考えるのは些か飛躍しすぎであろうか。

現在の柳楯神事では本宮の神職が関与するのは、柳楯が八幡宮に到着して以降の行事からある。しかし、江戸期の記録によると、藤井村の社官が警固して五所へ届けられるという慣わしになっていた（註17）。また『八幡宮御縁起』文中の「藤井村守公山楊柳寺神主院、之を司る」という一文からも、神主院が柳楯に関与していたことは間違いなく、八幡宮に届く前に神事が行われていた可能性は指摘できよう。

市原で柳楯を奉製する司家である森家は、「五兵衛」という屋号を名乗っているが、八幡神を乗せた金の御幣が、北川を遡上して森家にたどり着いたためだとしている。この「御幣」という伝承も、祭祀を掌る家であったことを仄めかし、森五兵衛家が八幡から市原へと八幡宮の意向に基づいて移動してきたとも想像できる。実際、市原地区は光善寺の檀家が多い中で、森家のみが八幡の妙長寺の檀家であるという。これらの事は八幡と森家の特別な繋がりを想起させる。

柳は「斎の木」を語源に持つとされ、古くから招霊の霊木とされてきた。『萬葉集』巻七雑歌に収められている柿本人麻呂の「あられ降り遠つ淡海の阿渡川やなぎ刈れどもまたも生ふとふ阿渡川やなぎ」の歌には、古代人の柳に対する畏敬の念が詠まれており、柳が霊木であることを示している。更に、この柳は田の神の勧請に用いられ、苗床に柳葉を挿して田植えを待つという風習もあった。同じく『萬葉集』巻十五相聞歌に「青柳の枝切り下ろし斎種蒔きゆゆしき君に恋ひ渡るかも」などは、その風習を詠んでいる。

この柳を神籬として磐座に立てる神事にこそ、柳楯神事の本義があるように感じられてならない。神体山信仰に基づく磐座祭祀が、『八幡宮御縁起』や『光善寺薬師如来縁起』に伝えられる行基と八幡神の伝承として伝えられたのである。

註13、守公山楊柳寺神主院は藤井村にあったとされる寺院で、廃仏毀釈によって消滅した。天保十四年（一八四三）の藤井村・門前村・西野谷の村鏡明細帳によると、鎮守八幡宮（郡本八幡神社）の別当は神主院と記されている。現在でも郡本八幡神社の幣殿に掲げられている社号額の裏面には、廃仏毀釈の際に削り取られているが、「神主院権僧都貞運法印」の名を確認できる。

また、同村内木本家には『郡本邑八幡宮御縁記』なる文書が伝来し、飯香岡八幡宮の『八幡宮御縁起』と極めて類似した伝承が残されている。奥書によると郡本八幡神社には古来縁起書が伝来していたが破損が激しかったので、別当の法印貞運の手により筆が加えられ書き直されたという。しかし享保三年（一七一八）三月二十五日の神主院焼失によってそれも失われてしまったため、別当法印快慶・祠官中嶋織部らの手によって再び書き直されたとされる。更に、巻末に「上総州望陀郡青生庄十日市場邑捨弓隠士柴崎円水堂」とある。柴崎円水については詳細は分からないが、

『郡本邑八幡宮縁起』を調査した宮本敬一は、「忘れられた社寺」（『市原市郡本周辺の遺跡と文化』市原地方史研究連絡協議会　平成十一年）の中で、木更津市大寺にかつて存在し廃仏毀釈で廃寺となった薬師院に伝来した『大寺村薬師如来縁起』の執筆者「十日市場村隠士柴崎左中勝秀』と同一人物と推測し、柴崎円水は縁起作家であろうとしている。『郡本邑八幡宮御縁起』執筆に際して、飯香岡八幡宮の伝承を元に縁起を作成したと考えられ、またそれを別当及び祠官側で受け入れた背景には、郡本八幡宮が飯香岡八幡宮の遙拝所であった可能性も考えられる。

註14、『葵祭の始原の祭り－御生神事－御蔭祭を探る』新木直人　ナカニシヤ出版　平成二十年

註15、本宮所蔵『五所・市原・八幡村水論裁許状』　寛文九年　該当史料には絵図が付随しその絵図には磐座の所在地周辺を「ゆうかい山」としている。

註16、本宮所蔵『当社年中神祭行事』文政二年（一八一九）

註17、『当社年中神祭行事』前掲

第三章　市原八幡宮

一、市原別宮から市原八幡宮の成立

本宮の存在を窺わせる最も古い記録は、保元三年（一一五八）の『官宣旨』（註18）に記載される「市原別宮」である。ここでは、保元三年以降の市原別宮の動きを、「市原八幡宮と中世八幡の都市形成」（註3）を参考にして辿ってゆきたい。

『官宣旨』によると、市原別宮は平安時代後期は石清水八幡宮領として法印勝清が知行していた。元久元年（一二〇四）に市原別宮が石清水八幡宮の安居神事の頭役の経済的負担を拒否し、それに対して石清水八幡宮が幕府に訴えるという事態が発生した（註19）。安居役は石清水八幡宮の重要な神事役で、その責任者であった中原親能は市原別宮の預所を兼ねていた。幕府は市原別宮預所である中原親能に対して市原別宮荘官らの安居頭役対悍を停止するように御教書を発している（註20）。市原別宮預所は預所職が安居頭役を勤仕する前例がないことを理由にするも、幕府は上野国板鼻別宮預所安達景盛が同役を勤仕したことを引き合いにして、神事である上は市原別宮預所の対悍を黙示すべきでないと親能に命じている。

二、市原八幡宮の発展

平安後期から鎌倉中期にかけて、市原別宮は石清水八幡宮の所領として存在しており、特に鎌倉中期には本社であるべき石清水八幡宮に対立し、それの仲裁に幕府が御教書を出すほどの勢力を保っていた。この市原別宮の現地には当然八幡宮が勧請されているはずであり、それが市原八幡宮へと発展したと考えるのが妥当であろう。

元享二年頃（一三二〇頃）市原庄八幡宮の別当職が、鶴岡八幡宮の僧大輔律師俊珠に譲与された（註21）。市原庄は「市原別宮」の所領形態が変化したもので別宮から荘園を設立したものである。荘園の領主とは別に、荘園内の市原庄八幡宮の別当は俊珠の死後、貞和五年（一三五〇）に明円なる僧侶に譲与されている（註22）。その譲与の翌年、室町幕府執事である高師直によって、地蔵院僧正覚雄が市原八幡宮の別当職に補任されている（註23）。

鶴岡八幡宮千南坊は、初代定暁から俊珠に至るまで寺門僧が当主に立っていたが、俊珠の死後東寺僧に置き換わっている。これは室町幕府発足と関連していると考えられ、同様に市原八幡宮別当職も東密僧である覚雄が補任され、以後醍醐寺が別当職を掌握してゆく時代が続く。江戸期に本宮の別当寺院であった霊応寺（若宮寺）も新義真言宗に属し醍醐寺の末寺で

あったことからも、神仏分離を迎えるまで醍醐寺の支配を受け続けていたと言えよう。

しかし、この醍醐寺地蔵院覚雄の別当職補任は穏やかに進まず、鶴岡八幡宮側に所属する旧勢力の押領によって中断される（註24）。幕府は再三遵行使を派遣するも、在地側の抵抗はとどまらず、観応三年（一三五二）に幕府は上総守護千葉氏胤を派遣し強制執行を行い、文和三年（一三五四）に覚雄がようやく実質的な知行を掌握した（註25）。その後、『八幡宮御伝記』によると、流鏑馬を奉仕していた肥後国の人で円蔵という人物が、剃髪して社僧となり円蔵坊源明となったという。円蔵坊はその後霊応寺へと継承されてゆく社僧であるので、醍醐寺地蔵院より八幡宮の実質的な運営を任され派遣されたと見ることも可能であろう。

註18、『宮寺并極楽寺諸国荘園官符』石清水八幡宮文書
註19、『北条時政書状』石清水八幡宮文書
註20、『鎌倉幕府御教書』石清水八幡宮文書
註21、『長崎高資文書』東寺宝菩提院文書
註22、『鶴岡八幡宮供僧次第』鶴岡八幡宮文書
註23、『室町幕府執事高師直奉書』東寺宝菩提院文書
註24、『足利義詮御教書』尊教閣文書
『武田資嗣打渡状』東寺宝菩提院文書
『村上源清打渡状』東寺宝菩提院文書
『将軍足利尊氏御判御教書写』東寺観智院金剛聖教文書
註25、『足利義詮御判御教書写』東寺観智院金剛聖教文書

三、応安応永の社殿造営

応安元年（一三六八）天台座主に醍醐寺地蔵院道快が補任され上総国内の所領の譲与を受け（註26）、同二年（一三六九）に管領する院家よりの本尊・聖教類・所職を譲与されており（註27）、直後に幕府の安堵を得たと推測され、市原八幡宮造営の実施は応永二年に決定したものと思われ、『八幡宮御伝記』にも奉行として中務少輔が派遣された記録がある。その後応永四年（一三九七）まで約三十年遅延しながらも、棟別銭徴収の活動が確認できる（註28）。

応安四年（一三七一）上総守護代石川左近将監は市原八幡宮造営のための課役徴収に対して違乱を起こし、別当地蔵院道快は幕府に訴え出て、幕府は管領細川頼之の奉書を関東管領上杉能憲に下して違乱に対応させ、市原八幡宮の所職・社領は地蔵院雑掌の所務とした上で、以前に通達した通りの造営の推進を命じている（註29）。守護代の違乱によって停滞していた諸役の徴収は、応安五年（一三七二）に解決に至った（註30）。

守護代が違乱を停止した応安五年以後も、徴収の進捗は芳しくなく、応安八年（一三七五）には再び、徴収が命じられている（註31）それによると、市原八幡宮の造営の対象として、八幡宮と若宮社が挙げられている。若宮の造営は全て、市原荘に対する庄役によって造営が進められ、市原荘内の賦課で賄われ市原荘内の有力神社として位置づけられていた。これに対し、市原八幡宮は、多くの付属施設を持つ大規模な境内を有し、課役の明記されている建造物数は市原荘負担の庄役九棟に対し、国役（五カ国棟別銭・一国平均課役・郡課役）が十二棟となっており、国役の割合が極めて高い。市原八幡宮が従来の市原荘の鎮守八幡から、すでに上総国内での影響力を持つ神社に昇格したことを伺わせ、上総国一宮の玉前神社を凌ぎ実質の一宮の地位を固めていたと言えよう。

註26、「応安元年十二月一日覚雄譲状」『正嫡相承秘書』
註27、「応安二年六月八日覚雄譲状」『正嫡相承秘書』
註28、「応永四年鶴岡事書安」『群書類従』第三十輯 補任部 続群書類従完成会 所収 大正十四年

註29、「室町幕府管領細川頼之奉書」東寺菩提院文書
註30、「応安五年朝藤打渡状」東寺菩提院文書
註31、「応安八年上総国市原八幡国役庄役注進状」醍醐寺三宝院文書

第四章　足利義満の神輿奉納と足利義政の社殿造営

一、至徳元年の神輿寄進

本宮に所蔵される神輿四基は室町期の神輿とされ、千葉県指定文化財になっている（註32）。『由緒本記』には足利義満による奉納として次の一文がみえる。

人皇百一代後小松天皇御宇至徳元甲子年九月、大政大臣征夷大将軍源朝臣義満公当社厚御信仰に被為在御祈願感応成就に依て御冥助為報賽登当社御神輿四社新造立奉寄進者也。

御神輿四箇奉献

奉行　上杉中務入道禅助
社家執行善国
大工右衛尉宗正

この至徳元年（一三八四）の記事とほぼ同様の記事が『八幡宮御伝記』にもあり、本宮では義満寄進の神輿として位置づけ特別に扱ってきたことがわかる。一の宮の天井の墨書にもこの記事に対応する墨書が残されている。

神輿　四社
征夷大将軍源朝臣義満
上総州八幡宮奉寄進者也依如件

奉行
上杉中務少輔禅助　奉之
至徳元甲子九月日

二の宮の屋根裏にも墨書が確認できている（註33）。これらの神輿には露盤裏に慶安二年（一六四九）と宝暦九年（一七五九）の墨書が残されており、慶安二年と宝暦九年に大修理が行われており、それに対応する釘穴がある。

また三の宮は『由緒本記』によると寛永七年（一六三〇）に修理が行われており、擬宝珠を鳳凰に改めたとされる。三の宮の鳳凰右翼に裏付けとなる刻文があり、左翼には宝暦九年の修理の記録も刻まれている。

これら神輿の構造形式は、一間神輿宝形造で屋根は板葺きである。框上部の四方には鳥居が付けられ、四隅の親柱には逆蓮の飾りが取り付けられてあり、禅宗様の建築様式がうかがえ、親柱と鳥居の間は香狭間付きの玉垣が巡らされている。斗栱には禅宗様の特徴を示す詰組、出組斗栱や蟇股の中備えがあり、蟇股にはそれぞれ、菊紋・桐紋が付いている。

平成二十六年本宮は本殿の修理工事を行い、その際施工業者である株式会社安田工務店が室町期とされる神輿の隅木から時代測定を実施した。

株式会社安田工務店社長渡邊正行氏の立ち会いの下、武蔵大学総合研究所研究員中尾七重氏が三の宮の神輿の隅木からサンプルを採取し、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター年代学研究室長光谷拓実氏が鑑定を実施した。中尾氏から㈱安田工務店安田徹也氏に宛てた報告の書簡によると、隅木1は年輪年代一三四三年・隅木2は年輪年代一三一八年と判明し、同じ桧材から木取りされた物で、一三八〇年～九〇年頃の伐採と考えられるという。この年代測定によって至徳期の神輿である可能性が高まった。

註32、平成六年二月二十二日指定

註33、「飯香岡八幡宮とその周辺」瀧本平八　『市原市八幡地区の遺跡と文化財』市原市地方史連絡協議会　平成十六年

二、長禄三年の社殿造営

現存する本殿は重要文化財に指定され（註34）、木鼻の渦紋から文禄、慶長よりは古い建築物と推定されているが（註35）、具体的な年代についての特定には至っていない。昭和四十二年より行われた解体修理において数点の墨書銘が発見された。最も古い年号は建久四年（一一九三）であるがその年代の通りに受け取ることは出来ない。この墨書は屋根棟真束に「建久四年源朝臣御再立也」と記されている。墨書の傍らには細字で「天文十六年云々」と書かれているが、建久と天文十六年（一五四七）は明かに別筆である。建久の文字は真束を横たわらせた状態で書かれた文字であり、最初の建立時か、あるいは小屋組解体時に記入されたと考えられる。

本殿には明らかに慶長九年（一六〇四）に小屋組の解体が実施された形跡が残されており、天文十六年に本殿が建築され、その際に別筆で建久四年の銘が書かれたとするなら、建築後六十年での小屋根組解体を実施したということになる。天文十六年に建立、もしくは小屋根解体を行ったとは考えられない。

慶長九年の小屋根解体の際に、北面の化粧地垂木下端や東北隅の化粧隅木下端のに書かれた墨書とも筆跡が類似しており、慶長修理の際に書かれたと思われる。

『由緒本記』には、白鳳創祀から長禄三年（一四五九）までの間に七回の社殿の修理記録があるが、古くは宮殿の造立を示す簡潔な記事であるが、長禄三年の記事以降の社殿修理の記録以降になると記述が詳細になってゆく。

長禄三己卯年三月、当社幣殿、拝殿新造立発願に附、
征夷大将軍源朝臣義政公御代太田左衛門佐殿へ右新造立仕度旨奉ㇾ願所、早速被ㇾ聞召　御上聞に被ㇾ達、依て小笠原源左衛門御見分被ㇾ為ㇾ有、則御造営金千両御寄附被ㇾ下置ㇾ頂戴、神前へ奉ㇾ備、早速御本殿御修覆を加、弊殿、拝殿、向拝并神前石檀、敷石其外瑞垣等迄美を尽新に奉ㇾ造立ㇾ者也、

長禄の社殿建造の記事で初めて、弊殿・拝殿の造営が記され、更には神前石檀・瑞垣等までもが新しくされている。

平成二十六年の本殿修理工事の際にも、社殿の建築年代及び慶長修理の範囲についての調査が行われ、炭素14年代調査を実施した（註36）。本殿内陣より本殿丸柱・本殿小屋根裏大斗・本殿飛擔垂木・本殿地垂木より試料採取を行い較正年代を解析した。

本殿丸柱は欅材で皮部分のノタ付きの木材であったため、得られた年代はほぼ伐採年に対応し、最外年輪層で一四〇三～一四三八年となった。

本殿小屋根裏大斗は、大斗の角が年輪に沿って斫られた外周に近い部位の杉材を用いている。測定の結果得られた年代値を用い、ウィグルマッチ法を用いた解析によって、最外年輪層で一四一一年～一四二八年頃となり、伐採年とはほど近い年代と考えられる。

本殿飛擔垂木は、角が年輪に沿って斫られた赤松の芯去り材で、最外年輪層で一五四三年～一五八八年頃の結果となった。

本殿地垂木は、角が年輪に沿って斫られた芯持ちの杉材であり、最外年輪層で一五六八年～一六〇二年頃の結果となった。本殿の飛擔垂木・地垂木は、外周に近い可能性があり、その場合得られた最外年輪の年代は伐採年に対応する可能性がある。

本殿の丸柱及び大斗の木材は、室町時代中期の伐採であることから、本殿建築当初の用材と考えるべきであろう。炭素14年代調査の結果からみて

も、本殿の造営年代は『由緒本記』の記す長禄三年だと考えるのが妥当であろう。

註34、昭和二十九年九月十七日指定

註35、『重要文化財飯香岡八幡宮本殿修理工事報告書』飯香岡八幡宮本殿修理委員会　昭和四十三年

註36、「重要文化財飯香岡八幡宮本殿年代調査報告」中尾七重・坂本稔　平成二十六年

むすびにかえて

本宮鎮座に語られている諸伝承には、国見・国讃め・御贄貢献など要素が見られ一定の古さを持つ伝承だと考えられる。『由緒本記』に語られる御贄貢献と行基の麦飯伝承は類似し、元となった伝えは同一である可能性も考えなければならない。八幡神の降臨した神体山中の磐座では祭祀が行われ、柳楯が深く関係していることは間違いない。

平安期に市原別宮が成立し、それまで在地神を祀る社に八幡神が客人神として迎えられ、それまで祀られていた在地神が本殿に付随する末社に祭祀されるようになった過程が諸伝承には語られている。市原八幡宮成立の歴史が、諸伝承として残されたといえよう。

伝承にも登場する日高弾正が活動した応永期は社殿建立事業が進められていた。応永期とは市原別宮が市原八幡宮へと変化し、実質的な上総一宮として成立していたとされる時期より四半世紀ほど経過している。この間、至徳元年には足利義満が神輿を寄進したことが推測でき、一定の社格は維持していたと言えよう。日高弾正は足利氏奉納の神輿に相応しい社殿を造営しようとしただろうし、実際に長禄三年にはかなりの規模を持つ現本殿が建築された。伝承の中の社殿造営と実際の社殿造営事業は関連性が見いだせるのではなかろうか。

応仁の乱以降諸国の社寺が疲弊していったのと同じく、元亀年間の戦火により市原八幡宮は神領を失い社頭は衰退し、独自での修繕を行うことも出来ない状況であった。八幡宮に再び光が差し込めてきたのが、天正一九年（一五九一）の徳川家康による一五〇石の寄進と慶長九年（一六〇四）の本殿小屋根組解体であった。

八幡宮の再起は復古主義の始まりでもあり、慶長の工事の際に屋根棟真束に「建久四年源朝臣御再立也」と墨書した事からも窺える。また、慶長の墨書に初めて「飯香岡」という名称が用いられてくる事とも関わってくる。

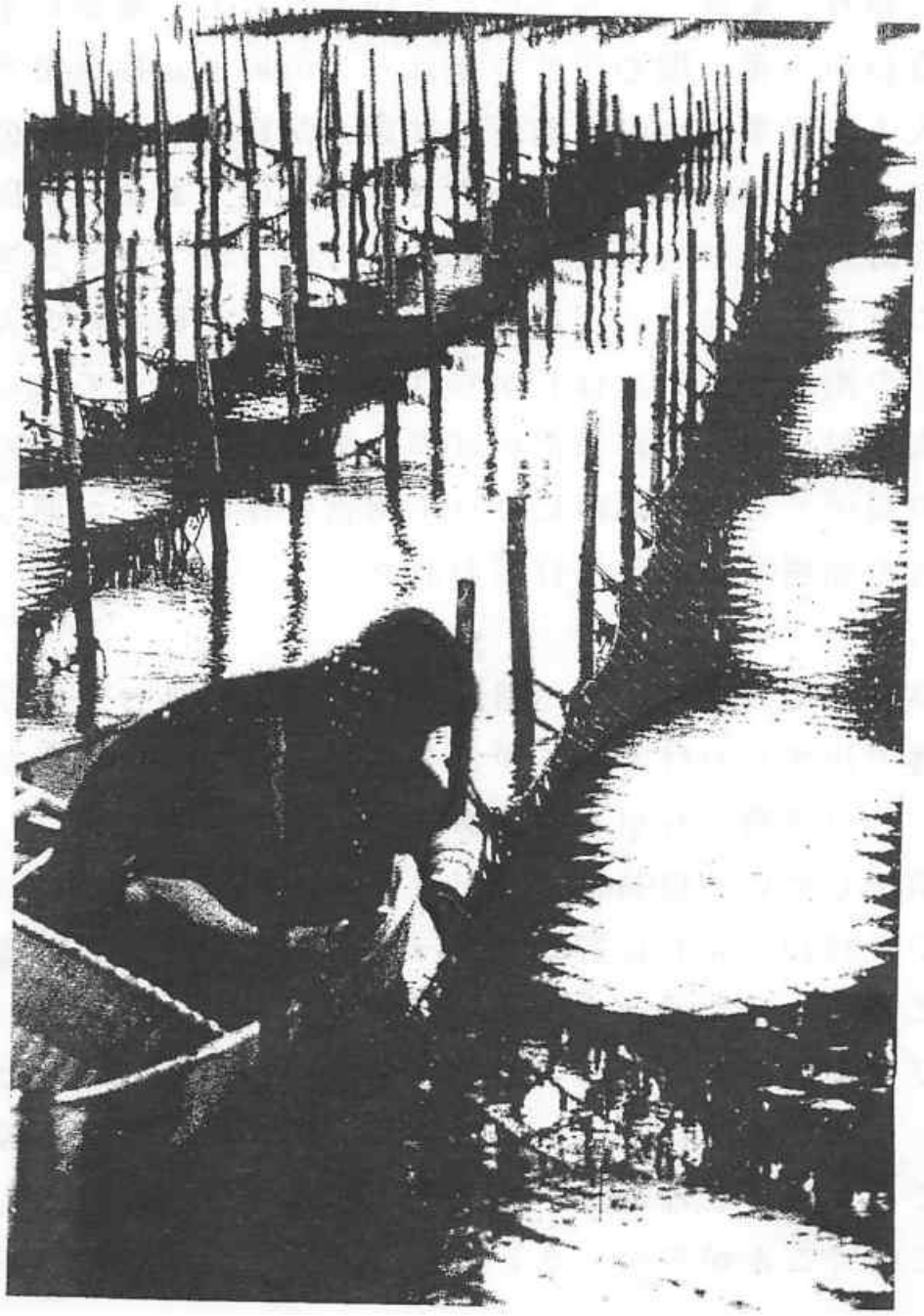
社僧や社人らは『由緒本記』編纂にあたって、国号起源説話を作成し冒頭に掲げ、まさに一宮・総社としての社格復活を実践した。古くからの伝承に日本武尊に由来する飯香岡という地名起源譚を加え、社名に用いることによって、社格を裏付けようと企図したのであろう。飯香岡八幡宮という名称には、八幡宮再起への願いが込められているのである。

第１３回シリーズ
「八幡史学館」

平成３０年９月４日（火）
９時３０分～１０時３０分
八幡公民館主催事業

海苔養殖の１年

（八幡浦・五所浦）



講師　八幡百選の会会員
佐倉　東雄

市原郡八幡、五所の漁業権を有する人達が漁業権の海面放棄を千葉県との間で取り交わしたのはのは、昭和３２年１０月２３日である。組合事務局を解散したのは同三十四年七月三十一日である。残務整理が多々あったからである。組合そのものの解散として記念に残したのが現在の神楽殿である。

漁業権の放棄及び組合の解散のあらましについては、神楽殿の脇に碑に刻まれ建立されている。

すでに放棄してより６０年が経つ。私が中学１年の時であるから１２歳。その時バリバリと海の仕事をしていたおとっさんどんは家を支えていた世帯主であるが年齢的にはほとんどいない。仮に５０歳として、６０年を足すと１１０歳。せがれさんもおやじさんと一緒にやっていたが、せがれさんも有に８０を超えている。聞き取り事態も難しい。もうしばらくしたら海の話は完全に聞けなくなるなるだろう。海苔の話、浅蜊の話、大巻の話、簀立の話、イカ籠漁の話などなど。加えて道具の話も。

いま、世帯主とせがれとでやっていたと書いたが、とんでもないことで家族総出でどの家もやっていた。やらなければ海苔の養殖など出来ない。小学校高学年の女の子は弟や妹をおんぶして台簀干しをやった。めぐしを抜き乾いた海苔をはずすまで。他から干し子を雇った家もある。「ほしこ」といった。長野県からのほし子が多かった。

さて、「海苔養殖の一年」と題して記録として残そうと言うのであるが、どこからどうやって書き初めていってよいやら全く分からない。私自身、海苔のひび立て（棒立て）も手伝っだった。海苔を漉く簀を編んだ。大人たちが拾い海苔をして来た海苔の中にゴミや青海苔等がまじっているので、それらを箸で取り除くしごともした。卓袱台を広げ、その上に乗せて。電球を下の方まで下ろした。台簀干しも大阪干しも。簀から乾燥した海苔を剥がすのも。そんなわけで、海苔養殖の一部分は労働に携わった者として承知をしている。

したがつて、このたび若干なりとも詳しく記録しておこうと思ったのである。 市原市（当時は市原郡）では現在海苔養殖に用いたあらゆる道具を一括して収集し管理していない。公立の幾つかの小学校に置いてあるだけである。それも行政の仕事として積極的にやったものでなく、蔵や物置が必要なくなり、取り壊したため近くの学校に相談に行って空いている一室に置いて来ただけである。従って埃をかぶっているだけで、活用はされていない。先生自体が分からないからである。台簀は保存することは出来ないが、現在それぞれの学校に保管それている海苔養殖に使用した諸々の道具は行政が民俗資料の一環として収集、保管、調査すべきではないか。そこへいくと浦安市郷土博物館はさすが海の町であったからして収集管理が充実している。もちろん海苔養殖の調査報告書なども発行している。市原市でも五井西の京葉小学校は、行政に関わりなく学校独自に収集している。ありがたいことだ。

八幡、五所の組合員が漁業権を放棄すると、即、木更津や金田の人達が海苔採り舟や、浅蜊取り使うジョレンなども買いに来たのである。いらないものを物置きや蔵に仕舞っておいても邪魔になるだけであるから売ってしまった家も多い。即、現金になったからでもある。

ここで断らなければならないことがある。私はこの文章を早くから書き出していた。道具の件である。市原市埋蔵文化センターでは、ついつい最近になって海苔の道具が市内のいづれの小学校等に自主的に収集されているかを確認し、台帳を作成した。私は、すぐ近くの石塚小学校の一室に集められているのを早くから知っていた。しかし、埋蔵文化センターに相談に行ったところ、行政で埋蔵文化センターに一括して収集・保管・管理をしてくれることになった。

私は、写真を撮らしてもらうため申請し、許可を得て写した。しかし、足りないものが多々あった。これから徐々に増えていくこだろう。切に期待したい。少々余計なことを書いた。

私は幸いにして、五所にお住まいの小出惣治さんに海苔養殖の一年の流れを聞くことができた。それをどのようにして海苔養殖を知らない人のために分かりやすく記録していくことは、専門家でない私にとっては至難なことである。

早速、書き始めるが、統計のような、また海苔とはなんぞやということは書かない、海苔養殖の仕事の中身だけである。

海苔養殖は、海に海苔ひびを立て（棒立て）、そこに海苔網を張って１２月、１月、２月（中頃まで）の間に海苔網に育った海苔を摘み取って家に持ち帰り、家族ぐるみで色々な作業をして、製品にするのである。

海苔組合員の一番の関心事は今年はどこの場所が抽選で当るかである。毎年春に入ると漁業組合の事務所で抽選会が行なわれる。公民館でやったこともあった。箱に手を入れ一枚だけ引くのである。村田川の河口から少し観音町の浦より五所浦（君塚浦との境）までどこが当たるか、それによってひび竹の高さの用意も違ってくるし、観音町の人が五所浦に当たれば浦の距離がある。はじからはじまで行かなくてはならない。逆に五所の人が村田川の方が当たれば同じ事がいえる。一番の関心事は、海苔の棚の場所である。場所によって海苔の採れ具合が違ってくるのだ。

柵の場所の抽選は盆前後に行なわれた。

ここでひび立ての話に関わる信仰のついて若干挟む。ひび立の場所、毎年、抽選で決まるわけであるが、当然誰しもがいい場所が当たるように願ってくじ引き箱から引くのである。

のり養殖をしている組員はくじ引きをする前に君津にある三石山（みついしやま283メートル）に祈願に行った。ここに十一面観音を祀る観音堂が建っている。この観音様は「一言観音」とも称されている。また海運と縁結びに霊験があるとも言われている。観音様に「どうか良い柵の場所が当たりますように」と一言お願いして来る。久留里線の最後の上総亀山駅で下車。あとは徒歩。何人かで祈願に行ったが、木更津の祭りに合わせて行くことが多かった。子供も連れて行くこともあった。

オリンピックで金メダルを取った高橋尚子の手形があるが、マラソンランナーと手形とに何か関係があるのであろうか。足形なら分かるが。高橋尚子も「どうかメダルが取れますように」と一言お願いしに来たのであろう。

海苔養殖の柵は一組合委員当たり１３柵で、これだけは平等である。また、海岸から沖まであらかじめ区切られている。要は浦全体が縦と横で仕切られており、更に組合員の数の持ち分１３柵が細かく分けられているのである。その１３柵も何処が当たるか抽選次第である。海岸に近い所から沖に向かって１～６まで仕切られていた。横はイロハニホ。

要は縦横にいくつも仕切られていたのである。もちろん舟みちは確保されている。

柵を仕切る仕事は漁業共同組合の仕事で、人手を頼んで印の棒を立て、そこに番号の札を取り付けた。

浦は干満の差が大きく一里先まで引いた。その辺が海苔養殖の限界で６と言う場所になる。この一番沖の６の場所は一般に波除けと呼ばれ、抽選に参加するしないは自由であった。億劫がりやで欲のない組合員は引かなかった。ひび立ても大変、あげも二つ巻かなければならなかった。

家々では場所が確認できると、ひび竹の用意をした。もちろん毎年毎年新しい竹を使うわけではないが、使ってきたひび竹を見て交換すべきは当たった場所と確認しあいながら新しいしい竹を買った。

注文を取りに来る斡旋者業者がおり、今度は竹山を有している家に行き、注文を取ってきた中身を話す。竹を積んだ馬車は五所の町中までは来ないで西線（現・内房線）の手前の田圃の所まで運んできた。注文した家々の者がリヤカーで受け取りにいった。鋸とナタを持って。農道で仕事を済ませたのである。ナタで竹の一番下を斜めにした。これは海で挿し安くする為である。長さも自分の所で当たった浦の場所を場所を考

えて切り落とした。１０本一かがれ（１束）で買った。これは五所の話。

家に運んだ竹はひび竹になるわけだが、そのまま海に持っていって挿すわけにはいかない。使用する全部の竹の一番下にあげを巻くのである。あげは挿したひび竹がたやすく抜けないためのもので、藁をよじって巻き付けた。それだけでなく、そのあげが取れたり緩んだりしないようによじ終わった両方の藁を下に下げ、さげた部分をさそらに締め付け結わいた。任意で抽選をする一番沖の６番目の場所であるが、ここのひび竹のあげは二つ付けた。一番最初に波が当たるから二つにした。この一番沖の柵を波除けの柵とも称した。ここはあまり遣り手がなかった。

ひび竹の作業だが、一人ではできない。二人でやった。手押し水中ポンプがない頃は一人が振り棒で穴を開け、もう一人が脇で振り棒を抜くか抜かないうちにひび竹を差し込むのである。勿論、竹は全て空洞にしてある。空洞にしないと浮力が付くからである。

水中ポンプが出始めてからは、ひび竹を挿すのもいくらか楽になった。私の場合は手押し水中ポンプの柄を力強く上げ下げし、海水を汲み上げる役だ。兄貴がホースの先端を竹を挿す位置に押し込み穴をあける。と同時に持っているひび竹を差し込む。兄貴は一人二役ということになる。兄貴は私の海水を吸い上げる力が足りないと「あづま、もっと力を入れて汲み上げろ」と大きな声でどなった。のり採り舟であるから力をいれて柄を上下させるとかなり揺れるのである。兄貴は胴長（胸までの長靴）を履いて捻じり鉢巻だ。私は小学校の高学年。

海苔とり舟は、ミヨシ（舟の先端）からトモ（舟の最後）までおおよそ４メートル５４センチ。幅は中央部分の一番膨らんでいるところで、９０センチ。櫂の長さは、短いもので2,8メートル、長いもので3,8メーメートル。

ひび竹は１柵の片側だけで２５本、両面で５０本等間隔に立てた。１３柵分立てると大変な仕事だ。この本数は何処の家も同じ。海苔網の規格が決まっているからである。横の長さ直接的には本数に関わりはない。

ひび竹について、少し触れておく。ひび竹にせい（ふじつぼのような貝）が付くようになる。最初は藁を固く丸め束子みたいにして擦って落とした。段々本格的に付き出すと「せーおとし」という道具を使って落とした。金属で出来た輪を竹をくるむようにして、その輪を力を入れて上下させるのである。勿論その輪には柄がついていた。また輪にはひび竹が入るだけの口が付いていた。海苔採り舟の中にいつもつんでいた。

ひび立てが終わってすぐに海苔網は張れなかった。まだ立てたばかりで差し込んだ所が締まっていないからである。また、その間に種付けの仕事などが入った。

話が色々と前後し、作業日誌のようにはいかないことを勘弁願いたい。

海苔の養殖場所の抽選が行なわれるのは八月、ひび立ては九月から十月はじめ。抽選で何処の場所が当たったかは直ぐ分かるようになっていた。組合の方で組合員一軒当たり十三柵、それに組合員数だけ掛けた場所にそれぞれの番号を挿した竹に結んでくれていた。例えば「１のロ」という番号を。組合員は抽選で当たった１３柵の番号を板に墨で書いて海苔採り出かける時はいつも持っていった。抽選の時に引いた番号は証拠品であるから大切に一冬保管した。

ここで書く必要もないが触れておく。組合員の中には柵の抽選に行くは行ったものの横着者がいて海苔採りを遣らず、他人に権利を売ってしまう者もいた。海に行ってもみんな顔見知りだが、番号を板に書いたものは互いに見せることはしなかった。権利を他人に売る事は違反である

が、組合としても知って知らぬ顔をしていたのだろう。

一番最初の海苔網の張り方がおもしろい。どの家も自分の柵の一つだけに海苔網を軽く結びつけておくのである。これは市原郡(現・市原市)。

海苔網は、縦1間(1,81613㍍・6尺)，横25間(縦45.5㍍・150尺)1枚編むのに一日掛かった。さらに縦横四辺に道糸を付けなくてはならなかったので翌日に少し食い込む。編むのにあばりと定規が必要であったが、あばりは常に二つ三つ網を巻いてそばに用意をしておいた。浜本町の人たちは、飯香岡八幡宮の建物の横で編んでいた。何人かで。

松ケ島に在住の故落合三代次が発見した五段線(海苔網を海面から何処の位置に張ったらよく海苔の胞子が成長するかの線)の場所まで潮が満ちてくると番(海で違反がないかどうか舟に乗って見回っている人のことで漁業組合が雇ってる)がサイレンを鳴らすのである。待機していた組合員は、一斉に自分の所の柵に即行き、仮留めしてあった海苔網をえぼ結びで所々縛り固定した。そして他の柵にも急いで行き仮留めを所々した。その日、全部他の柵も終わらせることではなく、五段線の位置が分かれば後日ぼつぼつと張りに行った。

どの柵も最初はえぼ結びで張ったが、海苔が本格的に採れ出すとえぼ結びを解き釣り糸と取り替えた。海苔網をピント張るのでなく、波で揺れるように遊びを持たせることが肝心であった。片方でなく両方釣りを付け若干垂らすようにしたのである。

海苔が張った網に付き出すのは十一月中頃からである。金木犀の花の匂いが立つ頃と思ってよい。その年初めて海苔を採ることを「手入れ」といった。海苔採りの最盛期は何と言っても十二月と翌年一月二月。

しかし、二月もなかばになると海水の温度が少しづづ上がってきて、青が混じるようになり、海苔の質が落ち海苔採り終わりになる。蛇足だが海苔採りの支度をして澪に行くと組合事務局で、今日は悪天候のため禁止という布に書かれた札が澪に立っている時もあったという。若い者

のは結構喜んで千葉に遊びに出かけたという。

海苔網から摘んだ海苔は、「おたふく」という籠に入れた。それから「ねりざる」に入れ摘み採ったのりを洗った。

海苔採りに行くときは、どてらを着ていった。それしかなかった。雨の心配は合羽を用意た。水は一升瓶に入れていった。転がっても何の心配はない。昼飯は、海苔巻きである。今のように洒落た海苔巻きではなく。芯に鰹節（おかか）か梅干しの肉である。最高であった。厳寒のさなかの仕事であるが、湯湯婆を持って行くとか、行火を持っていく事などはしない。そんなものを持っていっては仕事にならない。素手で採るわけだが、手がしびれてくる。みんな舟のへりに手を力強く叩いて麻痺させてしまうのである。そうするとやがて指先がほてってくる。そうしながら海苔採りを続けたのである。

一柵に網を一段だけ、二段張った家、三段張った家それぞれであるが、三段に張る作業は大変である。頃合をみて一番上の網を一番下にもって行く。二段目の網を一番上にもっていく。三段目の一番下の網を真中に張る。これには理由がある。海苔の成育を良くするための作業なのである。専門的なことは分からないが、直接日に当たる関係、直接海面に当たる関係等が言えるだろう。

やらない家もあった。面倒だからである。当然、海苔の収穫は減である。また、影口も言われたりした。あすこんがは、おっくがりやで働きがわりーな、せがれに嫁はきねかっぺ、などと。

また余談にになるが、ここで海苔網の話をする。今でも海苔網を大事にしている家がある。我が家にもある。化学繊維で紐自体が出来ているので全く腐らないし、丈夫である。従って絹莢の手に使うのである。これも便利である。他に利用している家もある。紐であるが最初は棕櫚の皮を編んだもの、次に椰子の皮を編んだもの、そして化学繊維の紐。

海苔採りをしていて一番恐いのは「しおて」が発生することである。突然黒い雲が出て突風が起こるのである。ともかく黒い雲が出るとその兆候である。舟を力強く澪に向かって漕ぐしかない。事があってからでは間に合わないからである。

海苔の収穫を終えた舟が澪に戻ってくる頃合になると、どの家もリヤカーで澪まで迎えに出る。そして収穫した海苔をいれたおたふく籠をリヤカーに積んで戻って来るのである。

翌日が大変である。採ってきた海苔をまな板の上で刻むのである。太い欅の下の部分を厚くしたまな板である。その上に海苔を乗せ両手に海苔切り包丁を持ち刻むのである。刻み過ぎてもいけない、刻みが足りなくてもいけない。海苔として製品になった時に微妙な出来具合になる。これは長年の感である。「はえなー、もーとなりんがは海苔を刻んでるよ」と言いながら刻み始めるのである。いい音がして聞こえてくるから直ぐ分かるのである。海苔切り包丁で一つの柄に二つの刃が付いているものがあった。これをトンボと言った。左右で持てば四枚の刃と言うことになる。一つの柄に三枚の刃を付けた家もあった。一枚刃の包丁もかなり厚く重かった。刻むのも力のいる仕事であった。

朝、かなり早く海苔採りに出かけた家では、その日の内に製品にしてしまううこともあった。日中の天候状態に恵まれたりもしたからだ。

漁業権を放棄する少し前に海苔切断機が開発された。現在で言うと千葉市中央区村田町の故小島覚さんが小島製作所なる会社を興し海苔切断機を販売した。手回しであるが斑がなく刻めること、労力の削減、時間の短縮等で購入する家が多かった。この海苔切断機今でも保存している家もあるのではないか。海苔が終わってからは自家製の味噌を作るため大いに役だった。

私は社長であった小島覚氏を知っているが小柄な方であった。小島製

作所では浅蜊を採る鋤簾も作り、小島式全自動海苔スキ機も開発して販売した。八幡五所浦では海苔切断機の使用は短かった。昭和３２年の漁業権放棄であったからである。

小島社長は、海苔切断機が手回しであったため更に改良を加えモータ取り付けベルトを用いた。袖ヶ浦や木更津ではこれを用いたのではないか。ともかく八幡五所浦が一番最初に放棄して、次の浦が次の浦がと放棄して行くのには保証金の額ではかなりの年数を要しているから。

繰り返しになるが八幡五所浦の組合員達は、右を見ても左の町を見ても放棄しておらず一番最初であったため保証金の額をそのまま受け入れたのである。五井、姉先、長浦へと埋め立ての交渉が進むについて県が示した保証金ではすんなり首を縦にしなかったのである。早い話が八幡・五所浦の組合員が一番馬鹿をみたのである。その後、県から幾らかの上乗せがあった。強く要望したからである。

話を海苔の作業に戻そう。

朝早く刻んだ海苔は海苔の簀に漉く作業に入る。大抵の家は井戸の脇に海苔を鋤く台を設置した。何処の家も井戸は自噴であつた。夏はスイカやトマト等を冷やした。

何処の家も井戸の脇に海苔を鋤く流し台を設けた。そして台の右脇に四斗樽を置いた。四斗樽には八升バケツで四杯から五杯入った。樽を右に置いたのは、たいがいの人が右利きだからである。その樽のほぼ上あたりまで水を入れる。それから刻んだ海苔を入れる。入れる量が難しいなれてしまえば何でもないが。樽の中を何回も何回もかき回す。樽の中に刻んだ海苔が平均になるようにである。

海苔を漉く台の上には海苔の簀が二十枚も重ねてある。さらに一番上の簀に四角い枠を乗せる。その枠の中に樽の中から桝で汲んだ水（刻んだ海苔が入っている）を平均にして流し入れる。桝の大きさは規格があて他のものでは製品にならない。また、薄い所、厚い所が出来ても製品

にならない。流し入れるのも簡単ではない。薄いところが出来るとそこだけ分からないようにちょこんちょこんと継ぎ足をした。樽から汲むたびごとに汲み取る桝で樽の中をかき混ぜた。刻んだ海苔が沈んで行ってしまうから均一にするためである。達者な人で一時間に三百枚から三百五十枚位は漉いたという。朝の冷え込みが厳しいと三百枚くらいだったという。海苔の鋤き方に水すきという方法もあり、数軒がやっていた。

潮時によっては薄暗いうちに出かけ海苔を収穫してくる。そしてその日のうちに製品にして売ってしまう家もあった。家族全員が働き者だったのである。三日潮のときである。

漉き終わった海苔の簀は台の脇に立てかけた。その簀をうま（私たちは、まーと呼んでいた。）という木で出来た四角い入れものに入れ、台簀や大阪干すの所へ運んだ。箱には運びやすいように上に横棒が付いていた。台簀は自宅の裏に広い場所があれば、そこに設置した。日がよく当たるように斜めにした。向きは南から西向きした。最初の台簀は三段にした。その後ろからは四段した。日当たりの関係である。

台簀は太く長い竹竿を横にして結わくのである。その竹竿を土台にして鋤きたての海苔の簀を裏返しにし横に並べていく。並べたところから子供たちも動かないように、めぐしと言うものを簀の脇に差し込んでいく。小学生の高学年の女の子は、まだ小さい妹や弟をおんぶして手伝った。海苔干しの手が足りない家では干し子を長野方面にお願いした。適当な時期を見計らって簀を表にた。

海苔の簀を台簀から大阪干しから取り入れる頃合を確認するのは素人ではできない。家族の者でも主の仕事であろう。適当な乾き具合になると海苔が微妙な音を発するのである。その音をしっかりと聞いてから簀を取り入れるのである。

しかし、干した海苔の簀は早めに取り入れた。簀から海苔を剥がす作業、十枚で一帖に畳む作業等があるからだ。仲買人が来る頃合まで製品

としておかなければならない。

大阪干しは木枠でできており、縦四枚横三枚張った。縦五枚張る大阪干しの家もあった。それを裏返しにするだけである。しかし、台簀干しは、漉いた海苔の簀を最初、海苔の付いた方を裏に干し、渇き具合をみてこんどは表にして干すのであるから大変である。家は空けられない。

のり干しは天候との戦いでもある。特に台簀干しの場合、干したあと天候が変わり、雨の一滴でも落ちてきたら、おかめになつてしまい、製品にならなかった。大阪干しは、雲行きが怪しいと思ったら早めに物置きの軒下に運んでしまうのである。

大阪干しは、今でも使っている家があるという。軽い蒲団や洗濯物を乗せて乾すのである。当然斜めに置くわけだが便利である。

浦安や船橋では、障子干しあるいは、枠干しと言っていた。

干し終わった海苔は台簀から大阪干しから回収し、廊下に運び今度は海苔の簀から海苔そのものを木の専門の道具を使って剥がすのである。剥がし終えた海苔は折らずに一端はがし箱という金属でできた入れ物にいれる。さらにその海苔を一帖（十枚）つづにして平箱に入れる。剥がし終わった海苔の作業はこれで終わりになる。平箱に入れた海苔はすぐに売らず海苔の相場をみながらということになる。全部が全部ではないが。

夕方になると（夏であるから、まだまだ明るい頃合）海苔の仲買人がやってくる。そして、海苔をじっと見る。海苔の一番端をほんの少し摘まみ取って口の中に入れる。海苔の出来具合を確認しているのだろう。

価格の交渉は一切なかったように思う。ぴかり一万円といって一日で二千枚生産した家もあった。仲買人は長野県の人がほとんどであった。これは八幡に限らず、東京湾一帯に出かけて来ていた。冬は雪に埋もれるから出稼ぎである。地元でも二三軒あったようで、値のやりとりはしたという。長野の人にしてみれば全くいい仕事である。厳寒のさなか

の海苔の仕事を一切せず、できあがった頃になると家々を訪ね値を付けるだけである。海苔が終わると長野へ帰って行く。長男でない方は、戻らないで養子（婿さん）に入る人もいた。

二月も中頃になると海水温が上がってくる。そうすると青海苔が付きだす。そうなると海苔の養殖は終わりとなる。品にならないからである。

しかし、海苔網を外す作業、ひび竹抜く作業がある。これらの作業はそれほど苦にはならなかった。ひび竹は大きくるくる回して抜けばすぐ抜けた。どうしても抜けないヒビ竹は万力を使った。

最後の仕事は浦の掃除である。各集落ごとに自分たちの浦を行なった。ひび竹の途中で割れて残っている物も多かった。

浅蜊の仕事に移る前にやるのである。自分たちの為にも浅蜊とりに来られた客のためにも。

ひび竹は新しいものは三年くらい沖のほうに差し込む。段々古くなってくると岸に近い方で使うことになる。新しい竹は波の抵抗を強く受けても弾力があってしなうからである。三四年経つと枯れてきて割れやすすくなるなるので岸の近く（たか）にもってくる。

まことに大雑把な書き方をしてきた。最後になるが使用する澪だが、観音町は観音町の澪、浜本町は元五大力船の港を使った。本町は七軒ほどが海苔養殖の権利を有し、澪は浜本町の澪を使わしてもらっていた。南町は南町舟溜まり。南新宿は新田川。五所は北川と金杉川。のり採り舟の大きさであるが、全長約（ともからへまで）４５４センチ。ともは船尾のことで漢字では艫、へは舟の先のことで漢字では舳と書く）。横幅は胴体の一番広いところで約８６センチ。底板までは約３４センチ。

一軒で二艘もっている家もあった。海苔ひびを立てに行くとき、抜い

て持ち帰るとき一艘では無理だからである。これは先にも書いたが、一人ではできず、ほとんど親戚同士であるとか、隣どうしでやった。「えーっこ」と言った。

「海苔養殖の一年」というタイトルにしたが、触れた部分はわずかである。もっと早く聞き取りをおこない、諸道具の写真や寸法などを測っておくべきだった。今となっては遅い。

その一つを書くと拾い海苔のことである。拾い海苔はおおむねおっかさんどんの仕事。主（あるじ）の拾い海苔は海苔採り舟を使う。これが大変な作業で簡単に文章や図面で示せない。舟での拾い海苔は金になったのである。一冬十万円にもなった。億劫な人はやらなかった。五所の人達は拾い海苔を余所の集落と比べるとよくやっていた。

昭和三十二年十月に千葉県と間で漁業権の放棄を取り交わしたが、海苔の付が悪くなっていた。海苔編みを長浦方面に持っていき、種付をして持ち帰り張ったのである。或いは種の付いた編みそのものを買った家もあった。海が汚れてきた証拠である。なぜ汚れてきたかの理由の一つに川崎製鉄所が起因していることには間違いない。

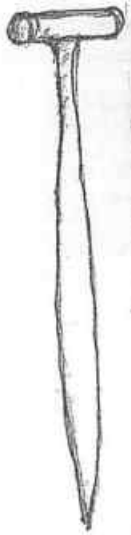
海苔が終わりヒビ竹を抜くわけだが、一番最後に浦掃除をした。浅蜊採りが始まり、折れたヒビ竹などがあると怪我のもとになるからである。八幡はともかく黒々とした大きな浅蜊が採れ、東京方面から生徒が観光バスで大勢来た。納涼台前の広場には何十台ものバスが並んだ。

以上。写真として取り上げた諸道具については、市原市立埋蔵文化財センターの所蔵であるが、掲載の申請をし、許可を得たものである。無い物については、他市の資料などから筆者が描いた。（順不同）※写真も載せた。写真の出版社見当たらず。

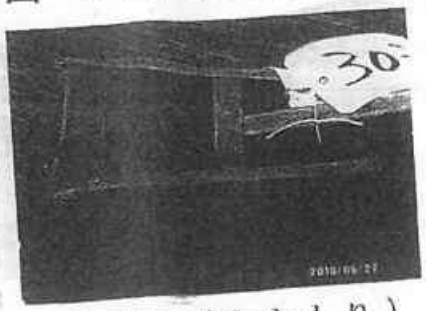
海苔の諸道具

ひび竹(筆者描く)

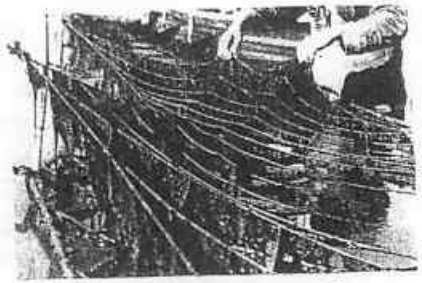
のり採り舟



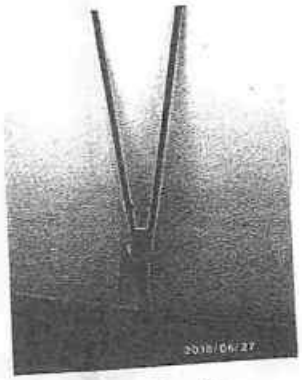
櫂（筆者描く）



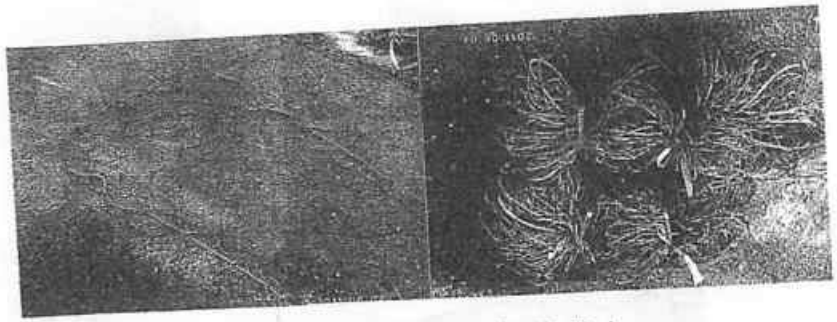
塗取り（あかとり）



摘み採り作業



ふり棒



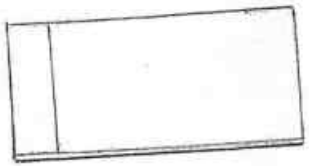
海苔網（筆者所有）

海苔ざる

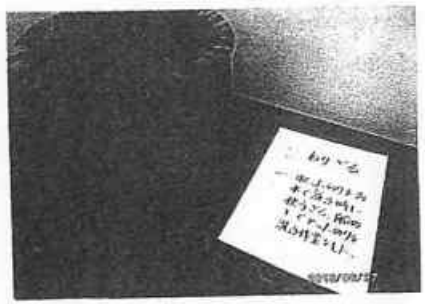
あげ（筆者描く）

サー棒（筆者描く）

あばり（筆者描く）



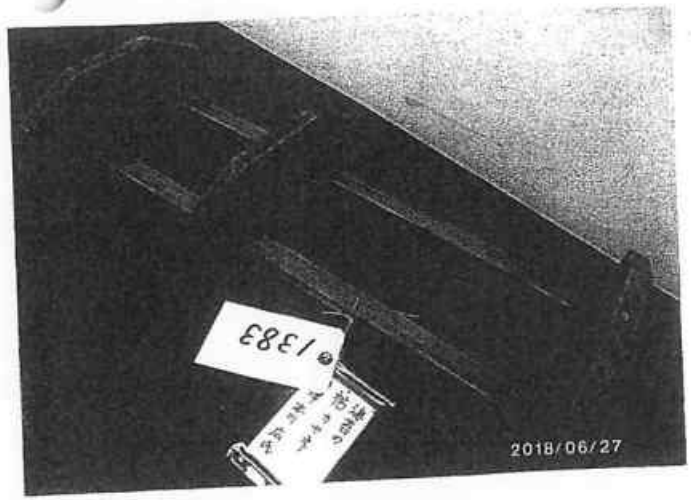
海苔網定規（筆者描く）



ねりざる

海苔の諸道具

台簾（だいす）干し

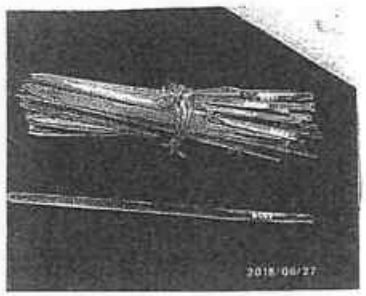


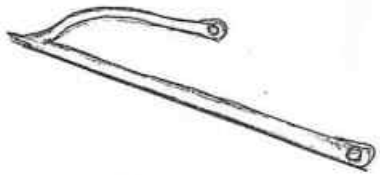
のりの帖かさね

のり剥がし板（筆者描く）

万力

拾いのり作業



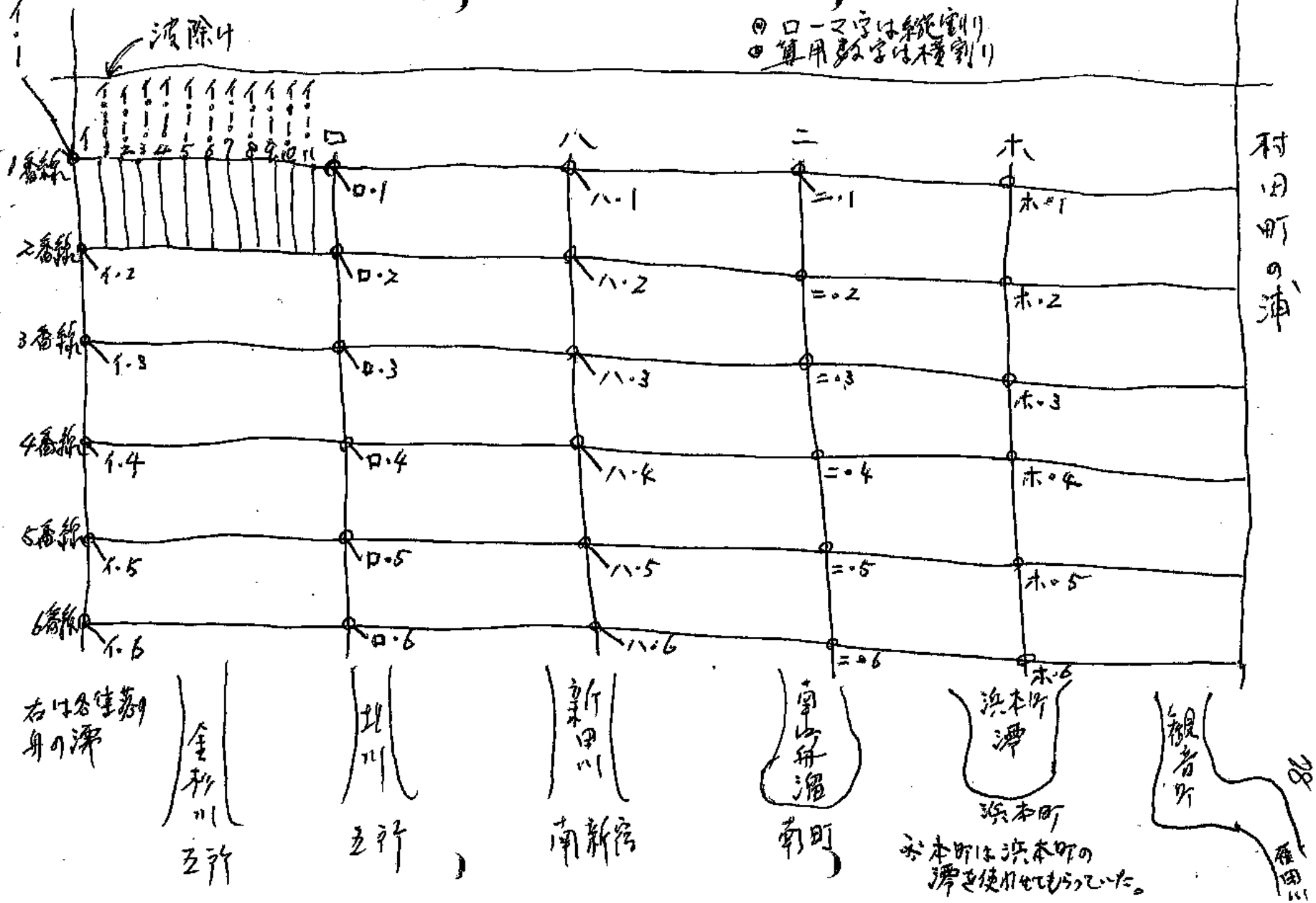


ぬき

以上の諸道具については、市原市立埋蔵文化財センターの所蔵であるが、掲載の申請なし、許可を得たものである。無い物については、他市の資料から筆者が描いた。（順不同）※写真も載せた。

八幡・五所河原浦不開出位置（舟通略図）

◎ ローマ字は縦割り
◎ 算用数字は横割り



八幡公民館主催事業「八幡史学館」第１３　ﾘｰｽﾞ　第４回講座

明治維新 150 年、菊間水野藩入封 150 年
一夜にして出現、夢まぼろしに消えた菊間城（藩庁舎、陣屋）

平成３０年９月４日　　山岸弘明

祝八幡公民館創立７０周年＝「八幡史学館」特別企画スケジュール

①１０月６～７日（八幡公民館文化祭と同時開催）八幡公民館７０周年企画展
　主催＝八幡公民館運営委員会、主管＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会
②１２月２１日～１月１０日　八幡公民館７０周年企画展
　主催＝八幡公民館運営委員会、主管＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会
③「八幡公民館 70 年史」の編集発行
　発行＝八幡史学館チーム、市原の古文書研究会、協力＝八幡公民館運営委員会

国の明治150年推進室 ホームページ

記念貨幣に、大河ドラマに、明治 150 年で企画続々

①ことしが明治 150 年にあたることから、国や地方自治体を中心に各地でイベントがすすめられている。明治維新の推進役となった鹿児島県や山口県では維新期の志士や歴代宰相にスポットをあてた記念展が人気で、8 月から始まった 1000 円金貨の予約受付に申し込みも好調だという。一方千葉県立美術館では「近代美術の先覚者・浅井忠展」などが開催されている。

②かつて国民的人気番組だったＮＨＫの大河ドラマも明治の元勲「西郷（せご）どん」、大久保と二人三脚で咲かせた「討幕ー明治維新」の大輪も新政府では敵味方に分かれる。あくまで武士として散った西郷、一方欧州列強を見聞したことで時流を見抜いた大久保には、不満士族の襲撃という壮絶なテロ死が待っている。ドラマは後半のクライマックスへとすすむ。

「明治維新」とは

①明治維新＝慶応 3 年 (1868) 10 月将軍・徳川慶喜の大政奉還から同年 12 月、明治天皇の王政復古宣言、翌 4 年江戸幕府の倒壊をへて明治新政府成立に至る一連の統一国家形成への政治改革過程。形式上は徳川氏から朝廷への政権移行、実質上は封建制から国家統一と資本制への移行に連なり近代日本の基礎を置いた。（広辞苑）

②明治維新はペリーが来航した嘉永 6 年 (1853) に始まる。
孝明天皇、徳川 12 代将軍家慶治世、老中は阿部正弘であった。6 月黒船 4 艘を率いて浦賀に来航したペリーは米国大統領の親書を携えて開国を要求、太平の夢をむさぼっていた幕府は、開国か徹底開戦かの選択に迫られ揺れにゆれる。一方で尊王、攘夷をめぐる志士たちの活動も激しくやがて薩長を中心とした討幕運動へと結集されていった。

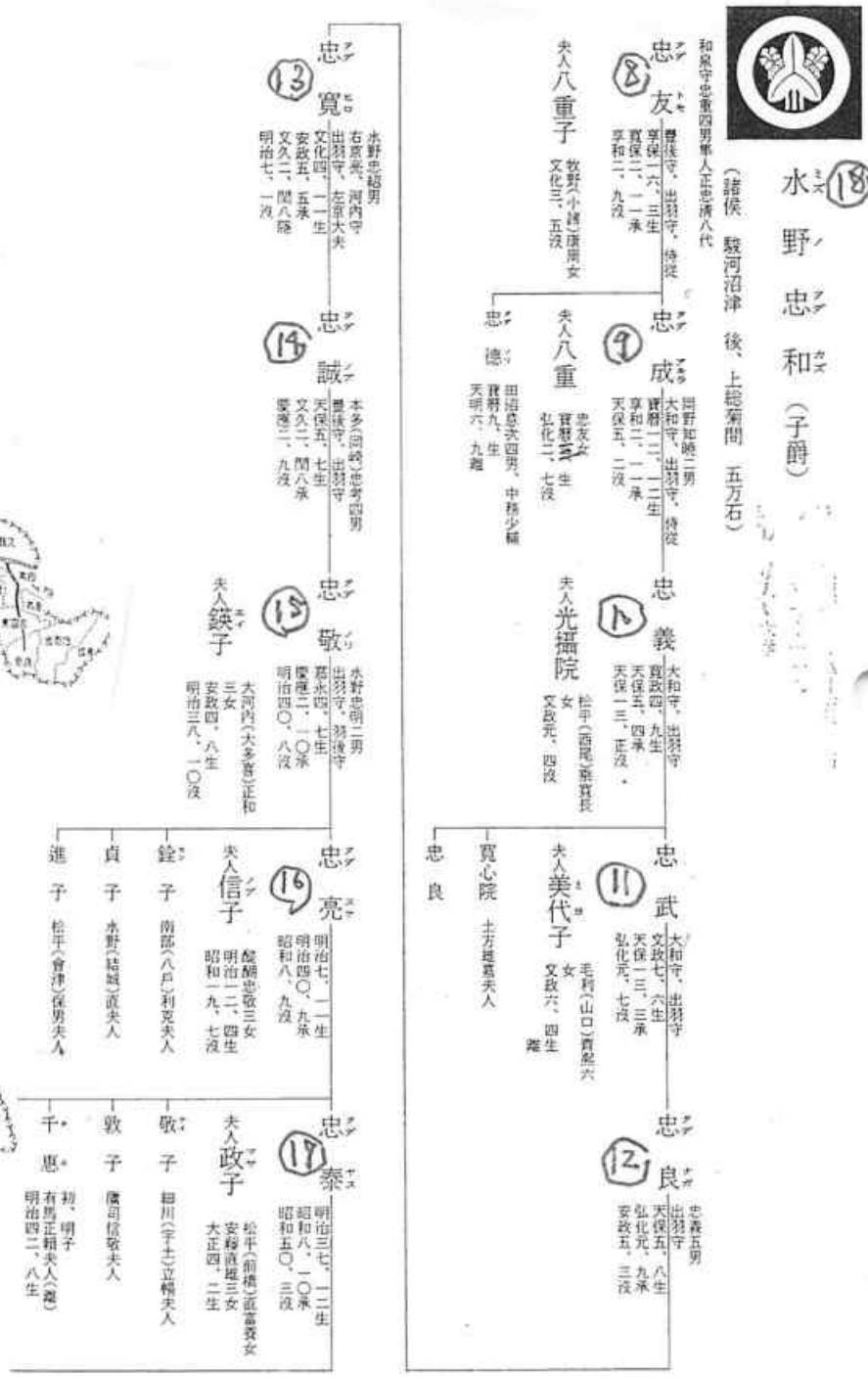
③「明治維新」の終結については定説がない。
＊年号説＝慶応 4 年 9 月 8 日、元号が明治に変わった日　わかりやすい
＊大政奉還説＝慶応 3 年 10 月 14 日、徳川慶喜が朝廷に大政奉還（征夷大将軍の返上）した日
＊廃藩置県説＝明治 4 年 7 月 14 日、廃藩置県が断行され幕藩体制が一掃された日
＊西南戦争説＝明治 10 年 9 月 24 日、西南戦争で士族の反乱が終わった日
＊大日本憲法制定説＝明治 22 年　などがある。

明治維新と菊間藩関係年表

年月日	市原郡八幡地区の歴史	日本の歴史
慶応4年1868	八幡地区の所領構成＝旗本、幕府領など相給	前年暮、王政復古大号令、新政府誕生
1月		鳥羽伏見の戦い、徳川慶喜敗る 朝廷、慶喜追討令、親征の詔を発す
2月		慶喜、寛永寺に蟄居、恭順
3月		五か条の御誓文
4月	福田八郎右衛門ら木更津で義軍府結成	江戸城開城、不満の幕臣ら江戸を脱出 戊辰の内乱始まる
閏4月	八幡、五井、姉崎戦争起こり、義軍壊走	
5月	水野忠敬に所替え内示	家達徳川家相続、静岡70万石に移封
7月	忠敬藩政改革を宣言、選挙で若手を登用 柴山文平、知県事となり八幡に仮役所をおく 柴山、房総地区の旧幕領、旗本領を引継ぐ 忠敬の新領地市原郡の内と決まる	江戸を東京と改称
8月	忠敬、先発隊を送り柴山から新所領を引継ぐ 忠敬、幕府から所領替え経費1万3千両を借用	明治天皇即位
9月	大殿忠寛八幡着、称念寺などを仮本陣とする 忠敬、江戸浜町藩邸に着く	明治と改元 会津戦争で会津松平容保降伏
10月	八幡周辺に築城適地なし 領外菊間を城地候補と決め村替えを願い出る	
12月	新政府から1万5千両と米千石を下賜される 千光院を仮陣屋に、菊間で築城工事開始	
12月ころ	沼津から藩士相次いで菊間に転入	
明治2年1869		
2月	忠敬、版籍奉還を願い出る	
3月		東京遷都、4月函館戦争、内乱終息
5月	藩名を菊間藩と決定	
6月	忠敬、菊間藩知事。家禄10分の1となる	版籍奉還
7月	忠敬始めての国入り 藩内に高札(定め三札)を掲出	
明治3年1870		
1月	菊間藩士の俸禄削減	
7月	大手新坂完成	
12月	公廨(藩庁舎)完成、このころ藩校を新築	
明治4年1871		
2月	忠敬邸棟上げ	
4月		身分制度廃止、戸籍法制定
7月	菊間藩は菊間県となり、藩庁を県庁とする 忠敬、知事を免じられ東京に移る 築城工事を中止する	廃藩置県 封建制度による土地、人民支配終結
11月	菊間県などを統合して木更津県とする	
明治6年7月	木更津県などを統合して千葉県とする	

水野氏家紋「おもだか」
八幡・竹内氏所蔵

明治4年の水野氏所領



水野家系図（抄）

みずのただのり　水野忠敬　一八五一―一九〇七　幕末・維新期の駿河国沼津藩主・上総国菊間藩主。出羽守。通称、吉太郎。嘉永四年（一八五一）七月水野忠明の次男として生まれ、沼津藩主水野忠誠の養嗣子となる。慶応二年（一八六六）十月家督を継ぐ（五万石）。同三年江戸城大手門番となる。明治元年（一八六八）徳川慶喜追討が開始されるや、二月十三日尾張藩の指揮に従うことを誓約、同月二十五日勤王証書を提出した。二月二十九日には甲府城代に任ぜられ、朝命を奉じ、甲州方面の鎮定にあたった。同年五月沼津で謹慎中の林昌之助、および遊撃隊捕虜が脱走し、政府軍からその責任を追及され、甲府城代を罷免された。徳川宗家の駿河・遠江への移封に伴い、同年七月沼津から上総国菊間（二万三千石）に転封となる。二年六月菊間藩知事となり、四年七月廃藩置県により藩知事を罷める。同十七年子爵に叙せられる。同二十七年ごろから宮内省に出仕、御歌所参候を命ぜられる。同四十年八月十七日病死。五十七歳。墓は東京都文京区小石川三丁目の伝通院にある。

将軍外戚の名門～沼津・菊間水野家

1）徳川家達駿河 70 万石の成立と沼津水野忠敬の市原郡移封

①慶応４年１月３日、鳥羽伏見の戦いに敗れた徳川 15 代将軍慶喜は、ひそかに幕府軍艦に搭乗して江戸に逃げ帰って上野寛永寺に謹慎した。２月京都では「慶喜親征」の詔が発せられ、有栖川宮熾仁親王を征夷大将軍、西郷隆盛を東海道先鋒隊とする新政府軍が東下を開始する。江戸城総攻撃を直前にした４月 11 日、慶喜は水戸に下がって、江戸城が無血開城された。しかし、これに不満の旧幕臣たちは北関東へ脱出、戦火は北へ北へと広がっていった。

②慶応４年５月 24 日、徳川田安亀之助に徳川宗家相続が認められ、駿府（駿河府中＝静岡）70 万石が与えられた。徳川家にとっての東海地区は誕生のゆかり地でもあったが、その結果、駿河、遠江国の諸大名が上総、安房国へ転封されることになった。

③同じ日沼津５万石水野忠敬に所替えの内示があった。房総地方は、江戸時代、幕府直轄領、譜代大小名領であり、徳川氏領と東海道筋譜代大名領の入れ替えとなった。

＊水野忠敬家記＝所替えの予告（宛先）水野出羽守

今般徳川亀之助駿府城主に仰せ付けられ、同国一円下賜候につき、追って所替え仰せ付けらるべく候あいだ、かねて用意これあるべき旨御沙汰候こと。五月

④沼津の引渡しは決まったが、新領地は決まらない。忠敬はこの間移封を前提とした「藩政改革」を実施した。人材登用のために全藩士を対象とした「総選挙」を実施して 20 名を選び、かれらを新設した最高議決機関の「立法局」、執行機関「行政局」の指導部にすえた。これまでの家格、身分に縛られた旧弊を打破したもので、家老、年寄といった門閥層に変わる新しい指導者として以後の藩政を担うことになる。菊間転封を契機に藩士邸の多くで世代交代が行われた。

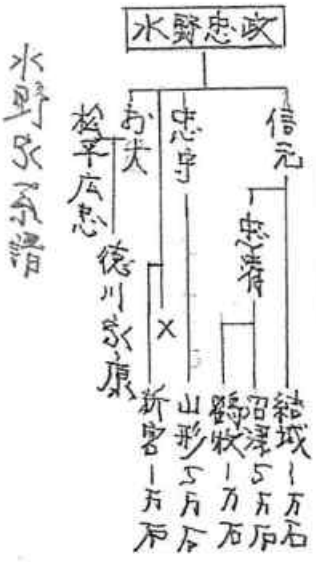
④７月 13 日、国替え先が市原郡のうち八幡村を含む２万 3700 石と決まった。

分領の三河国領（大浜陣屋）１万３千石、伊豆国領７千石、越後国領（五泉陣屋）１万１千石はそのまま、表高は５万４千石であった。

2）徳川家康の生母・お大の生家～将軍外戚として活躍した歴代藩主

①水野家は徳川家康の生母・お大の生家で、大名家が４家、「旗本やっこ」水野十郎左衛門などの直参旗本家多数を輩出した。（水野家系図）

②水野家はお大の長兄信元、水野宗家２代忠重の２男・勝茂に始まる。２代将軍秀忠に仕えて松本６万石に進む。６代忠恒が江戸城内で発狂、刃傷事件を起こして改易となる。しかし「勲旧の世家」として大伯父忠毅が７千石の名跡相続が認められた。８代忠友は 10 代将軍家治に信任されて老中、加増を重ねて沼津３万石、次の忠成も 11 代将軍家斉の老中首座に抜擢されて幕政を主導した。忠成時代、贈賄が横行して田沼時代の再来との悪評もあったが、沼津藩は５万石に加増された。



③幕末の 13 代忠寛(ただひろ)は文化 4 年一族末家の旗本家嫡男に誕生、13 代将軍家定小姓頭取であった安政 5 年、急逝した当主忠良の跡をついで沼津水野家に迎えられた。同年奏者番となり、以後「安政の大獄」期の大老・井伊直弼与党として活躍、安政 6 年 14 代将軍家茂の秘書役、側用人に進んだ。しかし「桜田門外の変」で直弼が暗殺された後は振るわず、文久 2 年御役御免、同年隠居した。のち明治元年菊間築城を指揮し、明治 7 年東京で没した。

④忠寛にも嗣子なく、14 代忠誠(ただのぶ)は岡崎藩 5 万石・本多忠考 4 男から養子。幕末の混乱期で、尊攘運動激化のなか駿府城および沿岸警備などを命ぜられた。文久 3 年奏者番兼寺社奉行となり、慶応 2 年 14 代将軍家茂の「第 2 次長州征伐」にしたがって陣中で老中加判となった。戦いは幕府軍敗報の中、家茂が急死して終結、しかも帰陣中の忠誠も急死して、幕府への届け出は 1 か月後の沼津帰国後とした。

⑤最後の藩主忠敬(ただのり)も分家の旗本 2 千石水野忠明 2 男から養子。慶応 2 年 10 月相続、翌 3 年江戸城大手門番在任中に「大政奉還」が行われ、「鳥羽伏見の戦い」以後、尾張藩（慶勝）の指令下に入って「勤皇誓書」を提出した。討幕軍の江戸進攻にあたり、宿駅取締、人馬継ぎ立て、兵糧などを担った。またこの間の 2 月甲府城代を命じられ甲州方面の鎮定にあたった時、国元で預かった林請西藩主と遊撃隊が脱走、責任を追及されて甲府城代を罷免された。明治元年 7 月徳川宗家を相続した徳川家達の駿府移封にともなって市原郡に転封された。

＊水野忠敬家記（東京大学史料編纂所所蔵）勤皇誓書の提出

二月二十九日、一人尾州表へ差し立て、尾張大納言殿へ左の書面差し出す。

今般、王政復古、万機御一新、仰せ出だされ候御主意拝承奉り候、私において（は）勤王遵法の外、他念ござなく候、なおこの上いよいよ堅く相守り候儀にござ候。これにより後日のため証書差し上げ奉り候。以上　慶応四年辰二月　　水野出羽守印、花押

右両通沼津において取揃え出立のところ、途中川支えにて、三月十日尾張大納言殿へ差し上げる。

3）いったん戸田村などで築城を待つ～沼津の家屋を取り壊して菊間へ運んだ

①慶応 4 年 7 月 27 日、城地、所領引継ぎに迫られた忠敬はいったん上知の対象外だった伊豆の戸田村へ立ちのく。「両殿様(忠寛、忠敬)明暁七つ時御供揃え(中略)このたび御所替えにつき御領分の内、豆州戸田村七右衛門方へ両殿様(ムシ喰い)御乗船にて入らせられる」(岡田程八日記)

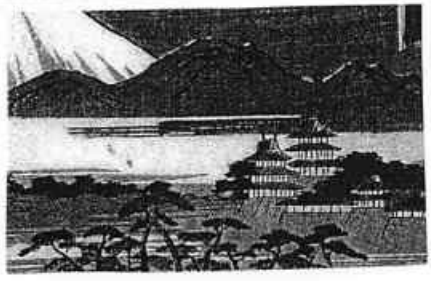
戸田村は村高 281 石、小さな寒村に多くの家臣らも移転した。かれらは在村の百姓家を借りたが、1 軒に複数家が間借りしたり、畳建具もない部屋で雨露をしのいだ。

②年号が明治に改まった 10 月から翌 2 年 1 月、築城工事進展にあわせ藩士の菊間移転が波状的に始まった。移住にあたり家屋を解体して移築するものも少なくなかった。船で浜本湊に陸揚げ、そこから小舟に積み替えて城下に運ばれた。菊間城の建設がようやく軌道に乗っていった。

③明治 2 年 1 月、忠敬は供揃いを整えて戸田村を出立、江戸に向かう。しばらく浜町屋敷にとどまり、初めての国入りは明治 2 年 7 月 26 日のことであった。

水野藩の参勤交代図

沼津城 模型



絵かた沼津城

近世石垣の沼津城から土造りの陣屋へ

1）石垣、水堀、三重櫓の揃った水野家の旧地・沼津城

①水野家の旧地・沼津城は武田勝頼が長篠が原の戦いに敗れた後、本国甲斐と駿河湾を結ぶ軍事拠点「海城」として築城した「三枚橋城」を前身とする。のち北条氏政、徳川家康に転じ、江戸時代はじめ大久保忠佐の居城となるが、慶長18年に無嗣廃城となった。

②安永7年水野忠友が三枚橋城跡に沼津城を再建。城は鹿野川を背に2重の水堀に囲まれ、天守3重櫓、2の丸、3の丸に2重櫓と太鼓櫓を上げた。

③水野家転封後、藩主御殿はしばらく沼津兵学校として使われたが東京へ移転、石垣や水堀も火災や戦災、大規模な都市計画で取り壊された。現在本丸跡は公園で本丸跡碑、石垣一部などが当時を偲ばせている。

2）わずか2年、短命に終わった房総新藩7＋2藩

①静岡藩成立にともない千葉県に移封された「房総新藩」は7藩

駿河国田中藩→長尾藩（南房総市滝口村。のちに北条へ移る）＝本多正納4万石。

〃　小島藩→金ケ崎藩（君津市南子安。のちに貝渕村へ移り、桜井藩を称す）＝松平滝脇1万石

遠江国浜松藩→鶴舞藩（市原市鶴舞）＝井上正直6万石

〃　掛川藩→柴山藩（柴山町。のちに山武市松尾に移り、松尾藩を称す）＝太田資美5万石

〃　相良藩→小久保藩（富津市小久保）＝田沼意尊1万石

〃　横須賀藩→花房藩（鴨川市横渚）＝西尾忠篤3万石

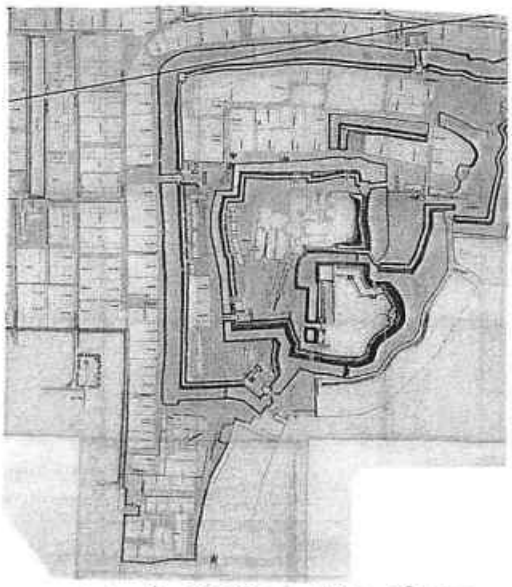
②静岡県以外から明治2、3年に移動封された新藩

出羽国長瀞藩→大網藩（大網白里市大網。のちに常陸龍ケ崎に移る）＝米津政敏1万石

下野国高徳藩→曽我野藩（千葉市曽我）＝戸田忠綱1万石

③大規模な領地替えで房総に9藩が成立したが、わずか2年、未完成のまま終わった。

2の丸御殿図



江戸後期の城絵図

東海道53次

本丸跡公園

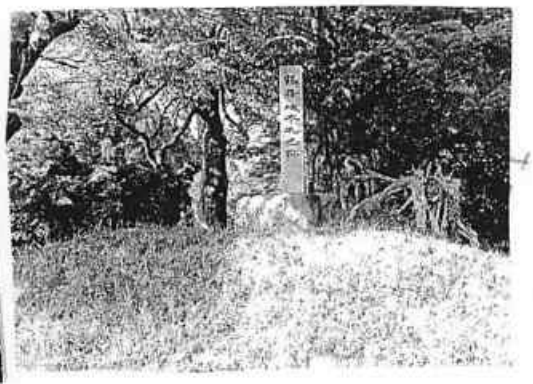
城跡碑

3）伝統的総構え連郭式丘城と西洋式四稜郭～同時成立の鶴舞城と松尾城

①井上正直鶴舞藩６万石(陣屋、城、藩庁舎)＝秀忠の老中井上正就を藩祖とする新参譜代大名。歴代藩主は老中、若年寄、京都所司代などを勤めた。鶴舞藩主となった正直も幕末期老中２回、外国御用取扱、勝手入用掛など激動期の幕府中枢で活躍した。戊辰戦争は尾張藩の指示にしたがって朝廷に恭順、新政府軍の進軍に協力した。９月上総への転封を命ぜられ翌２年２月国入り、石川村桐木台で築城工事を興す。城地は２方を切立つガケに囲まれた尾根上に立地する平山城。城下、３の丸、２の丸、本丸を連ねた連郭式縄張りで、搦めて側のほそ尾根を堀切りして要害にした。工事図は現存しないが、明治の「迅速図」からアウトラインが想像できる。本丸には土塁、水濠、空堀を巡らせ、藩主(知事)御殿や藩校、大手門などを配したが未完成に終わった。新政府から３年間玄米1200石と１万3000両が支給され、その年度収支が報告された。鶴舞小学校の本丸土塁残欠上に「鶴舞城本丸跡碑」「藩庁舎跡高札」が立つ。

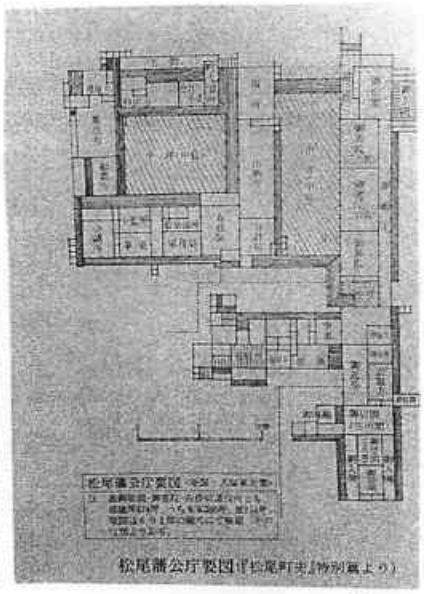
②太田資美松尾藩５万石(城、陣屋、藩庁舎)＝太田道灌を祖先とする譜代大名家。浜松、田中、館林などをへて江戸中期に掛川５万石に定まる。明治元年の移動でいったん上総芝山の観音教寺を仮の居所として柴山藩を称したが、翌２年領内の山林を選定して藩庁舎、知事宅、藩士宅の建設に着手したが未完のまま終わる。城地はＪＲ総武本線・松尾駅正面、比高 20mの台地上に立地、急ガケ、土塁、空堀を配した西洋式城郭の４稜堡の縄張りになっている。函館五稜郭、信州龍岡城（田野口陣屋）の変形、かどの稜に砲台を構える。およそ４ｋｍに迫る九十九里浜からの外国船侵攻を想定したものであろうか。現在は自動車教習所、松尾中学校、山林など。わずかに土塁、空堀、山容が残るが面影はない。近くに藩主邸長屋門、藩庁舎書院が移築されている。

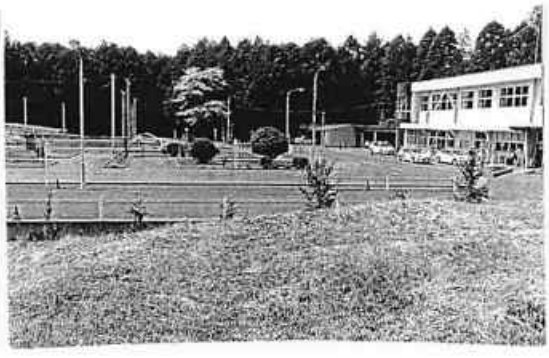
③西尾忠篤花房藩３万石（陣屋、藩庁舎）＝西尾氏は秀吉から家康に仕えた譜代小藩で、天和年間から川原石を積み上げた遠江横須賀を居城とした。明治元年転封の命を受けたが移動は翌２年５月。藩主は鴨川市の鏡忍寺を仮居所としたが６月には版籍を奉還して知藩事となる。８月領内にあった旧岩槻藩取締出張所（陣屋）を仮藩庁とした。このとき花房村に藩庁舎を建設するものとして花房藩を称したが着手することなく廃藩置県となった。



菊川城と同時期に
成立した鶴舞城（左上３枚）
と松尾城（下２枚）

右は現存図による松尾城





未完成のまま廃城～なぞ多い菊間城縄張り

1）先発隊が引継いだ新所領に築城適地なし

①慶応４年８月、新領地への先発隊として田所嘉文(商法掛)、服部純(公務人介役) らが派遣された。当時市原郡は閏４月に起こった旧幕「義軍府」による八幡、五井、姉崎戦争直後で新政府に不満の浮浪浪士が横行するなど治安が悪く、９月には２小隊 80 人が増派された。かれらは房総知県事柴山文平から上総国の新所領の引き継ぎ、城地の選定を進めた。また、９月 10 日「旧幕臣」を名乗る浪士 150 人が五井に出没したとの報を受けて出動、10 月には水戸藩諸生党追討の命を受けて下総に兵を進めた。

＊「寄留者短冊明細」＝

田所嘉文（家禄現米 16 石、当酉明治６年 54 歳）＝慶応四年八月旧藩転国の際、代官役相勤め総国拝領地受取方、かつ藩地境界測量方申し付けられる

服部　純（20 石、明治７年 41 歳）＝明治元年七月、沼津藩菊間転封につき土地点検、士邸割り申し付けられ上総国に移住す

黒沢著幸（16 石、明治６年 36 歳）＝明治元年転封につき九月四日上総国市原郡の内土地点検ならびに測量方申し付けられ、同年十二月二十三日同国同郡菊間村へ移転

②９月 27 日、先々代藩主の通称「大殿様」、水野忠寛が八幡宿に到着する。忠寛は称念寺を宿陣として城地選定と以後の築城工事を指揮したものとみられる。

＊佐野彪家文書、海土有木村年番名主文書「諸用向き日記」

（９月 28 日）廻状、八幡仮御役所。大殿様昨二十六日東京府御乗船のところ八つ時過ぎ、滞りなく八幡村御着船、それより御旅館新左衛門方へ御着遊ばされ候

（10 月１日先触れ）八幡村称念寺宿陣、内田郷宿村より、水野出羽守内鎌倉治郎作

＊菊間・岡田家文書「岡田程八日記」（年月無記）大殿様上総国八幡駅称念寺へ仮移り

③忠寛は徳永台の字柳谷、現在菊間 2657～2684 番地およそ５千坪に自らの住居、通称御殿を建造、一部土塁残欠があり、空堀跡などの地形がわかる。

④八幡・竹内克家は旅籠で、「水野藩の先発隊仮陣屋」とされた。沼津城に飾られたといわれる直径 39ｃｍ、暑さ７ｃｍの水野家「おもだか紋」を所蔵されている。

2）城地を菊間台地に決める

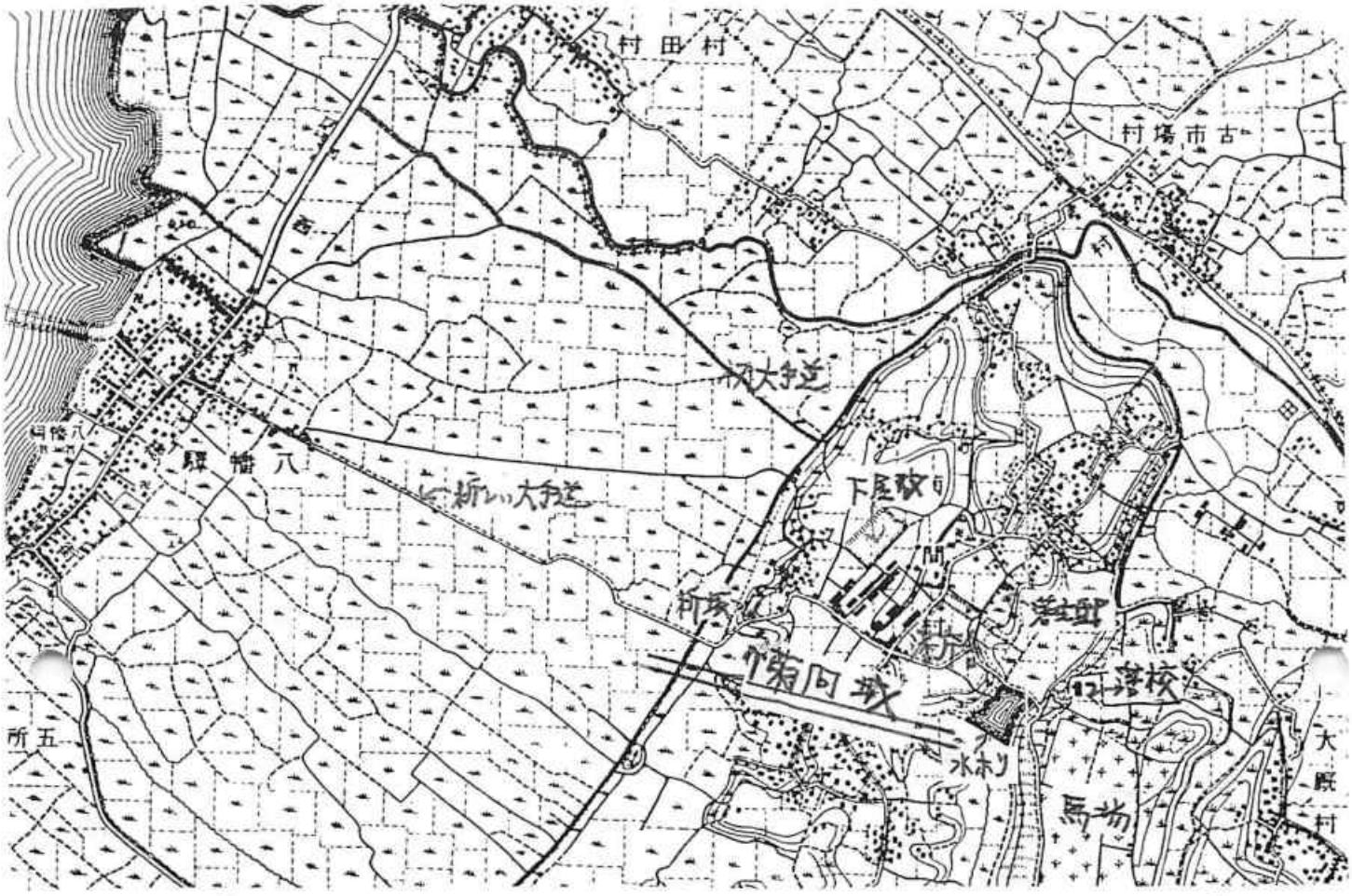
①先発隊は引き継いだ新所領に城地を検討、八幡を候補地としたらしい。地方文書に次の一文がある。おそらくは、目前に菊間台という適地を描いたが、菊間村は所領には含まれていない、結論を忠寛の現地入りに委ねたものであろうか。

＊八幡・寺嶋家文書仮 2-69「水野出羽守新規陣屋取り立てについての願文」(控えまたは案文)

恐れながら書付をもって願い上げ奉り候、上総国市原郡八幡村役人申し上げ奉り候、今般新規御陣屋御取り立ての儀、取急ぎ御願い申し上げ候とおり、もっとも右陣屋御取立ての場所、あら絵図面相添え差上げ奉り候通り、いささか御差し支えの儀ござなく候、当村へ御陣屋取り立て成し下し置かれ候よう願い上げ奉り候。以上(以下無記＝明治元年 10 月、八幡村名主連名、水野出羽守様仮役所あてカ)

＊関係資料＝〃　仮 2―69「水野出羽守新規陣屋誘致諸入用分担についての名主連判一札」

御頼み申す一札のこと。今般、御陣屋御取立てに相成り候やにつき、右の段たまたま御取合せの儀、御頼み申上げ候ところ御聞き済み下されかたじけなく存じ奉り候、しかる上は諸入用いかほどにても滞りなく出銀致すべく候、これにより頼み一札差し入れ申すところくだんのごとし。(明治元年)十月、名主忠兵衛(印)ほか５名、御名主(寺嶋)好次郎殿



明治16年「迅速測図」の八幡宿と菊間周辺図に加筆

御殿跡

五つ字路

大空堀跡

②水野藩は10月9日、新政府に所領一部の村替えを願い出る。新たに菊間村、大厩村、山木村、市原村、西野谷村を差し替えてもらった上で菊間台に築城したいとの趣旨で、翌月新所領の半分以上にあたる1万3590石の村替えが行われた。

＊水野忠敬家記＝嘆願書、鎮将府の会計局へ差し出す

このたび代地として下賜候上総国市原郡村々の内、城郭取建て候場所見立て相願うべきと精々取調べ候ところ、何分要地これなく、幸い領分八幡宿地続き菊間村の儀は、村にはこれなく候えども、城郭相応の地険にもござ候あいだ、相成るべくは外領分の内御差し替え下し置かれ候よう仕りたく願い奉り候、右願いのとおり仰せ付けられ候上は、同村最寄り大厩、山木、市原、西ノ谷、都合四か村は菊間村周囲の村々にござ候あいだ、これまた御差し替え下し置かれ候よう仕りたく願い奉り候、右は元来小藩微力の儀に候えば、一時多分の人力を費やし城郭取建て候儀は何分行き届きがたく、まったく自然の地利に基づき連々をもって営繕仕り、ついに故守の便を得申したき素意にござ候、なにとぞ厚き御慈評下し置かれ候よう仕りたく、この段願い奉り候。以上

（明治元年）十月九日　水野出羽守

3）築城工事の一方で版籍奉還～廃藩置県で中止された

①菊間台地で築城工事が始まった。薩長を中心にとした新政府軍は徳川幕府を倒し、東北の戦火もようやく終焉に近づいているとはいえ、この先まだどう転ぶかわからない。先発隊の胸中には前任地・沼津城の面影が焼き付いている。当然なんらかの築城プラン、縄張りをもって工開始されたわけだが、残念ながら図面などの工事記録は一切存在していない。

②「五か条の御誓文」が公布されたが、新政府に「中央集権国家建設」への構想が固まっていたわけでもない。一方、沼津藩を始めとした転封諸藩には築城経費はもとより国替えの移転費用も借用金に頼らざるをえないほど藩財政はひっ迫していた。

③12月、新政府から築城経費として現米1千俵と金1万5千両を向こう3年間に亘って下賜されたが、8月の借用金1万3千両を差し引くというせちがらい但し書きがついた。

④明治元年12月、姫路藩が諸藩に先行して版籍の奉還を申し出、藩経営が破たん状態だった中小藩が続いた。翌2年1月薩長土肥4藩が揃って「版籍奉還」を上表、これにともなって全国の諸大名もすべてこれにならった。水野忠敬も早めの2月19日に提出、旧藩主は知藩事に任命された。版籍奉還は、藩や武士たちの反対を恐れた政府の妥協案で、次の「廃藩置県」への段階的ステップでもあった。

⑤明治2年4月、水野藩は菊間村、大厩村、山木村、草苅村4か村への藩士屋敷建設について伺い、民部官の回答は「田畑を潰してまでの城郭同様の造営は無益であり、できるだけ簡易にするように」、5月の再伺いも「可能な限りひとまとめにするなど庶民の迷惑にならないように」との条件が付けられた」（シリーズ藩物語沼津藩）。城郭についての直接の指示ではないとはいえ、「廃藩」を意識したものといえよう。

⑥菊間藩は同時期に転封された諸藩にくらべて工事が遅れた。藩の財政的事情に加え、時勢の推移を見極めていたようだ。藩知事任命直後、藩を廃止するよう自ら願い出て慰留された。すでに藩を維持していく目標を喪失していたようにもみえる。

⑦版籍奉還で城造りは黄信号から赤信号に変わったが、工事はそのまま継続された。国の方針が定まらず、明治4年7月の「廃藩置県」で正式に中止、明治7年に「存廃令」で廃城となった。

⑧「廃藩置県」を政府の「謀略」だったという研究者が多い。新政府は戊辰戦争に勝って旧幕府領を没収したとはいえ、そのほかは相変わらず300藩が割拠して、それぞれ独自の政治を行なう「地方分権政治」が継続されていた。政府は諸藩の土地と領民を朝廷に返還する「版籍奉還」を強行したが、これも形ばかりで藩主は知藩事と名前を変えただけで領内の政治を取り続けた。ここにおいて政府は各藩の瓦解を待つより一挙に藩の解体を決意し、全国の知藩事を東京に集め、一方万一に備えて薩長土3藩の1万の御親兵を借り、その武力をもって「廃藩置県」を断行した。

広報いちはら 89

あわただしい維新史の一駒

駿河国沼津城主水野出羽守忠敬に、突如国替えの話があったのは慶応四年五月二十四日のことである。それというのもこの年の四月十一日、徳川慶喜は江戸城を明け渡したが、このとき朝廷では徳川の家名を立てる約束をした。田安亀之助（家達）が徳川の宗家を継ぎ、駿府城主として駿河国（静岡県）一円と遠江・陸奥両国において七十万石を賜わったのはそれから間もないことである。駿河、遠江両国内の大名は、そのとき上総および、安房国（国替えされたが、この中に菊間藩の水野忠敬（五万石）や、鶴舞藩の井上正直（六万石）が含まれていた。

忠敬は七月二十七日伊豆国戸田村に引き、八月晦日には沼津城の引渡しをすませた。九月二十一日には改めて上総国に転封され、菊間村に居を構えて菊間藩と称した。慶応を明治と改元して間もない日のことである。

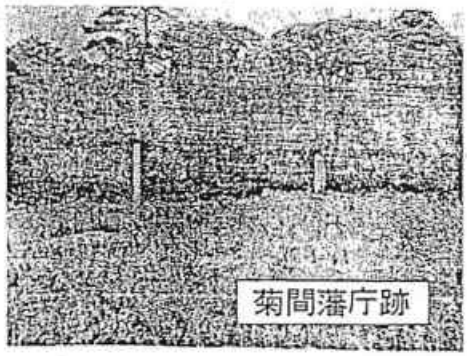
急な国替えであるから、沼津にいたときのような城を築くいとまもない。それに第一、徳川氏も一大名に没落しているご時世だ――。しかし戦闘を考えて陣屋は台地上に設け、東西の本道は坂により、北側は村田よる防禦を考えた。しかも本道は迂曲させ、南側には幹道を設けなかった。

忠敬は初め八幡の藤田屋旅館に仮泊し、のち若宮八幡の宮司邸を譲り受けてこれに移り、食事は八幡の東屋旅館から取り寄せた。水野氏の陣屋は今も菊間にある。

藩庁は菊間忠霊塔の西南に隣接する字「雲の塊」におかれた。広大な建物で、その最高層には時刻を告げる鐘が取り付けられ、鐘声は村内の隅々にまでも響いた。一説には藩庁は建て前まで終えたが、廃藩置県により取りこわされたともいう。そうだとすれば時鐘のある建造物は、望楼でもあろうか。今は畑となって、夏草の繁みに埋もれている。

市原市に移った菊間藩の人たちは六六〇人に及んだ。藩士は初め農家の離れなどに住んだがそのうち沼津の邸を解体し、菊間、草刈、山木、大厩などに移築した。沼津から八幡までは船運によった。

菊間の徳永台には、今もこの武家屋敷や惣長屋が数軒、当時の面影を僅かに伝えている。ここには旅館からすし屋、そば屋、浴場までも出来たというから、忽然と団地の形成される今日の有様と似ていたともいえよう。



雲の塊
医局や藩庁舎など跡地

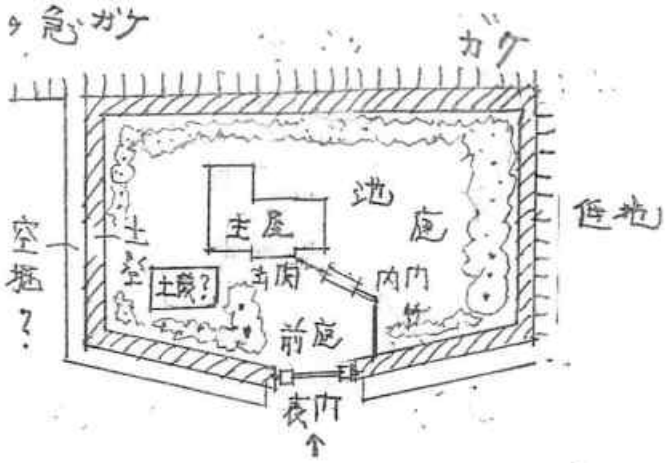
藩校明視館跡

藩校教授所

松翁神社跡

うらの急ガケ

水野忠敬邸 右空美↑ 跡地↓



⑨これにより知藩事は罷免され、諸藩は府県という単なる地方行政府となった。ここに政府を脅かす地方勢力は消滅し、にわかに「中央集権制度」が確立した。その後明治政府は徴兵制度を布いて直属軍を創設し、市民平等、秩禄処分、廃刀令によって武士を解体し、強力な中央集権制度国家を作り終えるのである。

4）医局は菊間村役場、藩校は菊間小学校となる～その後の菊間城

①工事中止時の菊間城工事進捗状況は

＊水野忠敬私邸(通称水野邸、字台ほか)＝明治4年2月上棟、御殿、庭園、土塁、空堀

＊水野忠寛邸(通称御殿＝下屋敷カ、徳永台)＝

＊藩庁舎(雲の境)＝土地を造成し、土台を回した時点で中止。残材は千葉県庁に転用された)

＊公がい(仮庁舎)＝明治3年12月上棟。

＊医局(雲の境)＝明治3年カ、のち菊間村役場となる

＊松翁神社（雲の境）＝明治元年12月浜町下屋敷から移築

＊藩校明親館（向原）＝明治3年。のち菊間小学校となる

＊大手新坂（座主窪）＝明治3年7月。坂下に記念碑がある

＊水沼（濠＝下北戸）＝のち埋め立てて水田になった。現在は荒れ地など

②沼津から従った家臣団は侍屋敷105、惣長屋56、総計1695人に及んだ。沼津から旧宅を解体、船で八幡湊に陸揚げ、あるいは村田川を遡って菊間村、大厩村、山木村に運んだ。現在の大型団地造成にも似ている。菊間台地、徳永台を中心にあっという間に「一大城下町」が出現したが、一瞬の夢物語に終わる。明治4年7月藩主に江戸居住が命じられると藩士たちは次々と離散していった。現在、菊間地区に残る旧菊間藩士子孫は数えるほどしかいない。

③市原のあゆみ＝水野氏の邸宅は旧八幡神社の祠官根本氏の旧宅を改造して用い、藩庁は菊間忠霊塔の西南に隣接する字雲の境におかれていました。広大な建物でその最高層には時刻を告げる鐘が取り付けられ、鐘音は村内の隅々にまで響いたといいます。（中略）急な移住ですから沼津の家を解体し、船で八幡や村田川を上り、菊間の地へ運んだといいます。（中略）移住当初は純農村の菊間の北に武家屋敷が軒をつらね、旅館からすし屋、そば屋、浴場までできて大変にぎわったということです。

④菊間藩士岡田程八日記＝藩庁の建設に先立ち、そこには壮大な層塔を建てた。（中略）雲の境には2階建ての医局も建設されていたが、この建物はのち菊間村役場として明治33年10月の暴風雨の日まで用いられた。

⑤深山家文書、菊間藩御用覚＝明治3年12月17日。去る15日公がい送り状のこと上棟につき郡中村々送り状のこと備餅一組ずつ下し置かれ候あいだ、明後19日四つ時、印形持参致し遅滞なく割元役所へ御出張なられべく候。

⑥都道府県庁舎、その建築史的考察＝（千葉県庁舎は）旧菊間藩の藩邸を移築し、手を加えたものという説があるが、（中略）「木更津県建屋」がこの菊間藩邸に該当すると想像されるが、先の文言では材の転用にとどまったとみるべきだろう。

⑦藩校「明親館」は、文化年間「きょう式館」として創設、元治元年教育熱心だった忠誠が本格的な藩士子弟教育機関として再興した。菊間転封にともない、明治3年菊間村、大厩村の入会地に新築、藩士子弟を教育した。明治4年の廃藩で木更津県に移管、明治6年学制発布で千光院で開校した菊間小学校に引き継がれ、明治25年まで使用された。

⑧城跡には遺跡はほとんど存在しないといっていい。雲の境藩庁舎跡、藩主や大殿様御殿、武家屋敷、藩校跡などは一面の畑や空き地ですっかりと夏草に覆われ、大手道となった新坂、武家屋敷なごりの「五の字道」、土塁と空堀を埋め戻した畑地などがわずかにその痕跡をとどめている。

⑨菊間城はどんな城作りをめざしたのだろうか、現況からその縄張りを推定することはできない。

5）「廃藩置県」で菊間県、木更津県、千葉県へ～封建制度の終焉

①明治２年10月、藩士は士族、准士族、卒の３階級、のち准士族を統合、明治５年11月あわせて士族に統合された。また、政府の「職員令」にともない共通職名を採用、大参事、権大参事、少参事などと改めた。

＊明治４年11月時点の士族、卒の内訳（シリーズ藩物語、菊間藩）
士族＝家禄20石130人、家禄16石61人
卒＝家禄14石145人、10石306人、９石２人。合計644人

②入封直後八幡宿に民正仮役所を設置、明治２年７月勧農仮役所と変わり、９月に菊間に移転した。

③明治４年廃藩置県が断行され、同９年代々の家禄も金禄公債（一時金）で打ち切られた。旧藩士たちは次々と菊間から離散していった。

④「四民平等」の結果、武士（士族）は「名字帯刀」の特権を失い、「徴兵制度」の施行で軍事も戦力外となる。経済的にも追い込まれ、誇りも傷ついた300万士族の怒りを「征韓論」に求めたのが西郷であった。結果、下野し「士族の乱」首領として生涯をとげる。「西郷人気」はその人柄と散り方にあるのかもしれない。一方、大久保の目には維新の功労者・士族も「中央集権国家」建設のためには邪魔者でしかない、２人の生き様の違いは「歴史の皮肉」でもあった。

6）菊間水野藩のその後

①廃藩置県後の忠敬は東京小石川本邸に居住した。明治16年「華族令」で子爵に叙爵、のち宮内省に出仕して、御歌所参侯を命じられ明治40年57歳で死去した。

②忠敬は藩士のその後の生活にも心砕いた。旧藩士と協力して八幡銀行（第47国立銀行）を興し、帰農のため能満に巨大な開墾地を開いたが成功しなかった。菊間小学校や地域社会をも熱心に支援した。旧藩士との親睦会を開催、名簿を作ったりもした。

③明治３年、若宮八幡宮神官・根本家旧邸に改造した忠敬邸は、忠亮、忠泰、忠和の４代にわたって別邸とされた。ほかにも小作地多数を所有、それらの管理は旧藩士の岡田寅三郎らが当たった。岡田家には、水野家「土地測量台帳」などが保存されていた。

お薦めします＝シリーズ藩物語・沼津藩（現代書館＝樋口雄彦）　参考文献＝市原市史、市原のあゆみ、水野藩士転籍者名簿、菊間藩士岡田程八日記、千葉文華、明治元年の藩の引越し（県文書館県史講座資料）、市原市の古文書研究、市原市菊間地区の歴史と文化財、松尾町史。八幡史学館、県文書館、岡田、瀧本、寺嶋家資料

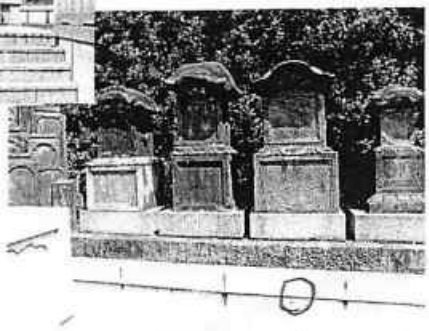
忠敬が仮住居とした千光院

菊間団地

伝通院の英樹院

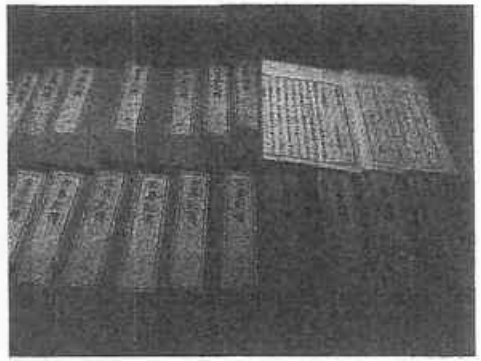
忠敬の墓

惣長屋の古写真



平成30年度　八幡公民館　主催事業

「古事記を読む」



講師　　平澤　牧人氏

（飯香岡八幡宮　禰宜　職）

日時　5月1日　5月15日　5月29日　全て火曜日　午後1時30分から3時30分

場所　八幡公民館　視聴覚室

古事記

国譲り神話を読む

一、天菩比神の派遣

天照大御神の命以て、豐葦原之千秋長五百秋之水穗國は、我が御子正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命の知らさむ國と、言依さしたまひて、天降したまひき。是に天之忍穗耳命、天之浮橋に立たして詔りたまはく、豐葦原之千秋長五百秋之水穗國は、いたくさやぎてありけり、と告りたまひて、更に還り上りて、天照大御神に謂したまひき。爾れ高御產巢日神、天照大御神の命以て、天安河の河原に八百萬神を神集へに集へて、思金神に思はしめて詔りたまはく、この葦原中國は、我が御子の知らさむ國と言依さしたまへる國なり。故れこの國に道速振る荒ぶる國神等の多なると以爲ほすは、何れの神を使はしてか言趣けまし、とのりたまひき。爾に思金神また八百萬神等議りて、天之菩比神、是れ遣はしてむと白しき。故れ天之菩比神を遣はしつれば、乃て大國主神に媚びつきて、三年に至るまで復奏まをさざりき。

是を以ちて高御產巢日神、天照大御神、また諸の神たちに問ひたまはく、葦原中國に遣はせる天之菩比神、久しく復奏まをさず、また何れの神を使はしてば吉けむ。爾に思金神答白さく、天津國玉神の子天若日子を遣はしてむとまをしき。故れ爾に天之麻迦古弓、天之波波矢を天若日子に賜ひて遣はしき。ここに天若日子、其の國に降り到きて、卽ち大國主神の女下照比賣に娶ひ、また其の國を獲むと慮ひて、八年に至るまで復奏まをさざりき。

二、天若日子神話

故れ爾に天照大御神、高御產巢日神、また諸の神等に問ひたまはく、天若日子久しく復奏まをさず、またいづれの神を遣はして、天若日子が淹しく留まれる所由を問はしめむとのりたまひき。是に諸の神たちまた思金神答白さく、雉名鳴女を遣はしてむ、とまをす時に詔りたまはく、汝行きて天若日子に問はむ狀は、汝を葦原中國に遣はせる所以は、其の國の荒ぶる神等を言趣け平せ

となり。何ぞ八年になるまで、復奏まをさざると問へ、とのりたまひき。

故れ爾に鳴女、天より降り到りて、天若日子が門なる湯津桂の上に居て、委曲に天神の詔命の如言りき。爾に天佐具賣、この鳥の言ふことを聞きて、天若日子に語りて、此の鳥は其の鳴く音甚惡し。故れ射殺したまひね、と云ひ進めければ、卽ち天若日子、天神の賜へる天之波士弓、天之加久矢を以て、其の雉子を射殺しつ。爾に其の矢雉子の胸より通りて、逆に射上げらえて、天安河の河原に坐します天照大御神、高木神の御所に遷りき。是の高木神は、高御產巢日神の別の名なり。故れ高木神、其の矢を取らして見そなはすれば、其の矢の羽に血著きたり。是に高木神告りたまはく、此の矢は天若日子に賜へりし矢ぞかし、と告りたまひて、卽ち諸の神等に示せて、詔りたまへらくは、或し天若日子、命を誤へず惡ぶる神を射たりし矢の到れるならば、天若日子に中らざれ。或し邪き心有らば、天若日子此の矢にまがれ、と云りたまひて、其の矢を取らして、其の矢の穴より衝き返し下したまへば、天若日子が胡床に寢たる高胸坂に中りて、死にき。(此れ、還矢恐るべしといふ本なり。)亦其の雉子還らず。故れ今に、諺に雉の頓使と曰ふ本是れなり。

故れ天若日子が妻下照比賣の哭かせる聲、風のむた響きて天に到りき。是に天在る天若日子が父天津國玉神、また其の妻子ども聞きて、降り來て哭き悲みて、乃ち其處に喪屋を作りて、河鴈を岐佐理持とし、鷦を掃持とし、翠鳥を御食人とし、雀を碓女とし、雉を哭女とし、如此行ひ定めて、日八日夜八夜を遊びたりき。

此の阿遲志貴高日子根神到まして、天若日子が喪を弔ひたまふ時に、天より降り到つる天若日子が父、亦其の妻、皆哭きて、我が子は死なずて有りけり。我が君は死なずて坐しけり、と云ひて、手足に取り懸かりて、哭き悲みき。其の過てる所以は、此の二柱の神の容姿甚能く似たり。故れ是を以ちて過てるなり。是に阿遲志貴高日子根神、大く怒りて曰ひけらく、我は愛しき友なれこそ弔ひ來つれ。何とかも吾を、穢き死人に比ふると云ひて、御佩かせる十掬劍を拔きて、其の喪屋を切り伏せ、足以て蹴る離ち遣りき。此は美濃國の藍見河の河上なる喪山といふ山なり。其の持ちて切れる大刀の名は大量と謂ふ。またの名は神度劍とも謂ふ。故れ阿治志貴高日子根神は、忿りて飛び去りたまふ時に、其の同母妹高比賣命、其の御名を顯さむと思ほして歌ひけらく、

天なるや　弟棚機の　うながせる　玉の御統、御統に　あな玉はや。み谷　二わたらす

阿治志貴高日子根神ぞ。

此の歌は夷振なり。

三、建御雷神の派遣

是こに天照大御神の詔りたまはく、亦曷れの神を遣はしてば吉けむ。爾れ思金神及諸の神白しけらく、天安河の河上の天石屋に坐す、名は伊都之尾羽張神、是れ遣はすべし。若し亦此の神ならずは、其の神の子建御雷之男神、此れ遣はすべし。且其の天之尾羽張神は、天安河の水を逆に塞き上げて、道を塞き居れば、他神はえ行かじ。故れ別に天之迦久神を遣はして問ふべしとまをしき。故れ爾に天之迦久神を使はして、天之尾羽張神に問ふ時に、恐し、仕へまつらむ。然れども、此の道には、僕が子建御雷神を遣はすべしと答白して、乃ち貢進りき。

爾れ天之鳥船神を建御雷神に副へて遣はしき。

四、言代主神の服従

是を以ちてこの二神、出雲國の伊那佐之小濱に降り到きて、十掬劍を抜きて浪の穂に逆に刺し立てて、其の劍の前に趺み坐して、其の大國主神に問ひたまはく、天照大御神、高木神の命以て問に使せり。汝が領ける葦原中國は、我が御子の知らさむ國と言依さしたまへり。故れ汝が心奈何にぞ、と問ひたまふときに、爾ち答白へまつらく、僕はえ白さじ。我が子八重言代主神是れ白すべし。然れども鳥遊取魚爲に、御大の前に往きて、未だ還り來ず、とまをしき。故れ爾に天之鳥船神を遣はして、八重事代主神を徵し來て問ひたまふ時に、其の父の大神に、恐し、此の國は天神の御子に獻りたまへといひて、卽ち其の船を蹈み傾けて、天逆手を青柴垣にうち成して隱りましき。

四、建御名方神の服従

故れ爾に其の大國主神に問ひたまはく、今汝が子事代主神如此白しぬ。亦白すべき子有りや、ととひたまひき。是に亦白しつらく、亦我が

子建御名方神あり。此れを除きては無し。此く白したまふ間しも、其の建御名方神、千引石を手末に擎げて來て、誰ぞ、我が國に來て、忍び忍びかく物言ふ。然らば力競せむ。故れ我まづ其の御手を取らむと言ふ。故れ其の御手を取らしむれば、即ち立氷に取り成し、亦劍刃に取り成しつ。故れ懼れて退き居り。爾に其の建御名方神の手を取らむと、乞ひ歸して取れば、若葦を取るが如、捻み批ぎて、投げ離ちたまへば、即ち逃げ去にき。故れ追ひ往きて、科野國の洲羽海に迫め到りて、殺さむとしたまふ時に、建御名方神白しつらく、恐し、我をな殺したまひそ。此の地を除きては、他し處に行かじ。亦我が父大國主神の命に違はじ。八重事代主神の言に違はじ。此の葦原中國は、天神の御子の命の隨に獻らむ、とまをしき。

五、大国主神の国譲り

故れ更に且還り來て、其の大國主神に問ひたまひしく、汝が子ども事代主神、建御名方神は、天神の御子の命の隨に違はじと白しぬ。故れ汝が心奈何にぞ、と問ひたまひき。爾に答白へまつらく、僕が子ども二神の白せる隨に僕も違はじ。この葦原中國は、命の隨に既に獻りぬ。唯僕が住所を、天神の御子の天津日繼知しめさむ、登陀流天之御巣如して、底津石根に宮柱太しり、高天原に氷木高しりて治めたまはば、僕は百不足八十垌手に隱りて侍はむ。亦僕が子ども百八十神は八重事代主神を御尾前と爲して仕へ奉らば、違ふ神はあらじ。此く白して出雲國の多藝志之小濱に、天之御舍を造りて、水戸神の孫櫛八玉神を膳夫と爲て、天御饗獻る時に、鵜ぎ白して、櫛八玉神鵜に化りて、海の底に入りて、底の波邇を咋ひ出でて、天八十毗良迦を作りて、海布の柄を鎌りて燧臼に作り、海蓴の柄を燧杵に作りて、火を鑽り出でて云しけらく、是の我が燧れる火は、高天原には、神産巣日御祖命の登陀流天之新巣の凝烟の、八拳垂るまで燒き擧げ、地の下は、底津石根に燒き凝して、桙繩之千尋繩うち延へ釣らせる海人が、口大之尾翼鱯さわさわに控きよせ騰げて、拆竹のとををとををに、天之眞魚咋獻らむとまをしき。故れ建御雷神返り參上りて、葦原中國を言向け和平しぬる狀を復奏したまひき。

八幡公民館主催事業

市原市を訪れた歴史上のヒーロー・ヒロイン

創価大学教育学部　小関　勇次

A：ヒーロー　十辺舎一九(1765～1831)

＜たぐいまれな下ネタ爺＞

略歴

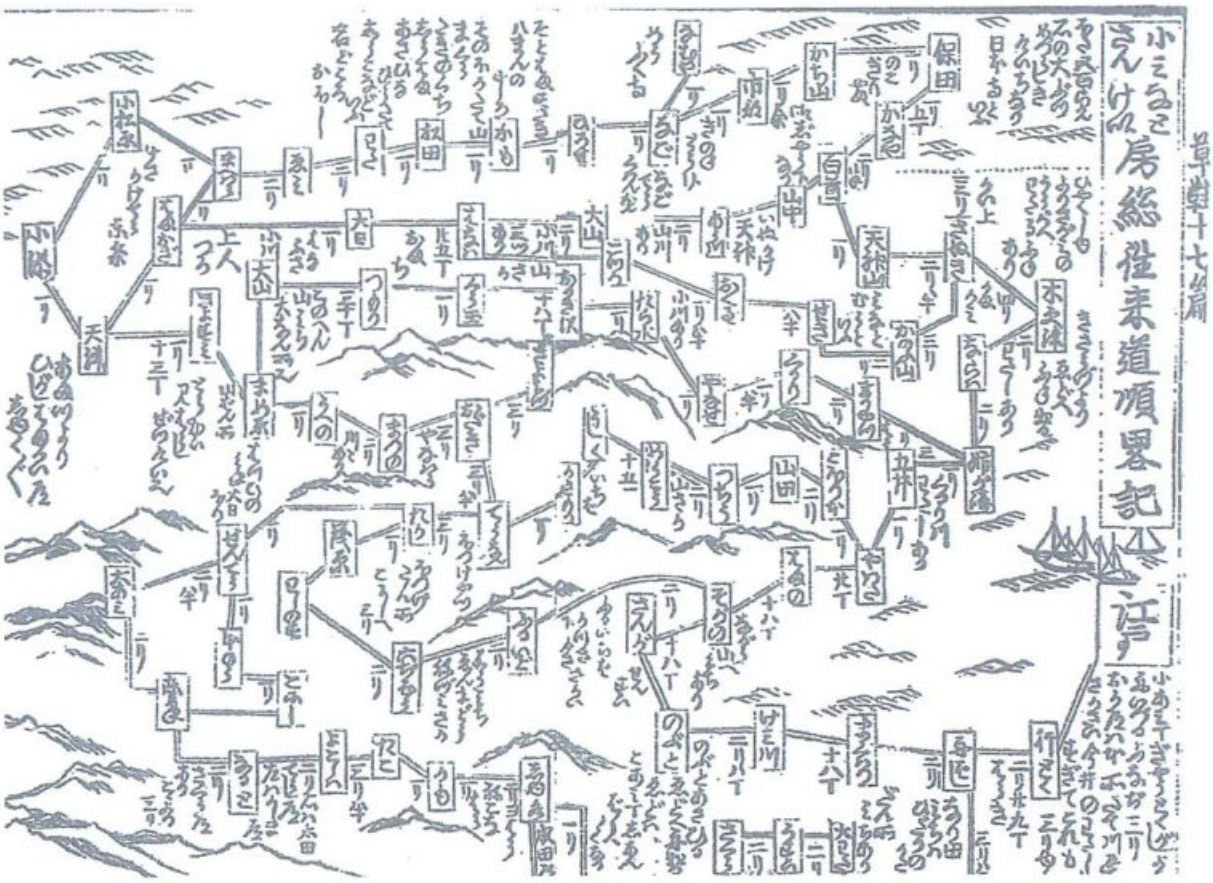
江戸時代後期の戯作者。町同心の次男。
大坂で材木屋の婿となるが離縁
再び江戸へ帰り、近松余七の名で浄瑠璃
『木下蔭狭間（このしたかげはざま）合戦』
(1789) などを合作。
江戸で書店蔦屋重三郎の居候　絵草紙界に
1802 年初編刊行がベストセラー ！！！
『東海道中膝栗毛』
毎年一編ずつ加え、1809 年まで計八編
江戸を振り出しの弥次、喜多の道中記。
『房総道中記』は正確には『方言修行金草鞋十七編』（むだしゅぎょうかねのわらじ 1827 年）
江戸両国河岸から房総一巡の道中記
小湊参詣（誕生時）の道中記で市原市の五井
姉ヶ崎・潤井戸・笠森など紹介している。
当時の地名、房総方面・久留里方面への道順や
江戸末期の習俗がわかる貴重な資料。　**＜行程の図参照＞**行徳より舟で出立、房総往還（浜街道）を経て、上総に入り五井・姉崎・久留里から小湊に至たり、それより、清澄豆原初日の峰、笠森に参詣し、長柄を抜け浜野に出る道を記す。

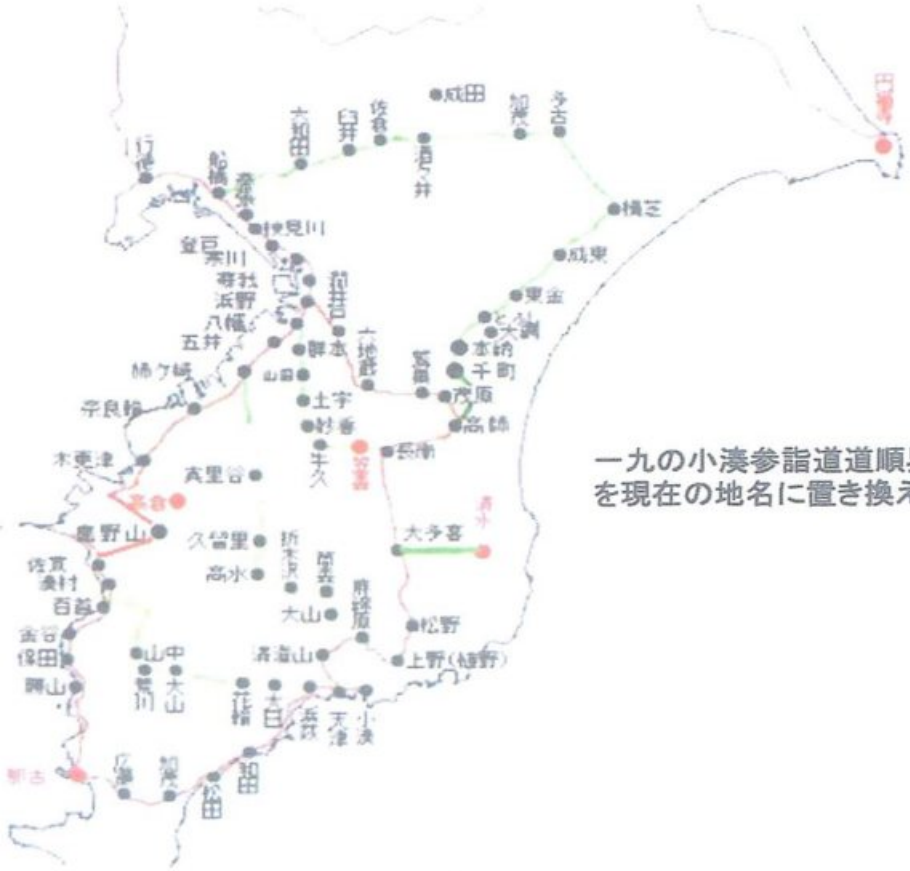
絵師　歌川国兼（うたがわくにかね）

江戸末期に江戸で出生。後、絵修行北尾政美
喜多川月麿さらに歌川豊国らに学ぶ。
一九とコンビを組んだ絵師は「北川美丸」
「歌川美丸（美磨）」「北尾美丸」→「北尾重政」
「東海道膝栗毛」のベストセラーに

「房総道中記」では歌川国兼
晩年の一九は新進気鋭の絵師を採用

<行程図>　実習１　古地図判読　市原市の地名を○で囲んでましょう。

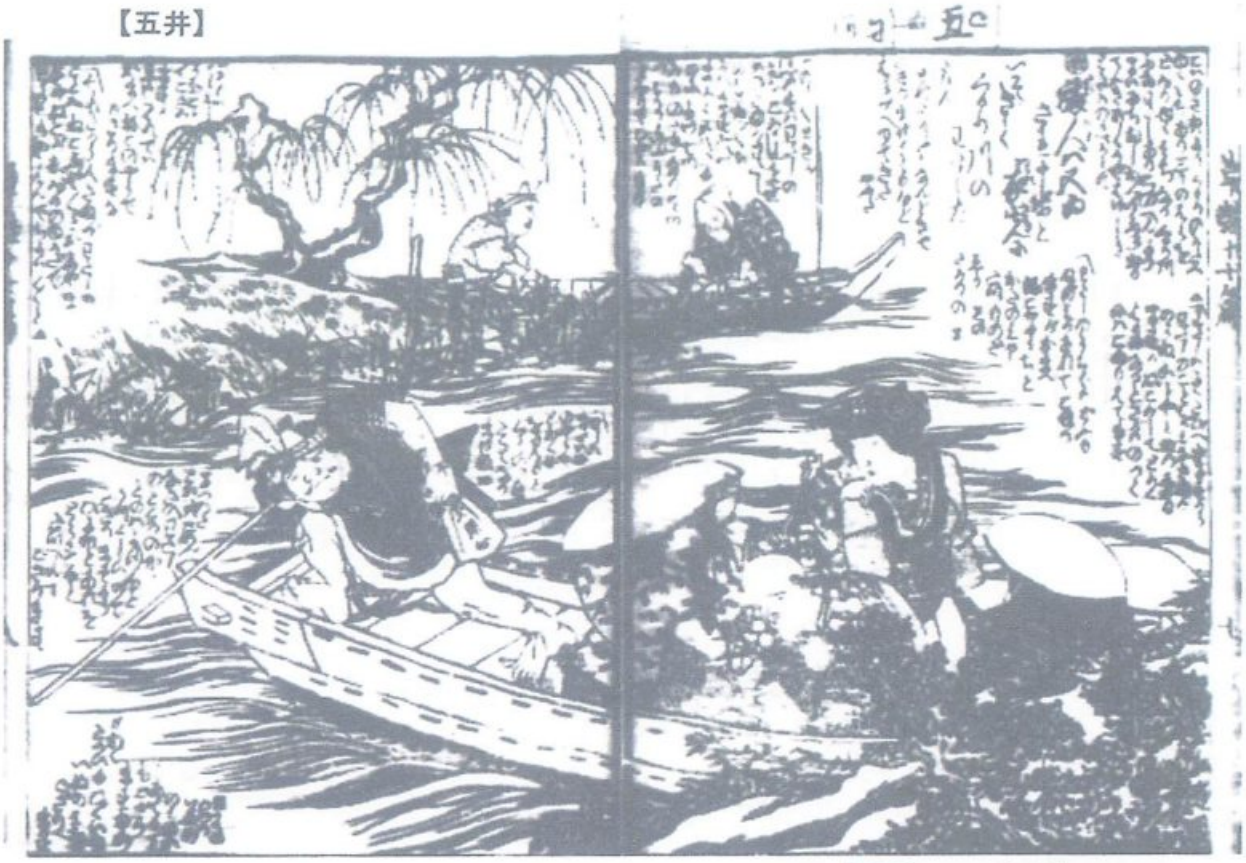




一九の小湊参詣道道順界記
を現在の地名に置き換え

実習２　「房総道中記」絵草紙の解読　五井・姉崎を訳してみましょう。

【五井】



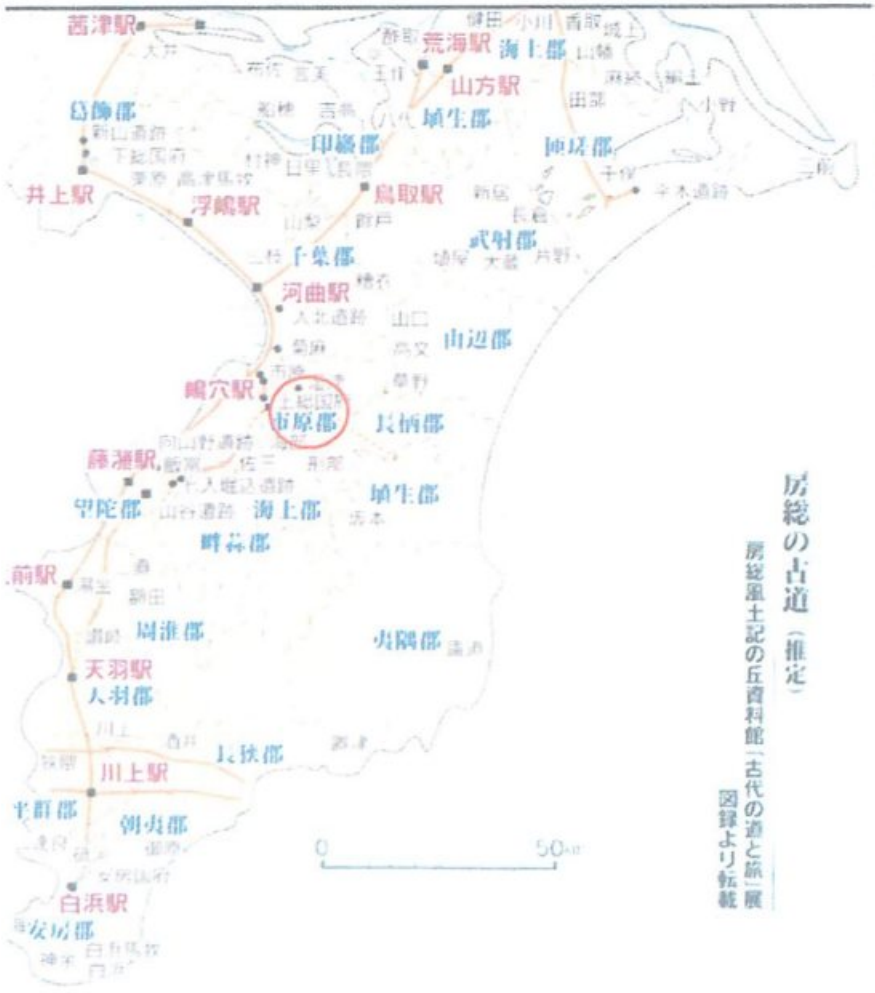
【姉崎】

Bヒロイン　菅原孝標女寛弘5年（1008年）京で出生～？　＜生涯文学少女源氏オタク婆＞

略歴

彼女は菅原道真の玄孫（やしゃご）
叔母が蜻蛉日記の著者である藤原道綱母
父は現在の高級官僚　上総介＝千葉県知事
上総暮らしをド田舎と嘆き、薬師如来をつくり帰京を願う。
13歳（1020年）、父の上総介としての任期が終了！
一家で帰国（上京）し、3ヶ月ほどの旅程を経て京へと入る。
更級日記は紀行文・回想録として記録はじめる？
「物語」源氏物語に対する執着が強く、特に『源氏物語』命のオタク昼夜を問わず読み耽ける。夢に僧が出てきて（女人成仏が説かれている）「法華経」を勧めるが、意に介さず「物語」を読み耽る。
結果➡火事に遭う＋飼い猫「大納言様の姫君」死すダブルショック！
1024年姉が二女を残して亡くなる。トリプルショック！！
一層「物語」に夢中！！！　➡「信心せよ」との啓示を夢に見る。
1040年　橘俊通と結婚（当時大変な晩婚）　一男（仲俊）と二女
1058年信濃守橘俊通死去　夫の赴任先更科の地を更級日記と決意
菅原孝標女の没年ははっきりしない。

実習3　帰京ルート検証　暮らした場所と帰京ルートを辿ってみましょう（枠内＝推定国府）



菅原孝標女の帰京ルートは諸説ある。

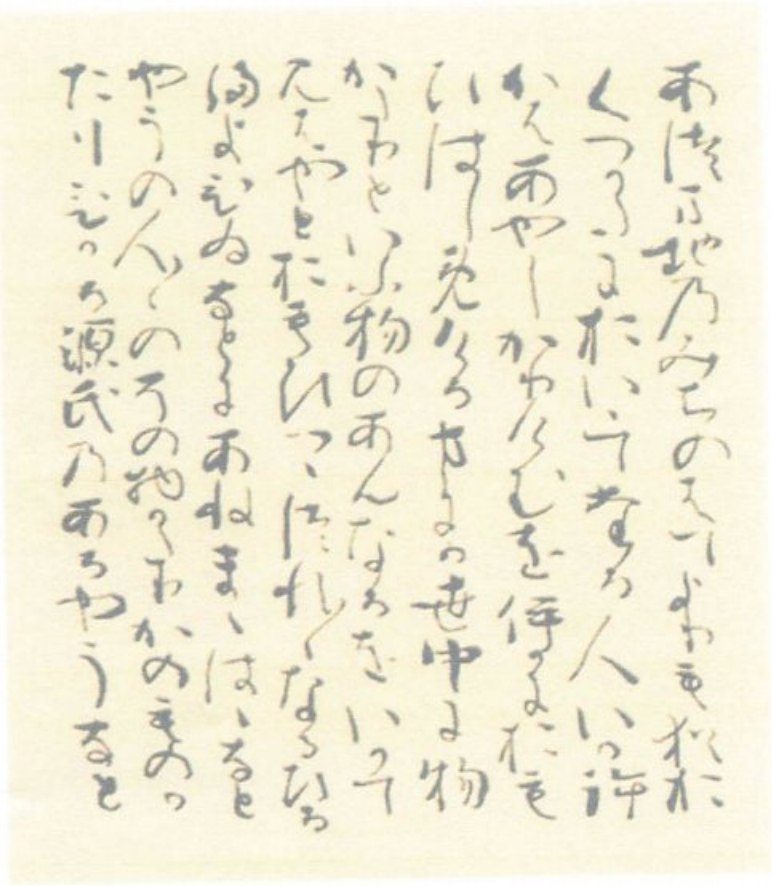
「更級日記」に出てくる地名を古東海道にあてはめる。

「いまたち」「いかた」「くろと」「ふとゐかわ」「まつさと」は、「いまたち」は馬立説があるが帰京ルートにない。景観を記述している、東西が海で、南に野原が広がる場所は嶋穴郷とする。

「いかた」は上総と下総の国境付近で古市場が該当し、「くろと」は千葉市登戸～黒砂付近・「ふとゐかわ」は江戸川の旧称で太日川。「まつさと」は松戸である。以上のように、古東海道を辿ったことがわかる。こうして三カ月かけて京まで帰っている。

実習４　現代語訳してみましょう。

大学の授業「更級日記」序段　原文：藤原定家 書



確か，高校で習った「更級日記」

「東路の道のはてよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを」いかに思い始めけることにか、「世の中に物語といふもののあんなるを、いかに見ばや」と思いつつ、つれづれなる昼間・宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、そらにいかでかおぼえ語らむ」

更級日記の　更級とは

五井の更級！？いいえ、長野県の更科です。現座の長野県千曲市で更科はそばの産地です。

この千曲市の更科は蓼科（たてしな）などのように信州の独特の地名で、～科は信濃国の語源となっています。実は、夫が晩年国司を務めた信濃国更科郡の地名で作品名の由来となった。

月もいでででやみに暮れたる姨捨に　何とて今宵たづね来つるらむ　菅原孝標女

夫の最後の赴任地の更科にある姨捨山には、姨捨伝説（棄老伝説）があり、映画「楢山節考」原作舞台となった場所でもあります。夫に先立たれ一人残された自分の境遇の「姨捨」と「姨捨山」を掛け合わせて詠んだ歌です。もしかすると「更級日記」は「姨捨日記」なのかも知れません。

A　十辺舎一九　『房総道中記』

五井の段

五井の先より久留里の方へ行く道あり。三里の原をとおり行く道なり。久留里川舟渡有り。
このへんより毎日、押送船出る。天気あしく風はげしきときはのるべからず。

旅人は五井　　されませと我先に　いそぎて　くるり　川のわたしば

旅人「ときに今日は何時でござりませう。よほど腹がへってきたようだ」もしもしときがしれずばわたしの目をごろうじませ目の玉が、わたしのは、ときどきちがい　まず六つまるく五八卵に，四つ七つ柿の種なり、九つは針という唄のとおりでござりまする。

「それは調法なことでござりますが、それではおまえ猫のようでござりますな」

「それだから人様が、わたしのことを猫じゃ猫じゃとおっしゃいますが、猫がしばりの浴衣で草鞋、脚絆でちょいちょいと」「わたしは、よく旅に出ますから、わたしのことを，みなさまが野良猫じゃとおっしゃりますが、猫かして、春先にとかくさかりのつくにはこまりはてます。

「わたしの家では、どぶも　鼠があふれてこまりますが、お前猫ならお頼み申したいものだ。しかし、そのさかりのついたときはごめんなさい」

「わしはまた犬のようでとかく女を見るとくらいつきたくてなりませぬ。くらいついたらごめん」

「わたしのところのかかどのは、よっぽどうつくしいいのでございますから、ちょっとあれをとられるとたいへんでござります」

「そのかわり、犬の蚤のかみあてることもございますから、とかくたかいもひくいも（器量の良い女もブスでも）いぬのじ（習性）でございます。

姉崎の段　全訳

姉ヶ崎、これよも、押送船出る。。このさき、椎津というところよりも三里の道をとおり、真里谷、久留里へいづる道あり。豆原、小湊へ行く道なり。小松原、小湊へ行く　本道は、浜野より潤井戸へ出でて行けども、この道、大多喜というより川多し。この姉崎より行く道は、黄和田、大山、初日の峰と行くときは、山一つ、川はなし。「大あばたのかか、茶をくみてさしだせに」

年若き　顔はあばたの　妹かと思えば　姉ヶ先の　かみさま

六部「芝居の六部は、よくだんまりの幕にでて、おちをとるが、その六部には本名があって、もとは何の何某というきっとしたものだが、わしには本名もないから、つまらぬ。そのかわり、足の達者なことにかけては十里や二十里歩くことはおちゃのこだ。昨日も宿へ褌を忘れて十里ばかり、ふってあるいてようよう思い出して、また、十里ふってとりにもどって、今度は十里しめてきたが、ふりでさへ十里や二十里歩くから、しめれるといくらでもあるくかもしれぬ。しかし、おりおりはふってあるくがよい。ちっとのあいだふってあるいたら、よっぽどふり太めたようだ」

「戯言言わずとさっさとあるかっしゃい。ふるのふらぬのと面倒な。わしのようにしっかりと褌はさんであるかっしゃい」

「今日はよい旦那をのせてわしどもの幸せだ。あとの立場でたらふく酒をのませてくださる。とてものことにさだめの籠賃と酒手をくだされて、ここからおりて行って下さるとなをよいのう棒組」

「きさまはとんだことをいう。それではあんまり冥加すぎるから、それよりか、きさまはそんなに酔いいはないのう、わしはひどく酔って、あしがふらふらしてあるきにくい。「どうぞ、ここからわしをのせて、旦那が先棒をかついで下さって、わしが籠にのり賃をましてくださるとなをよい」

B　菅原孝標女　『更級日記』　市原市の部分

原　文

あつま路の道のはてよりも、なお奥つ方に生い出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひ始めけることにか、世の中に物語といふ物のあんなるを、いかで見ばやとおもひつつ、つれづれなる昼間、宵居などに、姉・継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、そらにいかでかおぼえ語らむ。

いみじく心もとなきままに、等身に薬師仏をつくりて、手洗ひなどして、人まにみそかに入りつつ、「京にとくあげ給て、物語の多く候ふなる、あるかぎり見せ給へ」と、身を捨てて願をつき祈り申すほどに、十三になる年、のぼらむとて、九月三日門出して、いまたちといふ所に移る。

年ごろ遊びなれつる所を、あらはにこぼち散らして、たちさはぎて、日の入りぎはの、いとすごくきりわたりたるに、車に乗るとて、うち見やりたれば、人まには参りつつ、願をつきし薬師仏の立ち給へるを、見捨て奉る悲しくて、人知れずうち泣かれぬ。

門出したる所は、めぐりなどもなくて、かりそめの茅屋の、しとみなどもなし。簾かけ、幕などひきたり。南ははるかに野の方見やらる。ひむがし西は海近くて、いとおもしろし。

現代語訳

「あづま路の道のはて」と歌に詠まれた常陸の国よりさらに田舎に生まれた私が、どれほど人目にはみすぼらしく見えただろうに、何を思ったか、世の中に物語というものがあるのを、どうにかして見たいと思いつつ、昼間の暇な時や、夕食後の団欒のひとときなどに、姉や継母といった人々が、あの物語、この物語、光源氏のありようなど、所々語るのを聞いていると、話全体を読みたいと思えてくるのだが、どうして私の希望どおりにぜんぶ暗記していて語ってくれたりするだろうか。

たいそう心細いままに、等身大の薬師仏を作らせて、手洗いなどして、人目の無いときに密かに持仏堂に入って額づいて身を乗り出して、「京に早く上がれますように。物語がたくさんあると聞いています。ある限り見せてください」と、身を投げ出して額づいて祈り申し上げているうちに、十三になる年、父の任期が切れたので京に上るということで、九月十三日、門出して、ひとまず、いまたちという所に移った。長年の間遊び馴れた家を、外から丸見えになるまでに壊して家具などを取り外して、人々は引っ越しの準備におおわらわだ。日の沈みぎわ、たいそうひどく霧が立ち込めているところ、車に乗るにあたって家のほうを見やると、人目をしのんで参りつつ額づいていた、あの薬師仏がお立ちになっているのをお見捨て申し上げる悲しさに、人知れず泣けてきたのだ。門出にあたって一時的に滞在した所は、垣根などもなくて、茅葺の仮小屋で、蔀戸などもない。簾をかけ、幕などを引いた。南ははるかに野の末まで見渡せる。

都市史学会主催；「江戸と千葉」研究会共催　　内湾研WS#2

千葉市域臨海地帯の社会と空間―近世から近代へ

内湾研ワークショップ第２弾です。千葉市史編さん事業や、NPO 法人ちば・生浜歴史調査会の活動などを踏まえ、千葉市域と内湾との関わりの歴史を探ります。ミニ巡見も企画しました（別紙資料参照）。よろしくご参集下さい。（以下敬称略）

期日：2018 年 3 月 16 日（金）

第1部　10 時～12 時　　ミニ巡見「近世千葉の臨海地帯をあるく」

集合場所：　10 時 25 分　ＪＲ蘇我駅改札口　　昼食をご持参下さい！

＊東京駅発　ＪＲ京葉線９：３５快速――蘇我駅着　１０：１９

京葉線の車窓から市川港・船橋港・千葉港を眺めながら、先頭１両目が蘇我駅出口階段です。

巡見ルート（予定）：蘇我駅西口２番バス停 10:30 発バス――浜野 10:40……生実藩浜御蔵跡……浜野湊跡……旧生浜町役場（ノリ養殖ビデオ・昼食）……12:38 発バス―本千葉駅前 12:58 着……博物館 13:05 着

案内人：今井公子（NPO ちば・生浜歴史調査会）

＊巡見参加ご予定の方は、事前にその旨を下記宛てご連絡下さい。

千葉市立郷土博物館・市史編さん担当：土屋雅人 masato-tsuchiya@city.chiba.jp

第２部　13 時 30 分～17 時

ワークショップ「千葉市域臨海地帯の社会と空間―近世から近代へ」

会場：千葉市立郷土博物館（「千葉城」）１階　講座室

アクセス　JR 本千葉駅から徒歩 15 分。千葉モノレール「県庁前」下車、徒歩 13 分 。千葉駅前バスターミナル７番乗場から、京成バス「千葉大学病院行」「南矢作行」（千 03、千 03-1、千 04）で「郷土博物館・千葉県文化会館」下車、徒歩３分

内容：

問題の所在：後藤雅知（立教大）

報告１：土屋雅人（千葉市史編さん担当）「佐倉炭の流通と江戸湾・印旛沼」

佐倉藩領には江戸湾及び印旛沼という二つの水面が接しています。この二つの水面は佐倉炭の流通にどのような影響を及ぼしたのか、佐倉藩による炭の専売制が開始された時期を対象に、地域社会の様相から探っていきたいと思います。

報告２：大関（遠藤）真由美（千葉市史嘱託）「江戸内湾海岸防備と周辺地域の動向―佐倉藩の事例を中心に（仮）」

文政６年、幕府より命ぜられた江戸湾警衛のための非常時援兵に対する佐倉藩の対応を中心として、実際に人足や諸入用の負担が課せられることになる周辺村々の当時の状況及びその動向について考えます。

コメント：①今井公子（NPO ちば・生浜歴史調査会）　②多和田雅保（横浜国大）

司会：　吉田伸之（飯田歴研）

（終了後、懇親会を予定しています）

問い合わせ先

後藤雅知　mgoto@rikkyo.ac.jp　　多和田雅保　tawada-masayasu-vj@ynu.ac.jp

吉田伸之　yoshidanobuyuki@tokyo.email.ne.jp

1802　文責吉田ｎ

（内湾研　千葉市の旧臨海部ミニ巡見の御案内）　　2018.2.6　今井

北は千葉市花見川区幕張町から南は市原市境の村田川までの近世から近代前期の海岸線は、国道１４号（千葉街道）―３５７号（産業道路）のラインに付かず離れずで、ほぼ同じ海岸砂浜を国道が走っているといえます。

旧臨海部は旧海岸線から沖へ約 2.5 ㎞が埋め立てられて住宅地や工場になりました。その埋め立て地＝現臨海部の東部（旧海岸線）を走るＪＲ京葉線の車窓からは新木場駅を出ると荒川河口を渡り、葛西臨海公園の海を見ながらディズニーランドを過ぎ、市川の港湾、船橋港、千葉港中央埠頭・出洲埠頭が見えます。

市川港

市川塩浜駅→二俣新町駅

船橋港

二俣新町駅→南船橋駅

千葉港中央埠頭

千葉みなと駅

出洲埠頭

↓（出洲の南奥は旧寒川湊

今回は千葉市に来られる時に、是非このＪＲ京葉線を利用してみてください。
そして、近世近代の浜野湊・浜野宿を歩いてくださる方を、**京葉線終点の蘇我駅改札口で 10:25** にお待ちしております。

京葉線　東京駅発　９：３５快速
１両目が蘇我駅出口階段です。
蘇我駅着　10：１９
蘇我駅西側バス停　１０：３０発
浜野バス停　１０：４０着
徒歩で浜野湊周辺巡見

（ 浜野宿巡見資料 2018.3.16 ） 浜御蔵跡——浜野河岸跡——旧生浜町役場庁舎

↑ 1755（宝暦５年）浜野の澪絵図　　1946.2.3 米軍空撮 ↓

総房海陸勝景奇覧　文政初期　（船橋西図書館所蔵）

内湾研２０１８０３１６

197

総房海陸勝景奇覧　文政初期　（船橋西図書館所蔵）

内湾研２０１８０３１６

内湾研２０１８０３１６

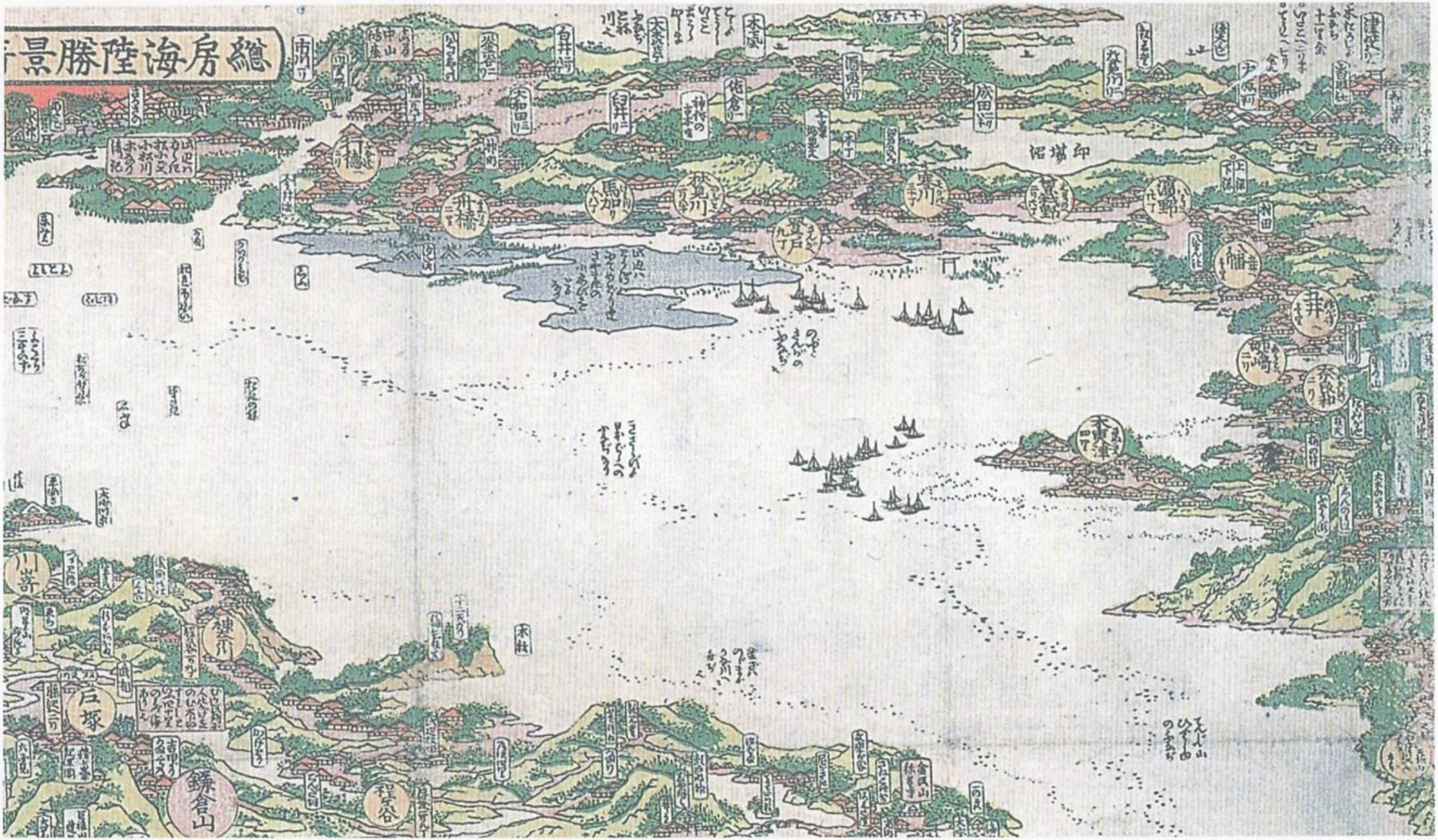
千葉市域臨海地帯の社会と空間

――近世から近代へ

（ミニ巡見）　近世千葉の臨海地帯をあるく

内湾研　２０１８０３１６

「総房海陸勝景奇覧」北斎　文政初期　（船橋西図書館所蔵）　389×528mm の部分　　『絵で見る図で読む千葉市図誌　下巻』506p



〽登戸宮野河岸遠浅なれば　三味や太鼓で船繋ぐ　　〽大黒の槌の打出の浜野とや　他から入込む宿の賑わい（一九）

＊　馬加～八幡河岸の船数調べ

	村高	海里数	家数	人数	馬数	五大力	押送り	漁船	漁人	史料年代	（千葉市史等）
馬加	824石２５４	6	350	1600	80			70	150	１７９３寛政5	史９－３６９ｐ
検見川	616石１４６	8	413	2354	31					１８５５安政２	史８－２３３ｐ
登戸	52石０１２	10				49うち29		5		１７６２宝暦12	史２－５３３ｐ
寒川	449石４０４	10	337	1732	25	40	20			１７４６延享３	史２－４２１ｐ
五田保	（千葉寺村新田	10				1	1			1871明治４	史２－３９５ｐ
曾我野	594石０８８	10	183	942		19うち6				文政４、天保13、	史７－５４５ｐ
浜野	753石６１８	10	193			12				文化11、天保10	史４－６５４ｐ
（市原）八幡	1390石０３０１	10	129	505	9	30うち12				１７７３安永２	市原６集－３９

（うち＝船株のうち稼働船数のこと）

・　ノブト新地はイカリがつなぐ　今朝も出船よ三艘でる
・　千葉で近江屋　曾我野でふじ屋　浜野の増田屋にゃ　かなやせぬ

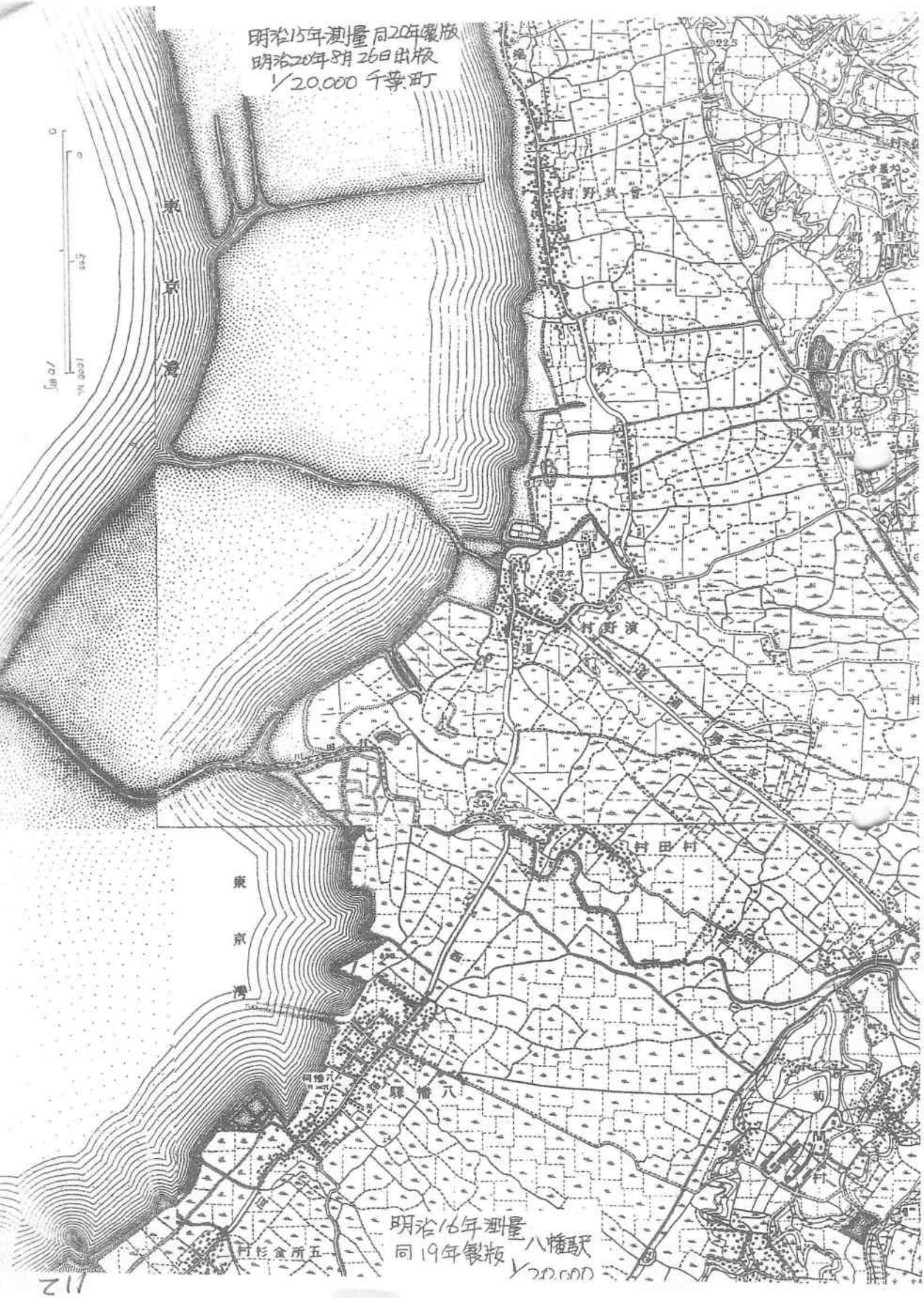
＊＊　浜野河岸津出し村名
（年貢米・米・炭ほか
（江戸後期～明治初年の間
に散見の受取証による）

夷隅郡万木村
〃　引田村
長柄郡千沢村
〃　猿袋村
〃　北日当村
〃　法目村
〃　北塚村
〃　小林村
〃　山根村
〃　谷本村
山辺郡片貝村
〃　福俵村
〃　台方村
〃　丹尾村
〃　小食土村
〃　小山村
千葉郡平川村
〃　佐和村

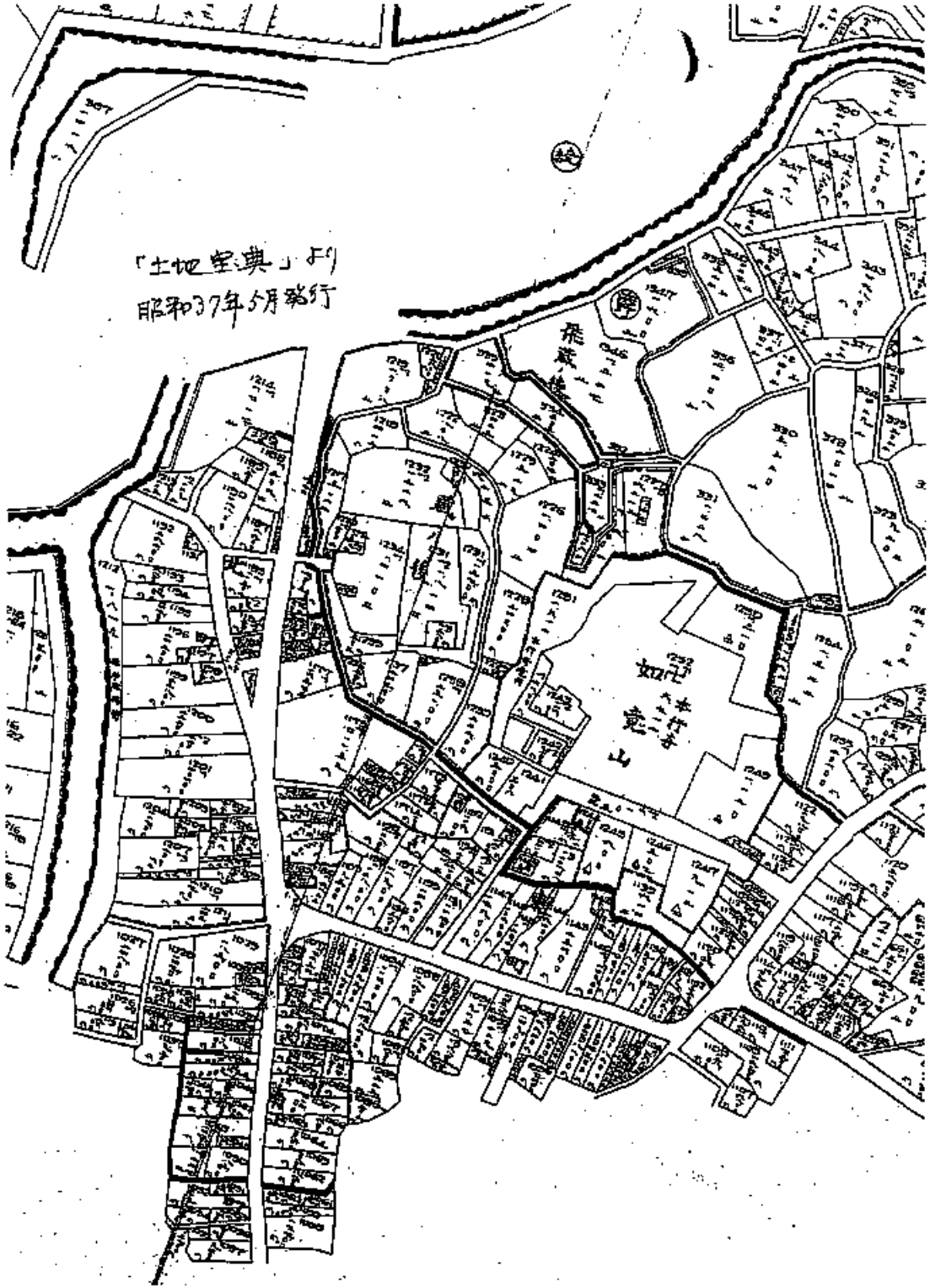
（公用通行御用留に挟み込まれていた当触れ
野田宿（誉田）問屋より触れ当て馬数４５疋）

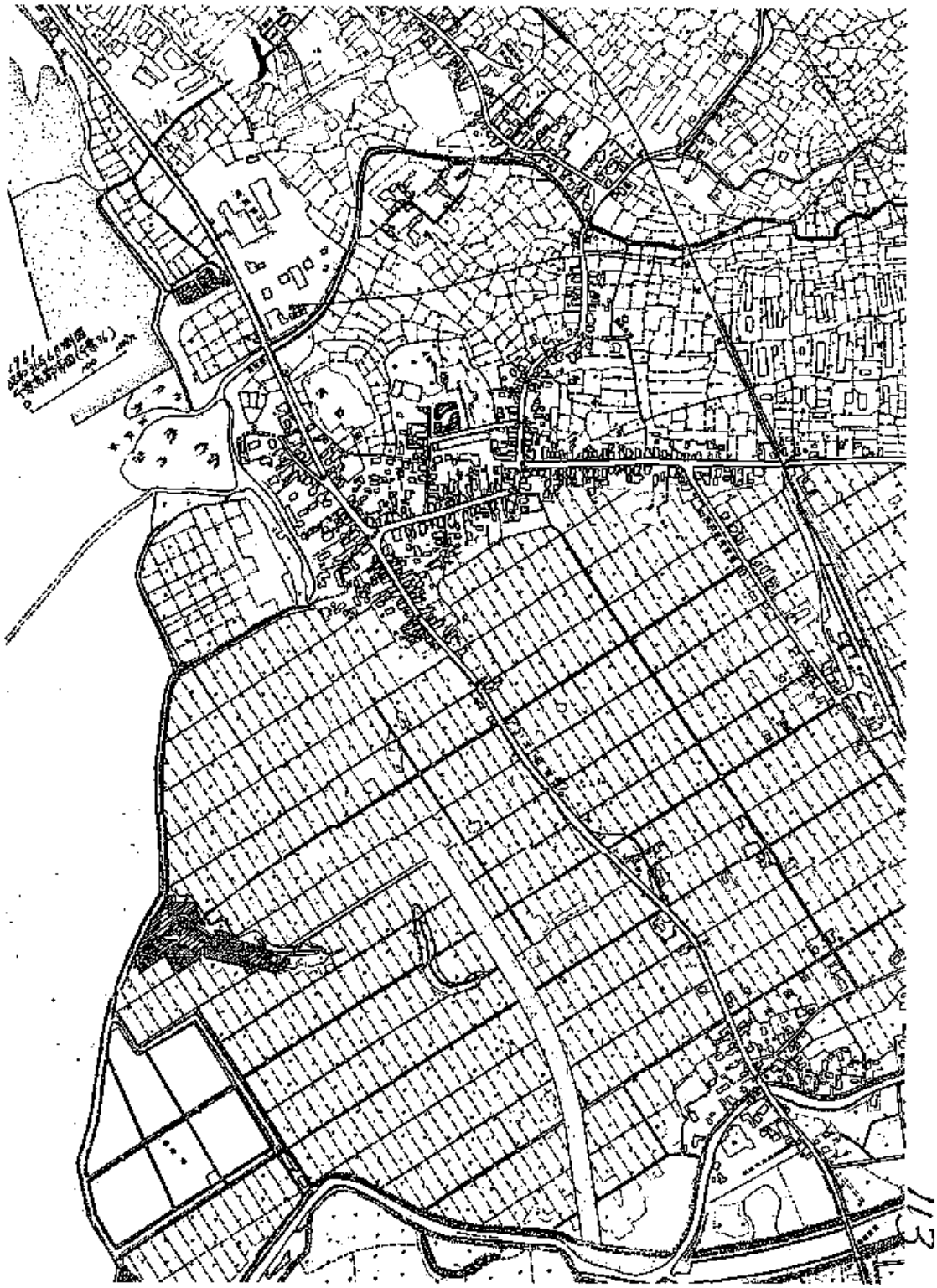
∴　天保13年　幕府代官お買い上げ籾御城米の浜野河岸津出し　　（誉田森田家文書　公用通行の御用留より）
廻状（御用状）宛先は　浜野河岸　御城米用達　船宿新左衛門（鈴木＝山武屋？）
代官篠田藤四郎手附が本納御用先から廻状を発し本納一土気一野田一浜野宿々役人中へと順達

明治15年測量 同20年製版
明治20年8月26日出版
1/20,000 千葉町



明治16年測量
同19年製版
八幡駅
1/20,000


「土地宝典」より
昭和37年5月発行



下総国香取郡浜野村
宝北町和名会図「明治初年」
（敏豊利吉雄家所蔵）

＊江戸後期～明治初年の浜野河岸運送宿（荷宿を含む）

日置喜左衛門　完倉忠兵衛　鈴木新左衛門　万屋甚右衛門
和泉（飯豊）利八　完倉惣兵衛　小河原半吉　角や五郎右衛門
石橋久兵衛　斉藤武兵衛　伊勢屋（草薙）久七　米屋源蔵

石橋造船所について

（生浜地域誌 12 号）

当会事務局長白井孝氏より、石橋造船所の昭和１１年１２月「ふなおろし」写真の提供がありました。満艦飾の祝い旗がはためき、正装した船主関係者と船大工がならんだ豪勢な進水式の記念写真です。戦後も「ふなおろし」の時には餅投げなどの振るまいがあるので浜野の人々は見物にゆき、その様子を記憶しています。石橋造船所の２代目石橋熊雄様（大正１４年生）と幸三郎様（昭和５年生）、実様(昭和１１年生）に造船の話をうかがいました。

熊雄様から頂いたメモによりますと、初代熊吉氏（明治２７年生）は浜野の長嶋造船所に弟子入りし、にたり船、五大力船、伝馬船を建造した。大正の初め独立して石橋造船所を設立。大正１２年の関東大震災で船が不足し、筏まで使っていたので、どんどん製造した。昭和１８年には海軍の火薬運搬船も造った。終戦でダルマ船、伝馬船の製造が主となり、昭和３０年２代目にかわる。

昭和３５年川向うの塩田（現在の共栄機工のところ）に造船所を移転、３９年鋼製バージ（ダルマ船）製造・修理。実氏は川鉄で溶接の研修をし、鋼製の造船を手伝った。４６年頃にはバージの船頭の人件費が高くなり、４７年には３００トンのバージでは用が足りなく５００トンのバージも製造。大型化や進水・船出しのため、この造船所の場所では製造不能となり昭和６１年１２月で終業した。と書いてあり時代の風が見えるようです。（芳郎・石井・今井）

造船について聞き書きメモ（２０１０・２・１６）

・船の材木は杉。山師といって、森や林をみて歩き、杉の大木を布田方面までさがして歩く人がいた。木が見つかると船大工棟梁の熊吉氏も出掛けて、平山や、遍田（森家など）からも原木を購入した。板の接合部に浸水止めに差し込むマキハダは、鵜の森から、川鵜で枯れ始めた杉の木を買って、杉皮を使用した。松は梁材に使用し、欅は化粧材にした。

・原木を板に挽くのに、年がら年中、大のこぎりでギーコギーコ製材する人もいた（脇から見ると、のどかな風景だったようです・・・）。

・伝馬船の底板は厚さ5寸（１５㎝）、側板は厚さ3寸、幅は3尺（９０㎝）程の杉板を使うので、近隣に材木が無いと木場で米材を買った。

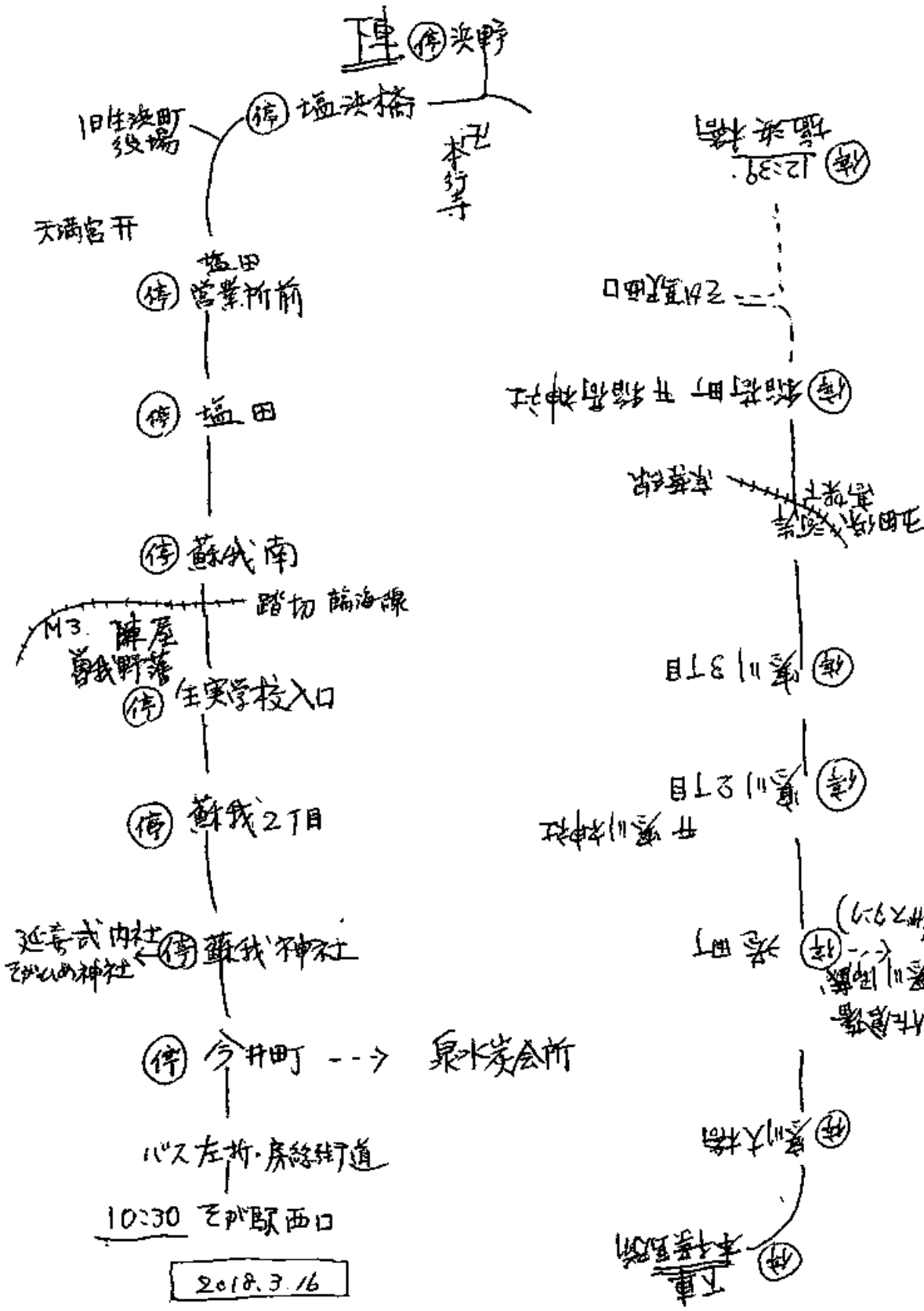
・船釘は、八幡宿の中島さんが造っていて購入した。

・ダルマ船は、畳や建具も設備する。木造船は、4～5人で半年掛かったが鋼鉄船（屋根や、上の方は木材）では4～5人で1か月で出来る。

・「ふなおろし」をやっても浸水具合などの手入れをして1週間くらいおいて、大潮の時に船を出す。棹で沖へ出すと、寒川丸がきて寒川港へ曳航し、船溜まりへ一度係留した。それから東京や横浜の船主が引取り、曳航していった。澪の深さや橋の高さを見計らいながら新造のダルマ船を国道下を通し、はばたき橋下を通し臨海鉄道の鉄橋下を通って海へ出すのは大変だった。

聞き書きの続きは次回にも掲載の予定です。

石橋実様所蔵写真


10:30 そが駅西口
バス左折・唐総街道
今井町 --> 泉水炭会所
蘇我神社
延喜式内社 そがこめの神社
蘇我2丁目
生実学校入口
M3. 陣屋 蘇我野落
踏切 臨海線
蘇我南
塩田
塩田 営業所前
天満宮 开
旧浜野町役場
塩浜橋
浜野
浜野本行
塩浜 12:39
ZAR駅西口
船橋市 千葉県船橋神社
江田信号 高架下
京葉線
蘇我町3丁目
蘇我町2丁目
千葉県神社
蘇我町 (神スタンド)
蘇我町 (ケーキ)
大宮町
八千代緑台
蘇我町入口
本千葉駅西口
下車

2018.3.16